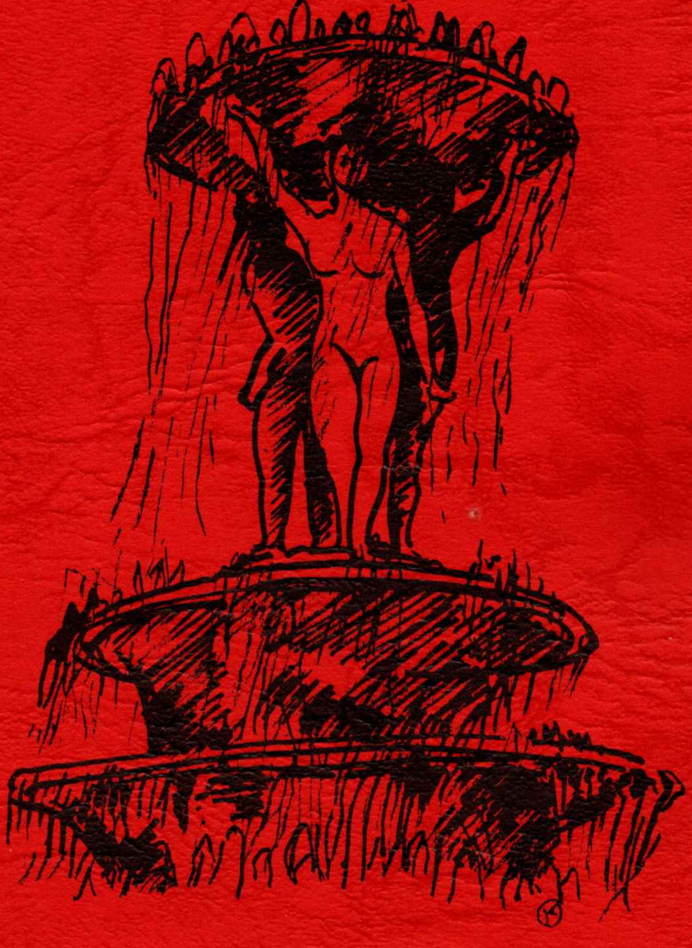
會　報

第　11　号

平成４年度



滋賀県老人大学校同窓會

目次

1. 挨拶 …… 1頁
2. 支部だより（支部活動状況）…… 7
3. 会員だより（文集）…… 23
4. 会員名簿 …… 97
5. 平成五年度定期総会次第 …… 148
6. 平成四年度経過報告の概要 …… 149
7. 平成五年度事業計画 …… 149
8. 平成四年度終身会費収支決算報告書 …… 150
9. 平成四年度同窓会会計収支決算報告書 …… 151
10. 平成五年度会計予算案 …… 154
11. 同窓会役員名簿 …… 155
12. 同窓会会則・憲章 …… 156
13. 同窓会表彰内規 …… 158
14. 編集後記 …… 159

十五星霜　滋賀県老人大学校と同窓会

同窓会長　中川長三

輝く平成五年のはじめ、皇室の御慶事に国民斉しく満腔の祝意を表し奉る。クリントン新政権の〝国家のために苦難をのりこえて最大の協力を惜んではならぬ〟とは、日本の民主主義強化への至言でもある。まさに萬物伸長の春、待望久しく十五年、悲願をこめた滋賀県老人大学校、威容堂々の新校舎殿堂が、草津市南笠町新池地先に完工出現。見上げるよろこび何にたとえようか、このよろこびを待てなかった逝きし同窓諸兄姉に思いを馳せれば感無量のものがある。生かされてこの盛運に遭い得た全会員の皆さんと双手をあげて高らかに母校の弥栄を祝おうではないか。会報第十一号に集う会員の多幸を祈りつゝ。

すぎこし十五星霜の母校並びに同窓会の歩みを校誌（大学）及び会報、議事録（中村副会長の）等を参考につづってみたい。

滋賀県老人大学校は、昭和五十三年七月十四日建学の精神を高くかかげて盛大に開校式が挙行されたが、ご承知のように校舎も教室も施設設備のない大学であったが、この開校に当っての県当局所管課（藤野氏）、委託をうけた滋賀県老人クラブ連合会の広瀬局長（校誌〝大学〟の表紙揮毫）や老大の国松事務長（同窓会報の表紙の揮毫）などの一方ならぬご苦労を心から多としたい。

かくて昭和五十五年度は県費九百四十八万円の支出。学校長は武村正義知事。副校長は品矢静雄県厚生部長で現校長稲葉稔知事及び（川村仁弘）副校長は昭和六十一年七月の就任。県費支出も五十八年度は九百八十五万円、平成四年には四千二百四十四万七千円となった。開校当初何一つない名ばかりの大学に校舎教室を貸して下さったり通学の便をおしみなく与えて下さった、八幡市当局のご厚意は今に忘られぬ感激そのものである。

講師も専任は一人もなく兼任一点張りで、しかも遠方からのご出講、今もそのままの状態で立派な先生にどんなにか大きいご負担であることか。これら数々のご苦労を学生は身にかみしめて苦難に耐えて寒い日など暖房のない部屋で身を寄せ合って震えながらの勉学に勤しんだが六十五歳以上の老人よくもたえられたものと今更感慨無量だ。

研修旅行などで他府県の老大を見る度になんとかならぬかと昭和六十一年十一月一日苦労した九五二五人の署名と県会議員八名

の紹介の請願書を知事と県議会議長に提出。米原校が設立されいささか〃南高北低〃とも関連してか北の学生に福音となった。また昭和六十一年十二月五日模擬議会を開いて母校の発展は県政への大きな貢献と胸張った。こんな老大のシンボルの校旗が燦然と樹立された時の感激は今も瞼にのこっている。胸間にきらめくバッチを誇りに蛍雪の功を一つづつ積みかさねて行った。伊藤雪雄先生作詞の校歌邃深遠幽　の中に高らかに建学の精神とわれらの行方を指さされ志気をいかほどか鼓舞されつゝ今日に至っている。

老大の進展と相呼応してわれらの同窓会は開校二年後の昭和五十五年九月二十二日、一年課程福祉学科修了者十一名、二年進学者六十九名、第二期入学生八十名計百六十名の少数精鋭が誇りをもって草津会場に参集して結成をうたい上げたのであった。爾来同窓会憲章（昭和五十七年三月八日制定）を高らかに掲げつゝ会員一致団結して活動したが県下一本体制の同窓会でなくてそれぞれの地域のローカルカラーを満喫した支部経営めざして八支部の結成となった。

〃大津〃支部支部(長)菴原忠男。〃湖南〃（草津・守山・滋賀郡・栗太郡・野洲町・中主町）(長)伊藤博祐。〃甲賀〃(長)丸市喜好。〃湖東〃（八日市・蒲生郡・神崎郡）(長)畑中保治郎。〃近江八幡〃(長)小西一郎。〃彦根愛犬〃（彦根市・愛知郡・犬上郡）(長)近藤辰次郎。〃湖北〃（長浜市・坂田郡・東浅井郡・伊香郡）(長)宮崎程彦。〃高島〃(長)岸田七次。これら各支部は支部長を中核に僚友の団結も堅く地域老人指導の先陣をうけたまわって活躍をつづけ高い評価をうけつゝあること自他ともにゆるす存在である。

本部機構も、総務部（総括・企画・渉外）。広報部（調査・会報）。研修部（研修）。に改めてそれぞれのベテラン部長の敏腕に花盛りで他の同窓会には見られぬ行事を展開している。会報も第十一号となったが林部長はじめ部員諸君の苦労を思うこと切なものがあり、全会員全投稿と会員名簿の合編はその特色だろうか。

研修事業もびわこバレー、比叡山延暦寺宿泊行、奈良少年刑務所、自衛隊（陸上・海上）、京都嵯峨野紀行、高松塚遺跡探訪等枚挙に暇なき研修の深さを会員の胸に幾多のこしていることである。同窓会バッチが出来てどこへでも、滋老大卒業生の誇りを持ちつづけている。この他、年間二〜三回程度の公開講座が開かれる。もう何回になったか会を重ねるたびに益々盛大となりいつも満堂立錐の余地なき盛況で名士・学者・芸能家・評論家等あらゆる世界から超一流の講師を招聘してバラエテーに富んだもので、

〃公開講座集〃の刊行もあって、永久に文化の香をとどめることにも力めている。

かくて歳うつり行くままに　逞しい足跡をのこし輝く成果をあげつつ

滋賀県老人大学校創立十周年記念式が、平成元年三月十一日、盛大に挙行され、顕官名士が多数参列されて、限りなき校運の隆昌を祝福された。同窓会も記念品（天台座主山田恵諦師揮毫の白扇等）のために多大の醵金を潔しとし、米原校庭の噴水前に亭々と伸びゆく記念植樹〃くろがねもち〃を石碑と共に末永く校運の隆昌を祈った。

二年後には、同窓会結成十周年に当り、平成三年十月十五日の佳き日をトし、大津市アヤハホテルを会場に、多数の来賓をむかえて、会員三百数十名が県内八支部を代表して参集して盛大に結成十周年を祝い、母校に青銅大花瓶と華台を寄贈して永久に校運の弥栄を祈念した。

老大が永い間、滋賀県老人クラブ連合会の委託から、県レイカディア振興財団の主管下になったが、老人福祉向上の中で抜きんでる活躍をつづける老人大学校によせる県民の期待の大きさを身に痛感すると共に、われらの使命老人の生き甲斐を高め、地域老人福祉をはじめ社会の発展に貢献すべきを体して日々のたつきに邁進したいものである。

老来、気、体ともに〃老懶〃を辿るわれらの日々であってもせめて今日、いや今を充実して老大卒業生の真面目に生きようではないか。

聳える新校舎　記念の木　天までとどけと　校運の隆昌と本会の弥栄を祈ってやまない。

この拙稿をおわるに当って、特筆いたしたいのは、さなぎだに繁忙をきわめる老人大学校の校務を、堀野徳雄・野田まり子のお二人で処理されつゝその上同窓会の会務を骨身惜しまず御苦労いただいていること。常日頃拝むように感謝しています。会員の皆さんと共にあらためて深甚の謝意をささげます。

天寿を全うされた老人大学同窓会初代会長同顧問
大橋 儀平さんの遺徳を偲んで

二期生 元持 孫太郎

明治二十五年五月三十日、旧東甲良町大橋久吉さんの二男として誕生された儀平さんは、明治・大正・昭和・平成と激動の一世紀を真実一路に生きぬかれ、遂に花咲く春を目前に大往生をおとげになりました。その偉大なる御生涯を回顧し感激で胸のつまる思いが致します。あの有名な佐藤一斉の「…老にして学べば死すとも朽ちづ」を「座右の銘」とされた儀平さんは、昭和三十九年七十二歳の時「字」老人会の地位向上、福祉増進のため「和楽会」を結成され、更に町老人会長として、また県老人会理事として活躍されました。昭和五十三年老人大学が開設されるや「いの一番」に八十六歳で入学。遠路をいとはず雨の日、雪の日も孜々として通学され八十八歳、米寿の時武村学校長（県知事）より晴の証書をいただかれ、更に卒業生を代表して謝辞をお述べになりました。同窓会発足するや初代会長として老大発展のため老いの身を顧りみず心血を傾注して努力され、昭和六十二年五月二十二日には本会の顧問に推挙、翌六十三年六月二十二日には本会発展のため尽瘁の功績を讃えて感謝状を贈られました。儀平さんは常に神仏を崇敬されると共に温たかい御家族にみまもられて平成四年九月十五日「敬老の日」には百歳の長寿を祝して内閣総理大臣より証書並に記念品を贈られました。その御遺徳・御功績は枚挙にいとまがありません。今は只々御冥福をお祈り申し上げると共に御遺志を受け継ぎ老大一層の発展に努力をつくし少しでも社会のお役にたちたいと覚悟を新にする所存であります。

推挙状

大橋儀平殿

本会はあなたを顧問に推挙する光栄を有します

昭和六十二年
五月二十三日

滋賀県老人大学校
同窓会長 中川長三㊞

滋賀県 大橋儀平殿
明治二十五年五月三十日生

あなたはよく百歳の長寿を達成され
誠に慶賀にたえません
敬老の日に当りこゝに記念品を贈り
これを祝します

平成四年九月十五日
内閣総理大臣宮沢喜一㊞
（記念品大型銀盃）

「清富の思想」

事務局　堀野徳雄

昨年九月出版以来約半年で、数十万冊売れている「清貧の思想」という書物があります。これは、生活を極限にまで簡素化し、心の豊かさを求めた、西行・兼好・芭蕉・良寛など清貧に生きた人々の系譜をたどり、いま、いかに生きるべきかを問い直した書です。

著者の中野孝次さんが、この中で述べておられることは、いずれも、日本古典文学の中に容易に見いだすことができる内容であって、図書館や巷の本屋へ行けば類書が必ず在るものです。

したがって、この書物の中に特に新しい思想が秘められているわけではありません。むしろ、その「思想」よりも、昨年に発刊以来既に数十万の人々がこの書物を買いもとめていることに注目したいのです。

いま、世紀末の無常感のせいか、人々が成熟したからか、中世の遁世遍歴の詩人や隠者、その文学と生き方に共感を示す人が増えているのです。

このことは、「清貧」という、現在の日本人が忘れかけていた、日本文化の伝統が、中高年の間で見直され「清く貧しく美しく」生きる生活が求められている左証であるといえます。

消費を美徳とする、過去を捨て、贅沢を避け、人生の完成期を清く生きたいという人達が大勢いることに、関心を抱かずにはいられません。

しかし、この豊な時代に、方丈記の鴨長明のように、山中の三坪たらずの庵に住むことはできません。この本から教えられることは、日本人は貧しい時代にどのように精神を強く持ち、身を処すかは昔から教わり経験の積み重ねもありますが、いまの時代のように、日本の歴史始まって以来ともいえる、物の有り余る豊な時代の「生き方」については、過去に例が無いため戸惑うことが

少なくないということです。

したがって、現代のこの豊で富んだ時代のただ中にあっても、物や金にとらわれない、「清富の思想」がいま求められているように思えるのです。

おことわり（一部支部会誌に掲載済）

支部だより

大津市部活動状況

支部長　下司　清

滋賀県老人大学校の発展に伴い、同窓会員も年々増加し、当支部も平成五年四月一日現在、二〇七名となり誠に喜びに絶えません。

平成四年は、役員改選（別表の通り）の年に当り、支部活動も恒例の行事のみに終止したような感じですが、幸い、役員、会員の皆さんのご協力を得て、活動も円滑に運ぶことができましたことを嬉しく思っています。

平成四年度の事業

一、本部事業

1. 総会　六月十二日　於彦根福祉センター
   参加者　二七名
   当番支部の皆さんや、出席された支部員さんご苦労でした。
2. 奈良研修旅行　十月一日　参加者　二五名
   古墳盗掘の多い事は残念ですが、現場の説明により大いに参考になった。

二、支部事業

1. 平成四年度支部総会　四月四日　於老人福祉センター
   出席者　七三名
2. 支部親睦ゲートボール大会　五月三十一日
   於坂本市民センター前コート　参加者　三二名
   終始笑顔でプレーし、和ごやかな一日で親睦を深めることができた。大津市は地形が細長いため、会場の選定が困難である。
3. 研修会　京都植物園見学　十月二十日
   参加者　五一名
   菊花展観賞や温室の見学、特にバナナの育成に感心があった。
4. 掛軸作り　老人福祉センター　七月七日〜十二月十日
   受講者　十二名
   初めての計画であったが、可成の成果があった。
5. 平成五年度の行事予定
   ○　親睦ゲートボール大会　五月十七日
   ○　小浜原子力発電所見学　十月二十日ごろ
   ○　〝らん〟の育て方　日程など未定

支部役員は次の通り

支部長　下司　清　会　計　伊藤　實三
副支部長　磯田　善通　監　事　堀井与士春
〃　吉田　歳末　〃　斉藤　重男
〃　平田　正善　顧　問　高野　惣平
理　事　川島啓一・草川正二・平井重一・小寺海蔵・清水定意・林　行雄・島田岩治・高野喜六
幹　事　藤田直喜・小笹英男・門馬三郎・吉田可津子・粂田二郎・伊藤鉄雄・吉田ふみ・春山ミサヲ・西田千代子・本郷武子・平尾多嘉子・森田末雄

湖南支部報告

支部長　林　秀一

滋賀県老人大学校は開校以来、早や十五年が経過した。平成五年には、記念行事が計画されている。同窓会においては、支援体制が組まれるのは、当然である。従って同窓会行事も、昔とは形も中身も大型化してきた。例えば研修部では、沖縄旅行や中国旅行が計画されている。かかる状況下では、同窓会支部独自の行事計画を組めば本部計画の妨げになることが予想される。此の辺で、支部行事の見直しの必要が、ここで出て来たように思える。しかし去年の思い出をたどれば、支部の行事は支部会員が、いきいきとして取組み、大きな成果を上げているのも事実である。例えば支部単独行事のバス旅行がそれである。一泊で、渥美半島に出かけた。本部には大変、御迷惑をおかけした事と恐縮している。昨年の場合、都合が悪かったのは、行事の為の仕事が、一部役員に片寄ったことである。バス旅行は支部総会でも論議になり、是非実施せよとの声無い限り、割愛せざるを得まい。

又一昨年は、同窓会費を支払ったのに、「一ケ年放置された」との声があり、去年は、新会員と旧役員の説明会を実施した。まずまずの成果を上げた。今後此の会員の支部行事への参加が望めるからである。

支部長・副支部長・会計理事等永年の勤務に疲れを感じ、交代を希望しているが、「やりましょう」と言う人が出てこないすでに、交代を希望している者のうち、視力が低下して、家族同伴でないと単独では活動が無理と言う者もいる。

平成五年度は、心新たに、新役員に寄り運営される事を、切望して、報告とします。

甲賀支部活動状況

支部長　島田寅治郎

A、甲賀支部会員数（四年十月）

町名	会員数	摘要
石部町	一二名	B一二
甲西町	三三名	A一　B三二
水口町	一五名	A一　B一四
土山町	二名	B　二
甲賀町	一二名	B一二
甲南町	一三名	B一三
信楽町	一三名	B一三
合　計	一〇〇名	A二　B九八

B、甲賀支部役員（平成四年五月二七日）

支部長　島田寅治郎
副支部長　千代倉太郎
庶務会計　橋本清一郎
会計監査　服部　稔
　同　（一名欠）
理　事　山本公治郎・青木劣夫・真鍋光徳・熊谷清一郎・大北忠一・雀部つる・谷村しを・金山良吉・中沼宗寿・増田信之・服部　稔・山脇義一・藤田スヱ・今井　博
顧　問　丸市　喜好

C、弔　支部物故者（平成四年四月現）で一六名になりました。御冥福を御祈り申しあげます。

D、滋賀県老人大学校同窓会本部事業に参加

イ、平成四年度、同窓会総会への参加

。期日　平成四年六月十二日（金）
　AM一〇、〇〇～PM一五、〇〇
。場所　彦根市「老人福祉センター」大集会室
　（彦根市開出今町一三六一番地）
。日程　開会告知・国家斉唱・黙祷・憲章朗読・表彰・会長挨拶・来賓挨拶や祝辞・（議事）事業報告並決算報告等質疑応答後両報告を承認・平成四年度事業計画並予算案の議決・その他
。規約改正（原案通り決定）
。記念講演　堀野事務局長講演
　要旨　言葉の理解　心の窓を開く　行いはしなやかに　生涯学習は健康への道

○役員発表（会報第一〇号）
○次回予告
○校歌斉唱
○閉会之辞
○懇親会（PM一、〇〇～PM三、〇〇）費用一人当り¥二、五〇〇当支部より一〇名参加。盛大に終了し解散

ロ、滋賀県老人大学校同窓会研修会への予告と参加

○予告
○案内　古代文化の花開いた奈良は、日本人の心の古郷である。特に法隆寺は聖徳太子ゆかりの、世界最古の木造建築であります。また薬師寺は、凍れる音楽といわれた三重の塔や、国宝の仏像は幾度訪れても胸をうつものがあります。初秋の一日皆様の御参加を歓迎致します。
○実施期日　平成四年十月一日（木）奈良日帰り研修旅行
○参加　当支部より希望者一四名参加、研修を深めた。

E、甲賀支部活動

○支部総会
期日　平成四年五月二十七日
場所　甲西町福祉センター
総会事項
(1)　平成三年度事業並びに会計決算報告と承認
(2)　平成四年度事業計画並に会計予算審議決定
(3)　平成四年度支部役員会則に基き選考委員選出原案作成総会に於てB表の様に決定
(4)　親睦会　会費参加者負担一人当り¥二、〇〇〇
(5)　アトラクション　甲西町推せん、踊り衆の芸を楽しむ。

○甲賀支部研修会の実施
(1)　期日　十月二十七日（火）
(2)　研修コース　石部町、長寿寺（通称東寺）、石部町、常楽寺（通称西寺）、甲西町、善水寺以上。足は甲西町の計らいで、甲西町福祉バスをお願いし順次巡るコース。
(3)　集合場所　甲西町老人福祉センター、AM八、四〇集合、懇親会、解散等同所。
(4)　研修計画　幾度訪ずれても、心やすまる殿堂。静かに慈悲の御光に接し、単調なそして平凡な老人に、忘れ得ぬ旅愁を刻む事になり、更に懇親を

深め友と語り励まし合って、希望に満ちた人生を歩む事が出来れば幸せである。

(5) 参加者の状況　参加者の人員（三十一名）

（甲西町岩根善水寺境内にて。県老大同窓会甲賀支部員）

(6) 結果　各寺院での説明は実に見事なもので、宗教的な難解な言葉をユーモラスな雰囲気に変へ笑顔と笑い声で人々を楽しませる。此の様な説明に満足をした研修参加者は又と無き機会に恵まれた様子だった。又懇親会や後のアトラクションは、ひと時の安らぎと、静けさの一駒を見る思い。感動の少ない単調な老人達の胸を打つ一日だった。

F、その他

。支部運営に関し、本部への対応に関しましては、その都度支部役員に計り、決定し具体案を以て処理し、中間的役割を果し、独自の計画に関しましては、役員会を以て処理し、各町理事を中心に会員へのコンタクトや意見を纏め、支部運営を図っている。尚会場を県立老人福祉センター碧水荘（水口町内貴）にお願いし、運営の円滑と徹底を図っている。

。あとがき　個々の会員が、県老大建学の精神に学び、生きがいを創造し、その成果を社会に還元し、同時に新らしい生活文化の担い手となり、高齢化に伴うパイオニア（先駆者・開拓者）として、長寿社会を築く為に、更に学習を深め、自己を研き益々健康で、生きて行きたいと思う。

近江八幡支部活動状況

支部長　村井　繁一

平成四年四月以降今日までに六名の会員が病気の為死去され、現会員数は一四九名である。

平成四年度の主たる事業を次の通り、月順に報告します。

一、定期総会

平成四年四月八日支部定期総会を開催す。来賓として、市助役山本清麿殿、本部中川会長殿、堀野事務局長殿のご臨席を仰ぎご祝辞を賜わる。議事日程に入り、平成三年度事業及び会計の報告承認を得る。平成四年度事業計画、同予算案の審議可決、意見発表あり今まで年一回の講演会を二回催して欲しいとの希望あり本年度より二回開催することに決まる。議事終了後懇親会に移り、和気あいあいの一時を過し解散する。

二、五月十一日支部婦人部委員会の開催。協議事項審議の結果次の通り決る。

(1) 婦人部員の集い。本年は陶芸教室を開く。九月二十五日八幡公民館にて。

(2) ふるさと探訪。本年度は大石すなぎの里を訪問。市福祉バス利用の関係で十一月二十日と決定。

三、五月二十六日支部役員会開催。協議事項次の通り

(1) 本年度事業の推進について

「婦人部員の集い」九月二十五日陶芸教室の開催

「ふるさと探訪」十一月二十日実施

「第七回親善ゲートボール大会」は十月に実施。期日、会場は追って決定次第報告する。

(2) 県老大同窓会総会出席について。人数定数二十二名全役員出席と決定

(3) 同窓会々報十一号発行と原稿依頼。締切は六月三十日とす。

四、六月十二日県老大同窓会定期総会開催。彦根福祉センターを会場として、支部より十八名出席する。特別事情により四名欠席される。

五、六月十六日県会報十号が送付されたので、支部会員に配布する。県研修部主催研修旅行案内を会員に配布する。

六、七月八日支部会報十一号の原稿が集ったので編集会を開催

する。

七、七月三十一日老大公開講座が滋賀会館大ホールで開催される。支部より二十名出席する。講演は、デンマークにおける痴呆性老人ケアについて、デンマーク人ビエキッド・ミケルセン女史。デンマークにおける高齢者福祉システムについて、デンマーク社会研究協会理事長片岡豊氏の講演。続いて両氏と県成人病センター藤本直規氏、水口保健センター堀井とよみ氏の四氏を中心に、龍大教授奈倉道隆氏を司会としてシンポジウムあり、五時終了する。当支部より二十名参加する。

八、八月十七日会報十一号校正刷が出来たので、支部役員編集会議開催する。

九、八月二十九日本部研修部研修旅行要領が到着したので各会員に配布したが、支部出席割当十六名とあるが、現在までの参加申し込みが二十三名あり、超過するも全員参加出来るよう本部へ諒解を得るため連絡をとる。

十、九月十日本年度第一回講演会開催。会場は、滋賀銀行駅前支店二階大ホール　開催する。講師は、近江八幡資料館々長江南　洋氏、演題は近江八幡の歴史について。

講演会終了後役員会開催。協議事項は次の通り。

(1) 支部会報十一号の配布。

(2) 奈良方面研修旅行参加について。

(3) 婦人部研修会について。出来るだけ多く参加するよう。

(4) 第七回親善ゲートボール大会参加について。期日は十月二十四日、少雨決行、会費三五〇〇円、会場は土山かもしか荘にて、申込締切十月十日まで。

十一、九月二十五日婦人部会員研修の集い開催。本年度は陶芸教室。参加者二十七名。講師は吉川保三郎氏、助手として深尾竜平、西川甲三両氏。陶土及び参考作品などは吉川氏で準備され、会員夫々製作に熱中され作品は吉川氏のもとで焼かれることになっている。

十二、研修部主催奈良方面研修旅行実施され、二十三名の参加申込みあるも、三名急病と家庭事情により欠席されて二十名参加する。法隆寺参拝見学後高松塚古墳、石舞台古墳の見学をした為予定より帰幡時刻がおくれ午後八時過ぎ帰幡する。

十三、十月二十四日第七回親善ゲートボール大会開催。土山かもしか荘にて。雨天なれど午前中は室内ゲームで楽しみ、午後は雨も上り、試合、個人戦も行い楽しい一日を送り帰幡する。

十四、十一月二十日ふるさと探訪実施。本年は婦人部の希望で婦人部員のみの研修となった。前後にない雨降りだったが市

福祉バスの利用で変更することが出来なく実施する。大石「すなぎの里」を訪ねる。

十五、一月十一日平和堂三宝にて合同役員会開催。協議事項は次の通りである。

(1) 本部事業会報十一号の原稿依頼について。支部割当は二十二枚。

(2) 研修部事業国内外研修旅行実施と参加申込みについて。国内は沖縄方面、国外は中国北京を中心としたもの。期日は沖縄方面三月九～十一日、中国北京方面六月二十二～二十六日まで。

(3) 支部事業第二回講演会開催について。三月十日前後、講師は執行部に一任され、決定次第会員に連絡する。

(4) その他、本年三月末を以て支部役員の任期満了となるため、後任者について意見交換。

会議終了後新年会開催二十一名出席され、新年でもあり賑やかなひと時を過す。

十六、来る三月末日で支部役員としての任期が満了となり、事業としては二回目の講演会が残されるのみとなった。任期二年間で六名の会員が亡くなられ、特に平成四年度には六名も逝去され、中でも支部前身の比牟礼同窓会の創設者である二期卒の中島実さんが十一月十二日に亡くなられ、同日六期卒福永太左ヱ門さん九月十三日九期卒鳥居光さん、十二月十二日十二期卒上田嘉一さんが逝去され、二月七日十期卒東利明さんが大動脈破裂で急逝され、引き続いて翌二月八日十期卒の若林善一さんが、永年の闘病生活も効なく逝去され、本当に心淋しく思う次第です。六名の皆さんのご冥福を心より祈念する次第です。

湖東支部活動状況

支部長　野沢　政次

一、会員数　一二三名

市町名	男	女	計	市町名	男	女	計
八日市市	7	6	13	五個荘町	14	3	17
安土町	10	4	14	能登川町	19	10	29
蒲生町	9	2	11	永源寺町	4	0	4
日野町	14	4	18				
竜王町	10	7	17	計	87	36	123

1.　支部役員会　五月十一日　（八日市・延命荘）

(1)　平成三年度事業報告、決算報告、四年度事業計画、予算案等につき協議。

(2)　支部役員改選につき選考。

2.　第九回湖東支部定期大会　五月二十六日　（延命荘）

本部副会長、中村標雄氏を迎えて開催。

平成三年度事業、決算報告ならびに四年度事業計画、予算案を原案どおり可決。役員改選（前記）を実施。議事終了後、同荘で懇親会を行なう。出席三三名。

3.　県老大同窓会総会　六月十二日　彦根市老人福祉センターで開催。当支部の被表彰者、大道喜一郎、野沢政次二名。支部から十名出席。

4.　県老大公開講座　七月三十一日　（滋賀会館）

「デンマークにおける高齢者福祉と痴呆性老人ケア」

ビェギット・ミケルセン女史、片岡豊氏の講演。シンポジウム〃痴呆性老人の福祉を考える〃あり、支部から九名聴講。

5.　県老大同窓会研修旅行　十月一日　法隆寺、高松塚古墳、石舞台を見学。支部から十二名参加。

6.　本部役員総会　十二月二日　（滋賀会館）

二、支部役員

支部長	野沢政次
副支部長	木俣信一
〃	深田富三
監事	園田九二男
〃	溝井常夫
本部理事	木俣信一
本部監事	中田芳雄
〃	田井中元一
庶務会計	大沢幾之助
理事	
（八日市市）	高木新蔵
（安土町）	北村勇吉
（能登川町）	田井中元一
（五個荘町）	坂口栄三
（竜王町）	関川弘
（蒲生町）	福永かね子
（日野町）	新海三郎
（永源寺町）	小泉藤次郎

三、事業

海外、国内研修旅行計画の説明、会報十一号の編集につき説明、原稿募集方法等について協議。支部長出席。

7. 支部役員会　二月四日　（延命荘）
会報十一号個人原稿取りまとめ、その他につき協議。

8. 会報編集会議　二月十二日　（滋賀会館）
支部長出席。支部活動状況および一般原稿（二十一名）を提出。

彦根愛犬支部活動状況

支部長　野中　正

新らしく第十三期生を迎えて会員数も百四十四名に相成り会員の皆様それぞれの地域に於いて相協力し地域の発展更に会員相互の親睦を図り更に充実した同窓会支部育成のため支部会員の皆様相協力し運営に格段のご協力をお願い致します。

平成四年度支部事業等を報告致します。六月三日支部総会を開催。本年度は彦根当番にて彦根老人福祉センター内において中川県老大同窓会会長をお迎えして、同総会憲章の朗読に始まり、定議ながら諸報告後承認を得、中川会長より祝辞を賜り終了後懇親会を開き盛会裡に終りました。

六月十三日平成四年度県老大同窓会総会を彦根市老人福祉センターに於いて県下各地より会員百二十名が出席。疋田彦根市老人クラブ連合会長、大塚老人福祉センター所長を来賓にお迎えし、中川会長の祝辞に始まり、中村副会長議長により諸議事承認後、堀野先生の記念講演を拝聴。校歌斉唱高らかに閉会。懇親会に移り盛会裡に終了しました。

当日は当支部の役員の皆様には大変ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

尚当支部中島藤五郎氏が地域活動の功績により表彰されお喜び申し上げます。

十月一日県老大同窓会研修部による研修旅行（バス）にて奈良方面へ実施されました。当日は当支部より多数の参加者があり天候にも恵まれ良き研修で有り、今後共有意義な研修旅行が計画されます皆様のご参加をお待ち致します。

その他については県同窓会の諸行事会議事項等は速やかに役員様迄連絡させて頂きます。何卒格段のご協力をお願い致します。地域の関係上充分な連携も出来得ず、三ブロック制の計画も早急に実施する様に努力致しております。いま暫くお待ち願います。

今後とも支部同窓会発展のため格段のご協力をお願い致します。

本年度支部役員名左記の通りです。

支部長		野中　正
副支部長		辻　幸夫
会計		川村順茂
事務局		中島藤五郎
幹事	(愛知郡)	北川弥一郎
〃		上原繁太郎
〃		辰巳佐一郎
〃	(犬上郡)	西沢正三
〃		浜野喜三郎
〃		西山弥一郎
〃	(彦根市)	杉本文治郎
〃		井戸弥一
〃		西田吉男
〃		磯貝澄雄
〃		小堀吉夫
〃		山本正雄
会計監査		若林秀光

平成四年度物故会員

故　加藤治三郎　園芸科九期生

謹しんで御冥福をお祈り申し上げます。

湖北支部活動状況

支部長　森　量海

当支部では十期卒業生まで、四十余名だったところ米原校により、以来年次急増し、今日一四七名となりました。

会員の皆様にはそれぞれの地域において、生き甲斐の創造と社会福祉への大いなる還元をめざし、活動を続けられまことによろこばしい次第です。

お蔭様で、役員様はもとより皆様のご協力をもって、支部並びに本部事業に対し参加者が増えつゝあります。

では次のとおり支部活動状況を要約し報告します。

記

一、五月十一日　第一回目支部役員会議、十三名出席、議題

(1) 公開講座の会員への周知。

(2) 本部総会、支部出席者

(3) 支部定期総会の準備

二、六月十二日　滋老大同窓会定期総会、当支部、十五名出席

会場、彦根老人福祉センター

三、六月二十二日　支部定期総会

(1) 会場　長浜福祉センター

(2) 本部の中川会長はじめ、市福祉センター所長の臨席をいたゞき、日程により平成三年度事業及び会計決算報告、平成四年度、事業及び予算案等審議の結果可決される。議事すべてを終了し、懇親会に移り終始和やかに親睦と交流も深められた。

(3) 支部会員名簿を配付

四、七月三十一日　公開講座、滋賀会館、支部より二十一名、大津会場にもかゝわらず、かつてない参加でした。

五、九月九日　第二回目支部役員会、十二名出席、議題

(1) 本部研修旅行の周知

(2) 本年度、支部、並びに本部会費の納入（全会員）

六、九月十一日　本部会費、A会員を除く全会員（九一名分）本部へ払込む。

七、十月一日　滋老大研修部会、奈良県下法隆寺方面、日帰り研修旅行、支部十八名参加、いまだかつてない大勢の方々、もう一度行ってみたいとの好評でした。でも当日研修先を欲くばり過ぎてか?当湖北支部では夜の十一時過ぎの帰宅になるやら、大変におつかれ、今後の反省に?

八、十月五日　支部研修旅行（日帰）

(1) 行　先　彦坊ヘルスセンター

(2) 参加者　二十余名

(3) 講　師　彦富老ク連会長、西沢先生、一時間、現在までの地域でのすばらしい活動状況には深い感動を受けました。これからも皆様のご意見により計画し実施したいと思いますのでよろしくお願いします。

九、十二月二十六日　第三回目支部役員会、十四名出席、議題

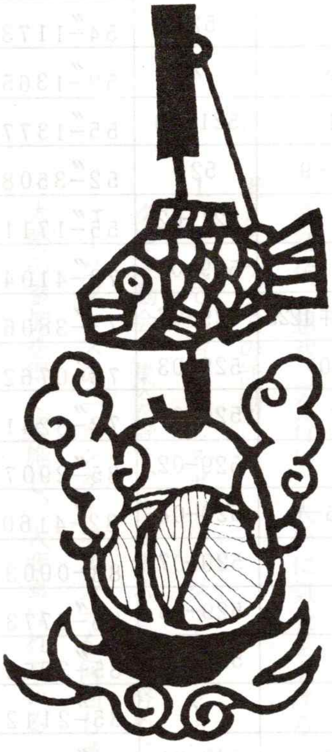
(1) 本部事業、新校舎の竣工式典等に伴う行事。

(2) 成果展は例年の三月には行なわない。新校舎竣工行事で。

(3) 会誌十一号の一般寄稿、割当十四名、提出十五名、グループ活動、東浅井郡、大濱寛一郎氏、坂田郡、林春三氏、の二人方グループ代表でお願いする。ほかにもグループの活動をされておりますが、次の機会によろしくお願いします。

十、三月九日からの本部研修部会の沖縄研修旅行に支部から四名の申込でしたが残念ながら定員に満たないので中止。

十一、三月六日　公開講座、県文産交流会館、多数の支部会員並びに各町内老ク連会員参加。その他本年度は支部役員の改選です。一応四月一日現在別表のとおりです。よろしくお願いをします。



（別表）

滋賀県老人大学校同窓会　湖北支部役員名簿

平成５年度

役職名	氏名	住所	〒	電話	備考
				(0749)	(期・学)
支部長	森　量海	長浜市常喜新町481	526	62-3910	3. 文
副部長	松下保清	坂田郡米原町三吉36	521	〃 54-2395	8. 陶
	秋野　昇	東浅井郡虎姫町本町1045	529-01	〃 73-2644	6. 園
	林　憲雄	伊香郡木ノ本町木ノ本739-5	529-04	〃 82-3640	11. 文
幹事	広部庄太郎	長浜市口分町851	526	〃 62-6601	6. 〃
	清水満子	〃　朝日町3－16	〃	〃 62-1650	9. 生
	正福寺孫太夫	〃　堀部町591	〃	〃 62-2762	11.スポーツ
	川崎重兵衛	〃　祇園町18－3	〃	〃 62-4882	12. 園
	中川志げ子	〃　朝日町20－12	〃	〃 62-8496	13.スポーツ
	北澤清太郎	〃　石田町640	〃	〃 62-0047	13. 文
	音居三郎	坂田郡近江町寺倉309	521	〃 54-1173	3. 園
	中川寿美子	〃　近江町長沢1045	〃	〃 52-1365	6. 文
	林　春三	〃　伊吹町村木1151	521-03	〃 55-1377	11. 文
	松本芳雄	〃　米原町入江269－9	521	〃 52-3508	11. 園
	馬渕尚之	〃　山東町本市場	521-02	〃 55-1711	11. 文
	藤井峯子	東浅井郡虎姫町唐国	529-01	〃 73-4104	6. 〃
	辰己外弥	〃　虎姫町大字大井1229	529-07	〃 73-3806	7. 園
	中村重之	〃　湖北町速水960	529-03	〃 78-0762	〃　〃
	大濱寛一郎	〃　びわ町大濱	526-01	〃 72-3241	11. 陶
	大比叡留次	伊香郡高月町落川102	529-02	〃 85-2907	11. 園
	田辺　一	〃　木ノ本町千田115-6	529-04	〃 82-4160	〃　〃
	平塚志保	〃　西浅井町塩津浜	529-07	〃 88-0003	11. 生
	小山　巌	〃　余呉町文室	529-05	〃 86-2773	12.スポーツ
	河路　寛	〃　高月町唐川344	529-02	〃 85-3952	13. 文
監事	西嶌スミエ	〃　高月町宇根365	〃	〃 85-2112	7. 生
	横田定雄	東浅井郡虎姫町中野361	529-01	〃 73-2857	11. 文

県本部役員　　森　量海

松下保清（湖北支部事務局　庶会担当兼）

高島支部活動状況

支部長　遠藤　滋

高島郡は、大津市から遠く離れ、老大への通学も不便なことから、従来から、入学希望者も少く、特にマキノ町、朽木村は通学困難で、会員数の増加も望めない状況である。

他の四町では、次々と、老大の内容が理解され、伝達され、増加していることは大変望ましいことである。

高島郡町村別会員数

高島町	一四名
安曇川町	一五名
新旭町	一〇名
今津町	一一名
朽木村	一名
県外（神戸）	一名
合計	五二名

○ 高島郡支部総会

平成四年九月十九日　今津町桜田食堂に於て開催する。

参会者約二十名余り。

一、会議内容

1. 平成三年と主な行事について報告
2. 役員改選

改選に先だち、支部規約の見直しを行う。

- 支部長　遠藤　滋
- 副支部長　鎌田成治
- 会計庶務　会長兼任
- 幹　事

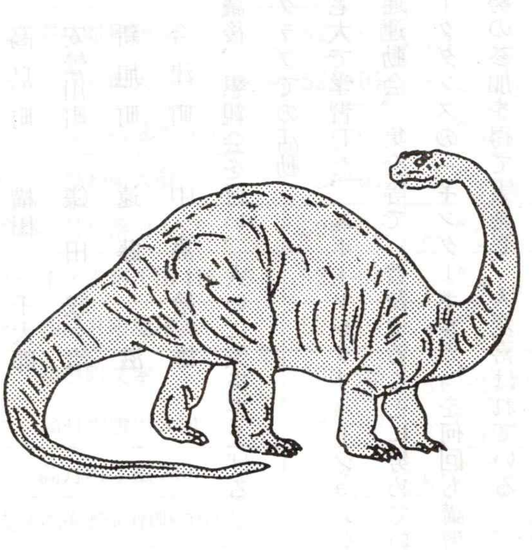
高島町　横田　三千太郎
安曇川町　鎌田成治
新旭町　遠藤　滋
今津町　中島捨雄

会議後、懇親会を行い、大いに気炎を上げる。

○ 老人クラブでの活動

1. 老大で学習した、スポーツレクリェーションを、町老ク連運動会、集会等で、普及することに努めている。フォークダンスの「キンダーポルカ」を何回も講習を行い、大勢の参加を得て実施し、大変喜ばれている。
2. 集会時におけるレクリェーションの指導。長時間の会議、作業の後での体操、体の調整等の指導に当っている。
3. 女性活動の手芸等の指導者となり、クラブ作り、推進

役として活躍している。



会員だより

雑感

大津支部

一期生福祉学科　吉田　貞雄

高齢者になって将来の健康と幸福を願っています。

高齢化も楽しく生ていける世の中を作り上げることは、老人だけではなく、社会全体の問題といえるでしょう。

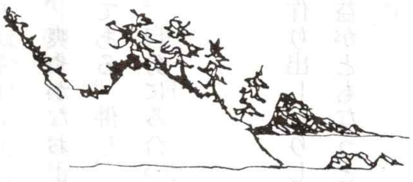
二十一世紀に向けて、高齢者対策はどうあるべきか、高齢者保健福祉推進十カ年戦略（ゴールドプラン）で、在宅ケアを充実し寝たきり老人を減らす方針を、老後必要なものは健康、経済力、家族との交流であり、私たち思いきって大いに若返り、これからの人生を有意義に送りたいと決心致しました。

四季の徒然

二期生陶芸学科　山中文江子

門松の戸毎に目立つ垂（しで）の白
炭火入れ餅を焼きけり三ケ日
穴太積昔を語る苔に雪
法要のおときは佐阿弥雪の庭

三上山帳（とばり）の彼方春霞む
南鮮に雉の戯れ麦の秋
能登の海桜貝二つ三つ土用波
雨蛙墓守顔に墓参かな
新盆や墓前に手向け蓮の花
夕顔の解るを誘う鉦叩き
貴船川床（ゆか）うからやから古稀祝う
蟷螂の老いて萩見る秋の風
神の留守苑の紅葉に人は酔ふ



自分史の作成

五期生文芸学科　高野　たみ

皆様よく御存知の格言「何時迄もあると思うな親と金、ないと思うな運と災難」ひとり胸裡につぶやきながら、病気に交通事故その他原因はとも角、知る人が次ぎ次ぎとみまかり、周囲は日増しに淋しくなっていきます。

私自身も試行錯誤を繰返し、歳を重ねて喜寿を迎え、何とか今日まで過して参りました。

飽食の時代と云われ生活は向上しても、反面心は貧しく空白を覚える現在です。結婚後半世紀過ぎて既に七十年過き日の戦

争、子育て教育、主婦業と喜憂様々乗り越えて「遥かに歩み来し道」と題して、ささやかなる自分史を子孫に残すべく書いている。

最後に現状の心境短歌五首

一、哀歓を越えし歳月幾山河偲ぶ　窓辺に夜の白雲

一、去年まだ在ませし友はアルバムに　笑顔残して遠つ世の人

一、不穏なる社会情勢続きいる　静かに唱える朝の心経

一、何処まで寄り添いゆける夫と
　　吾五十余年は過ぎて短し

一、疾く目覚め先きゆき思いつ見る窓に
　　長夜の臥床しらじらと明く

「あゝまた戦争の話」

五期生文芸学科　山本　良雄

そう言われてたじろぐことはない。われわれは戦争の惨禍の語り部として生かされているのだ。これは神の摂理なのだ。

この正月、北陸のある温泉へ出かけた。廊下で会う浴衣姿の若い女性のなまめかしさに、つい齢を忘れるところだったが、入湯の間に窓辺の椅子で持参の本に読み耽った。

「太平洋戦争四九の謎」広済堂ブックス七八〇円

「かくて歴史は始まる」クレスト社一、八〇〇円。

「零戦の真実」講談社一、八〇〇円。

右の三冊の面白さは彼女たちの艶姿を超えるものがあった。

僅か二晩の滞在であったが、大いに充電して帰って来た。

あの戦争は海軍が決断せねば起きなかった。その決断に零戦への過信はなかったか。反省してみる価値のあること。沖縄戦における米海軍の精神異常者が三、〇〇〇人を超えた謎。この本を読もう。そして適時発言しょう。（九三・一・七）

健康で長寿

六期生陶芸学科　仙頭　利子

師走の風にも目下ることなく、健やかで、爽やかなお正月を迎えた。健康で長生きは、多くの人の願いである。併し、長生きには個人差があるので人まねは出来ない。自分にみ合った方法を考えなければ、

「長生きの秘けつ」

(1)　頭を使うことを止めない。考えたり、作り出したりして、前頭葉をはたらかす事がよい。趣味と実益がともなうと一層よい。

(2)　自分に適切な運動を適度にする。毎日、休むことなく続け

る。つとめて、あるいて、適度の運動。シルバーエイジ運動療法の基本はある。

(3) 成人病の予防と治療は、歩くに尽きる。

短歌　瀬田川

七期生文芸学科　寺田　光

瀬田川の　ほとりにひと世　住み馴れて
吾は聞き分く　水のささやき

水の面をすれすれに飛ぶ　ゆりかもめ
ふと舞い上り　向きを変えたり

びわこ祭りの　終りをくくる船幸祭
みこしの灯りに　酔う人の波

船幸祭の　みこし迎うる尺玉の
花火はじけて　水の面に映ゆ

松明を引摺り走る　若者の
熱気に炎ゆる　群衆のほほ

闇に舞う　日牟礼八幡火祭の
無病息災の　火の灰を浴ぶ

走りゆく　引摺り松明　青竹の
焼けて弾くる　音と火の川

戻り寒波に　震え立ちたる
夜の肌を　火照しくるる日牟礼火祭り

酉年随想

七期生園芸学科　平井　重一

鶏が大きな刻を告げた。

先ずは佐川疑惑の解明、五億円で二十万円の罰金。かたや一億円で法廷、余りにも不公平だ。権力の傘と疑われてもしかたがない、五億円の流れを質すべきだ。地方議会では空出張を市民が辛辣に追求、辞職に追いこまれている。国会は額が違い徹底糾明すべきだ、一般国民にとって想像もつかぬ大金を闇出資する企業にもそれなりの税を課すべきで、課税することによって不正献金もなくなるだろう。

関連して政治改革、疑惑の人物は即辞職、次期選挙には立候補を許さない厳しい規定を設けるべきだ。

現在の政治は派閥力学、年功序列で椅子が割振りされているが、産業界では実力主義で業績を伸ばしている。鳴かず翔ばず保身の老鶏では思い切った改革は望めない。威勢のよい若鶏の蜂起すべき時だ、首相公選もささやかれ、愛国の士が糾合新党樹立へ狼煙をあげた、日本丸の前途を托すに足る若鶏の羽ばた

きに期待し声援をおくりたい。

次は米問題、いまだに食管法が生きていることがおかしい。米作りに適した土壌があり、うまい米作りに精を出せば口がこえた消費者は値より質を求めるだろう、輸入米が余れば飢餓に苦しむ国に贈り国際貢献すべきだ、農家も誇りを持つべきだ。

我々老鶏も健康で頑張ろう。

大正は遠くなりにけり

八期生文芸学科　吉田　歳末

最近、大津絵の勉強に必要なので、三七〇年程前の寛永以降の干支年代早見表を作ったが、小説や映画等で知る事件等が頭に浮かび、興味深かった。

昔はあらゆるものが、十干（甲から癸）と十二支（子から亥）で動いていた、色々な事柄や今はなき肉親や、知人を、この表にあてはめると、一目瞭然、例（甲子園）きのえね大正十三年建設、等で、昔は短期間に年号が変っている。

寛永（甲子、二十年癸未）正保（四年丁亥）慶安（四年辛卯）承応（三年甲午）明暦（三年丁酉）万治（三年庚子）寛文（十二年壬子）延宝（八年庚申）天和（三年癸亥）貞享（四年丁卯）元禄（十六年癸未）宝永（七年庚寅）正徳（五年乙未）享保（二十年乙卯）元文（五年庚申）寛保（三年癸亥）延享（四年丁卯）寛延（三年庚午）宝暦（十三年癸未）明和（八年辛卯）安永（九年庚子）天明（八年戌申）寛政（十二年庚申）享和（三年癸亥）文化（十四年丁丑）文政（十二年已丑）天保（十四年癸卯）弘化（四年丁未）嘉永（六年癸丑）安政（六年已未）万延（一年庚申）文久（三年癸亥）元治（一年甲子）慶応（三年丁卯）明治（四十四年辛亥）大正（十四年乙丑）昭和（六十三年戌辰）

サテ、丙の辰、元気で、平成何年まで、頑張れる、カナ。

思うまゝに

九期生生活学科　間宮　太か

私は老大を卒業させていただいたお蔭で多くの友を得ました。互いに励まされたり助けられたりして七十路の坂を歩かせてもらっています。去年の秋には支部より植物園行に参加させていただき、又我々が指導を受けた梅本先生の個展を祝福してクラスの有志が集りました。とかく年を重ねると孤独におちいり易いと云われます。私は老大で学んだ数々を心の糧にして前向きに毎日を送りたいと心に決めています。何時か聞いたお話ですが、「若さとは人生のある時期を云うのではなく心の持ち方を

云う」。希望をみつめる限りは若いが失望した時老いて行くとの事でした。常に前向きに歩きたいものです。

ソ連に人道的経済援助は必要か？

十期生園芸学科　平田　正善

我が国から多くの食糧、薬品が無償で旧ソ連に送られるという、又一月十二日の新聞報道によれば、一億ドルの支援を行うという。冬は毎年来るがソ連人が餓死したというニュースは報道された事を知らない。テレビ等で見るソ連の要人、赤の広場に集まる軍人や政治家たちは、丸々肥えた面々ばかりである。

ソ連は過去に我が国に対して何をしたか、日ソ中立条約を犯して侵攻して来た火事場泥棒的な行為、或は停戦して白旗を掲げた軍使を銃殺したり、在満の軍人軍属六十万人をシベリアへ抑留し、食糧も充分与えず酷使して約五万五千人の死者を出した憎いソ連、終戦後北方四島に進駐し未だに之れを返還しないソ連、軍備の拡張ばかり金を使い民生の安定をおろそかにした天罰である。人道的というなら一日何千人という幼い子供が死亡している東南アジア諸国に送って上げる方がより人道的である。エリツィンロシア大統領を本年七月の東京サミット前に招へいしたいと政府はいっている。どんな事情があったかしらないが、国際的な外交儀礼を守らず訪日を直前に、平気で破った矛盾だらけのロシア外交に対し、なぜ政府が招へいにこだわっているのか理解できない。エリツィンが軍用機で日本に救援物資をもらいに行くといっている。まだロシアは上空を日本機に飛ばれては困るという事情があるのだろうか。モスクワに運ばれた援助物資は絶対平等等に配給されないと確信する。

私達が毎日汗水を流して働き其の納めた税金を、無駄使いされては大変迷惑である。

政治屋は良い恰好をせず、ソ連の過去の関係を今一度思い起すべき時であると私は思う。

国際社会と文化

十期生文芸学科　大村　義男

この度、日本伝統文化の国際交流パリベルサイユ祭に、大阪府青少年活動振興協会の後援で劇画「紙芝居」の伝承源泉たる大阪三邑会(さんゆうかい)を代表し、私は会員の女性七名とで参加しました。

さすが、世界的なる芸術文化の中心地。パリは今回祭典された宏大なベルサイユ宮殿をはじめ、有名なるエフェル塔や凱旋門などセーヌ河の流れに調和を保つ建築物とそれらの彫刻美術の文化遺産には実に壮観でした。

さて、何処の国にいっても変らない。言葉だけにたよらない子供たちの悦びをはじめ、催しの舞台、展示場ともに劇画（かみしばい）の人気は満場からの笑い声と拍手につつまれる好評を博しました。斯く成果裏には、会員の日頃の今に稀なる街頭進出での実際的な風情と社会奉仕活動などの練磨の努力に他ならぬ次第です。

そこで、私はこう感じました。日本人であろうとフランス人であろうと感じるもの――。そこには言葉を超えた共感が私たちをつなぎ合わせるのだ、と。そんな世界がより一層に広がってほしい。その為にも日本は経済だけでなく、もっと文化の交流が必要。国際社会と呼ばれる現今、私たちは世界の人々と、どうやって付合っていくのか。

それにはもっと国と言葉の壁を超えて世界に勇躍し交歓すること。演技力も然り、言葉に代る文化たる関心を抱きました。

歩み会の集い

十期生生活学科　吉田　ふみ

卒業後私達は地域ごとに当番を作り其の地域の神社仏閣名所へ案内して頂き会食をしながら親睦を深めお互いの健康を喜び合っています。参加人員は何時も八〇%位です。去る十一月十六日大津組の当番で石山寺へお詣りしました。全山紅葉のもみじですばらしい眺めでした。本堂の如意輪観音様のお顔の優しさに心和やかになりました。昼食は三月楼で食後梅本先生に干支の貼絵を教えて頂き四時頃には良い色紙が仕上りました。先生には卒業後ずっとお世話になっております。老化予防の為手先の仕事を趣味として何時までも健康で歩み会の集いが続くよう願っております。

対話

十一期生陶芸学科　前川　節子

冬の蚊や人に会わざる一日なり

私の生活にこんな日が来るなんて思ったこともありませんでした。話題豊富な夫に逝かれ、一人暮しもはや二年近くなります。

人間一日に三人の人との対話が必要といわれています。元気な日は出かけますが、疲れた時など籠って対話がありません。

足を病み心も病みて夜の長し

考える時間は無限にあり、趣味の貯えも充分にあり、一日中自分だけのために使える贅沢な毎日です。

対話という一人暮しの落し穴に気付きました。

ワープロ習得法

十一期生文芸学科　門馬　三郎

定年退職の頃ＯＡ化が進んできた。ワープロを会得したかった。さるワープロ教室で三九時間練習するチャンスを得た。未だ未だマスターは出来ていなかった。その頃レイカディア（老大）でワープロ教室が開かれた。毎月一回開催されたが、何回も参加した。その内に指導を支えることを依頼されるようになる。

高齢者で、ワープロに興味を持つ人は潜在するだろうからと地元の「藤尾公民館」で入門教室を、レイカディアの後援を得て開催した。盛況であった。

大津市生涯学習センターがオープンしたので、此処を拠点にして、全市を対象に「高齢者ワプロ入門教室」を計画した。「日立」のワープロ十台を、そのメーカーから提供のご協力を得た。

大津市公報で、希望者を募った。多数の申し込みあり八月〜十月に及び実施した。十一月に「年賀状の作り方教室」も行った。

お年寄りに多少でも喜んで頂けたらと思っている。

そして、これも老大（レイカディア）で反復参加、練習させて戴いた御陰と感謝している。

私の生がい

十一期生生活学科　豊原よしゑ

私なりに生がいを見出して、健康状態はまずまずと云うところでしょうか。

あちこちよりお誘いをうけて、気儘な旅に出かけています。友人とともに趣味の輪の中に入り、前向きに生がいを求め、自分を生かしたいと願っています。

今なお健康に感謝しながら、がんばって暮して居ます。

転　居

十一期生陶芸学科　春山ミサヲ

平成三年三月南郷から現在の家に移転しました。友達からい所ね大きな家ねと云われましたが、あまり喜べませんでしたと申しますのはとても不便なのです。月に二回陶芸に通学バスに乗って出掛けます。息子が何か植えればと二十坪ほど用意してくれました。園芸が好きなものですから早速畠にとりかかりました埋立てなので成育はよくありませんが、花が咲くとほんとによかったと一人喜んでおります。来年はもっと大きな花を……。畠の手入れをしている時、時間は無です。名も知らぬ小

鳥のさえずりが聞えます。何とも云えぬ幸な一時です。

私と陶芸

十一期生陶芸学科　岡嶋　慶三

私と陶芸との出逢いは、今から四年前、老大に入校した時からです。それまで陶芸には全く無知だった私にも、少しは見られる作品ができるようになりました。

陶芸には、作品を作るときの楽しみ、本焼して出来上った作品を見るときの楽しみ、完成した作品をながめているときの楽しみ、その他食器として日常使う楽しみなど、他の趣味にはみられない楽しみがあります。

このような楽しみにもまして私が一番うれしく思ったことは、陶芸によって、あらたなる人生の生きる道を見いだしたことです。

これといった趣味も、技能も、身につけないまま、停年を迎えたときは、これからどうして、第二の人生を送ろうかと不安な日々でしたが、陶芸の技法を身につけてから、そんな不安も解消され、今では作陶を楽しみながら充実した日々をすごしています。

私の人生に明るい希望をもたらしていただいた老大に対し、感謝の気持を忘れることなく、これからも陶芸を生活の柱として、人生を楽しく歩んでまいりたいと思っています。

洋上セミナー

十二期生園芸学科　廣瀬　辰男

「出会い、語らい、学びあい」で始まった「レイカディアの船」洋上セミナーは、楽しく、又批判も交えて、懐かしい思い出として浮んでくる。

あの雰囲気を老人会の新年会に、皆に伝えるためレクリェーションで習った「娘と姑」うちの娘がよその嫁・・・の唄を配布して数十人のぢいさん、ばあさんに歌ってもらおうと思いついた。色々の想が浮かんでくる。体育館での開講式や船上のふれあい。交歓会の役員の挨拶の回数の多いこと。又一人で関係もない話が挨拶代わりに続いた。誰もが飽き飽きしているのに若者は言う「老寄りはくどい」と。

パーティで乾杯が終わるやいなや、四百数十人が怒涛のようにバイキングの料理に殺到した。老人パワーの凄まじさ・・。

去年よりずーときれいに生きがいのある、生涯にしようと！

明るく楽しく逞しく

十二期生園芸学科　島田　岩治

われわれは、既に人生の終盤期にあることは否めない。がしかし、いぶし銀のように輝ける時期であるとも云える。

風雲の社会生存レースを、曲りなりにも完走して、いま自由の時を得、健康にも恵れ已れの趣味に没入して、平穏な明け暮れの日を送る。

老大で学んだ園芸作業、つきあいウン十年のヘボ碁、そして最近始めた彫刻に時間を割いていると、退屈している閑がない。これらを通じて多くの友を得たことも、大きな所産であり、今やまさに「明るく楽しく逞しく」（叡山天台座主　山田恵諦老師）のお言葉を地でいく思いである。

友をつくろう

十二期生文芸学科　伊藤　鉄雄

幸せな老後を過すには何が一番大切か。財産、健康、友人等何れも大切なものばかりであるが、私は友人を一番に上げたい。

高齢になると友人も次第に少なくなりがちで、とかく孤独に落ちいり易い。友人関係には夫婦、親子、師弟等とは異なった不思議なものがあり、良き友に恵まれるか否かが老後の幸福の決め手の一つになるものと思っている。幸い私は老大に入学して新しい多くの良き友を得たことは、何にも勝る大きな財産を得たものと喜んでいる。旧友とも日毎に疎遠がちになる今日、今の友を大切にそして新しい友を作るよう心懸けていきたい。

老後について

十二期生陶芸学科　浜路　睦夫

老後については、自分と、家族と、他人の三者が幸せを感じることがらに積極的に取りくみ、熟年後を力強く生きることではないかと思います。働らくという字は、人が動ごくと書きますが、からだを動ごかせて、それには人の姿勢に学び（自分の信念）今の教育に必要なのは、生きる力と、学ぶ力だそうだが、その時代の流れを見極めつゝ頭を働かせて、二度とない人生を悔いのないように素直な気持ちで過ごせるようにしていきたい。

ことしこそ

十二期生園芸学科　中川　文弥

常に楽しみながら余生を過したいと思う。

短歌　洋上セミナー

十三期生文芸学科　原田　頼子

高齢者の夢かきたつる「洋上セミナー」
　三日の船旅神戸離るる

秋の陽をななめに置きて進む船
　西方浄土や波の煌めき

亡びにし平家の武者の魂に届きてゆかむ
　没りつ陽のいろ

宮崎の埠頭に旅の癇をば払はむとすれば
　輪をゑがく鳶

酒井講師の「老いを生きゆく」テクニック
　笑ひの中の厳しさを知る

散りはやき黄もみぢ肩に受けつつも鎮もり
　あつき鵜戸の御社

お互ひの交流を絆に睦み合ふ
　宮崎の人とつなぐ輪の中

エンジンの音を逃がれて立つデッキ
　瀬戸の大橋朝靄を突く

この春、姪が結婚、親族の一人として式に出席する。退職後は結婚式の出席といえば親戚に限られてくる。実に久し振りである。在職中は職場結婚の仲人役を幾組みか努めたことなど印象に残っている。三人の子供も独立して孫も六人でそれぞれ幸せな生活を送っている。顧みれば私たち夫婦も今年結婚四十四年を迎える。長年苦労をかけた妻に、ほんとうに心のこもった、そして心から喜んでくれるような「贈りもの」をと思っている。地域の利益代表者としてお手伝いして三年になるが「人間らしい豊かさを求めて」命のある限り頑張りたい。

老大を卒業して

十三期生園芸学科　小笹　英男

昨年九月に園芸科を卒業して思うことは、植物に関する知識を詳しく教ったこと、今までとは草植物に就いて見かたが変った。植物園等に行った時は、詳しい説明を聞いて教った時興味が倍増して観察した。同時に良い友人が出来たことである。又趣味が同じことで一層話が合い親しみを感じる。

年をとってからの友人は、大切にしたいものだ。それと同時に健康であること、小生は夫婦揃って元気で何よりの幸福と思っている。記憶力は悪くなっても、思考力は老いないと思う、

曳き明けの靄抜きんづる瀬戸大橋
たたふるさまに響けよ汽笛

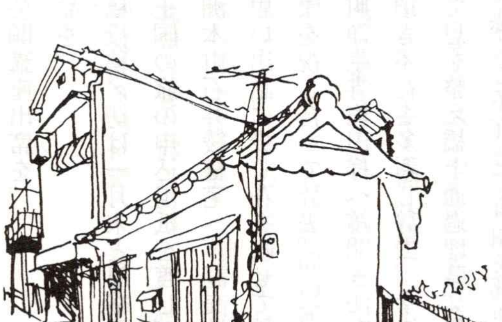
「たから」

十三期生文芸学科　田中　時雄

還暦をすぎての『たから』はどれだけ多くの友人をもてるかにあると思う。縦社会と肩書きの中で生きて来た世代には特にそうではなかろうか。

気のおけない同好の仲間が研鑽と交流の楽しい雰囲気の中で青春プレイバックすることの出来るのも老大を修めてその実感を一層深くしている毎日です。

あとは自分だけのことだけでなく、どれだけ社会に恩返しが出来ることがあるかと思ってはおるのですが・・・・気持と体が一体にならない難しさを感じております。



このごろ

湖南支部（守山）

二期生生活学科　石井　綾

老大を卒業いたしましてから早や十四年の年月を重ねました。お世話になりました先生方、御無沙汰に打ちすぎておりますが如何おすごしでございましょうか、失礼乍ら紙面をお借りしてお伺い申し上げます。生徒の私は今年八十歳の新春を迎えさせていただきました。お蔭様で今のところ足腰も不自由なく、若い方々といっしょに趣味の会に、ボランティアに元気に参加いたしております。

健康な日々をしみじみ有難く感謝いたしております。これからも今日一日を大切に明るく楽しく暮らして行きたいと念じております。皆様の御健勝を念じつつ。

連絡と交歓の一日

七期生文芸学科　中西　信男

一月四日（月）　曇時雨風寒し

八時半家を出て先づ播磨田町の竹林治平様宅訪ね、ご夫妻に年詞交歓　健康祝し合い昨年末湖南支部役員会での決りし事項

一、恒例の老大同窓会公開講座出席を。

一、三月末作品展に出品を。

一、会報発刊に伴う原稿投稿〆切は一月末と連絡了承を得て。尚中国研修旅行と琉球王国の旅の申込用紙を渡しご参加をと辞去。襟を立てて北走。洲本町石井綾様宅へ年詞交歓と連絡事項「旅」のお誘いと昔の思い出話に少し花を咲せて辞去。同町の中井喜代子様へ同様健康を祝し合って辞去。向い風を押してペタルを強く踏み、幸津川町浄宗寺塩田様へ鏡開き法事中お邪魔して要項、旅共にご了承頂き不礼を多謝し辞去。幸津川橋へ押し上り湖上突風橋上俯きて息を整え橋上通過埋蔵文化財前を通って服部町へ津田剛様へ折悪くご不在とて書類を郵便受投函。後刻連絡をと又ペタルを新庄大橋渡って笠原町へ車輛輻輳の播磨田町K食堂でおそい昼食休憩後又々行動開始播磨田町大八木正治様へ同様交歓連絡勧誘して小生担当の最終三宅町の大場義紀様へ終着駅と心なごみユッタリと四方山話に花を咲せ程良く辞去。我家へ辿りついたら午後三時過。流石頑固爺もグッタリホームゴタツで夢路の旅。

早速お芽出度い句を一つ

　プリンス妃のニュースで国民総歓声

皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

随想

七期生園芸学科　山元　清

懐しの老人大学を卒えて、早七年余を経過し改めて年月の速さを痛感する今日此頃である。

老大二ケ年を振りかえり、よき恩師に導かれ、それにもまして良き友を得た事は何にも変え難い大きな収獲であります。未だに年に二回の同期会は何にも変え難い楽しみとなっている。

最近になって村の雑役も少し減って来た処へ、田舎では得難い〝さつき盆栽〟の指導者を得て、間があると盆栽展や、盆栽の講習等に参画するようになり、将来は展覧会に出品できるようなものを作りたいものだと、日々思っている状態です。

近況

五期生園芸学科　井上　一男

老大を卒業して九年目を迎えて思うこと、バランスシートは断然黒字である。

生涯の友　良友　に恵まれて趣味の枠が深くなって、楽しさ一杯で老後を送り得る自信が出来た。老大とは一つの文化運動

?

五九年九月二十一日はどんな日か?よほど特別な思出でもないかぎり思い出せないのが普通である。それは五期生の老大卒業式の日であった。

これを忘れないかぎり、まだまだ呆けていない。昨秋びわこハート駅伝に高齢者の部に出場した。健康には自信があります。

湖北探訪記

十期生園芸学科　竹林　治平

私達の園友会平成四年春の研修は湖北路を巡る事に決り、先ず長浜の盆梅を訪づれ、樹齢四百年複郁と匂ふ舘に一刻を雅趣に浸る。大通寺に馬酔木展と本堂に参詣重文の書院や庭園を観る。黒壁ガラス、神照寺、国友鉄砲の里を興味深くいろいろと学び識る。あと拙き詩に託し筆を擱きます。

小謡　北湖探春

春浅き姉水の流れ　もと清く道芝の萌え出ず香り　一夜の
泊り須賀谷に　匂運ぶや至花の風　梅花を主と酌むなりや
名ごりを宿に渡岸寺　幾世を頼む観世音　余呉湖に映す天人
の　羽衣かけし柳影　揚抑高く舞に舞う　春こそのどけかり
ける

出会い

十三期生園芸学科　寺田　敬治

人生は両親との出会いを始めとし、さまざまなであいを経験しながら一生を送るのである。そうしたなかで法語にある「遇いがたくして、いま遇うことを得た」という深い感動とは少し意味もずれるかと思うが、浅学非才の小生が高齢者の生甲斐として学習できたのも老大ＯＢ諸兄の勧誘の賜であった。また卒業と同時にＯＢ会に入会させて頂きましたが今後共宜しくご指導の程をお願いします。思い返せば老大の二年間多くの著名な先生方よりバラエティーに富んだ貴重な知識を会得し、生涯学習の芽を与えて頂いたご恩に感謝している。

変遷目まぐるしい国際化、高度情報化、高齢化の時代を迎え価値感の多様化な今日、生ある限り社会の変動に取り残されないよう、新しい時代にふさわしい生き方を身につけ、自分の天職である社会福祉活動に貢献できればと没頭している昨今である。過去二年間恩師や県内多くの学友、先輩諸兄の方々との出会いを今後も大切にし、よき思い出としたい。

意欲的人生

十三期生園芸学科　津田　剛

一年三百六十五日、休む閑もなく県下を駈け巡っていた多忙人間から開放され、時間的に縛られることもなく、コレだけは仕上げなければという仕事もなく、平々凡々とした日々を過すようになって、毎日が退屈で仕方ない生活をするようになりました。生涯学習の必要性を説き県市民に強要までしてきた自分として、全く恥かしい日々で、脱脚したい気持で一杯でした。挑戦しました。

県民放送大学講座（一年目は終了証受領）二年目からはレポート未提出）・守山市民教養大学（二回連続卒業）・県老人大学（園芸学科卒業）現在は守山市老ク連コーディネーターとして高齢者の在り方についての放言・雑言・提言活動をしたり、居住自治会の広報紙「はっとり」は十二～三年毎月一日発刊しております。

湖南支部（野洲）

過ぎし日の郷土の涙の誇り

二期生園芸学科　内堀　善二

今の世では想像もできない事件が、わが郷土近江富士山麓三上で起きたのが天保の一揆であり、百五十年が過ぎ去りました昨年十月十八日、悲劇の主人公土川平兵衛義民碑の前で、宇野町長・宇野元総理など各界の名士を始め、一般参列者六百余名が参列して、百五十年義民祭が好天候のうちに盛大に挙行されました。

主人公土川平兵衛様は陽明学を修められ、理知的で聡明な庄屋であり当時四十二歳でした。

ことの起こりは徳川の末期、財政不如意がたたり増税を目的とした不正検地（間竿は普通六尺一分、それに五尺八寸の目盛りをした）に端を発したもので、多くの地区では賄賂により検地を逃れたが、義憤に燃える三上村庄屋土川平兵衛様は、野洲栗太、甲賀三郡の庄屋百数十人と秘かに相謀り、我々が想像も出来ない検地十万日日延べ（二百七十四年延期）を、農民四万人の力で勝ちとったのであります。

このように聡明英知に冴え人間味溢ふるる土川平兵衛様なればこそ一揆勝利が勝ちとれたのであります。

しかし首謀者を始め多くの庄屋衆と各地より参集参画した百姓達は、大津・京都の獄舎につながれ病死獄死する者相次ぎ、発頭人始め庄屋達は江戸送りとなり、刑罰を待たずして牢死獄死したという痛ましい事件で、また一揆に関係した農民の多くは田畑家財が没収され、その数は一万名にも達したと言われます。

百五十年前の天保一揆のことを紹介して、その発頭人であった庄屋土川平兵衛様が、わが三上の人であることを、三上に生を享けた者として誇りとする一人であります。

江戸送りの途次、石部宿での家人や村人との別れの際に与えたと言う土川平兵衛様の辞世の和歌

人のため身は罪とがに近江路を
別れて急ぐ死出の旅だち

この和歌に秘められた土川平兵衛様の村人達への熱い思いと村のために一家一身を犠牲にして顧みない義民としての心意気は、いついつまでも三上の人の心に伝えられていくことでしょう。

新春随想

五期生文芸学科　川嶋　勇

どんなに気を若く持っていても人間八十近くなると、耳は遠くなるし、ならなくてもいい処が近くなる。物忘れが高じる反

面、今まで見えなかったものが見えて来るから不思議である。

以前二度も軽い脳梗塞で倒れたが、退院後は毎朝起床時に風呂の脱衣場で、亀ノ子たわしでの全身磨擦を励行している。そのお陰か五年来、風邪一つ引かず至極健康に過させていただいている。ビルマ戦線で拾った命を、有難いことである。

尤も、いくらタワシで擦ってもどうにもならないものが三つある。一つは難聴、二つ目は涙脆さ、三つ目はアレ、これが自然なのかも知れないが体は好調。予定表が真っ黒で周囲が気を揉む程忙しいが、一度限りの人生、自分の為だけでなく何処まで燃焼出来るか、やってみようと思っている。

十二月という月は矢鱈に忙しくて、身辺の訃報しきりで余り好きな月ではないが、けじめの月。周囲も自然もちょっとも変らないが、年が改まれば気も改まる。

今年も寺で「除夜の鐘」に数取りを立会った。鐘の余韻を追い乍ら宇宙飛行の毛利さんが、宇宙船「エンデバー」の窓から見たという地球、緑色に輝やいていたという星の姿を、ふと思い浮べた。

何れはその星の一つへ独りで旅立たなくてはならない日が来るだろうが、その時は涙をこぼさないで「いろいろ世話をかけたナ、有難う」と言えたら最高だなと思った。温い大晦日。

俳句

湖南支部（草津）

七期生文芸学科　大原なつ子

聖堂の扉の外の蝉時雨
窓下に鉄線花おき京の露路
鮎を焼く炉端を囲み山の宿
晩鐘を背に帰る道ちちろ鳴く
磨崖仏かくるるまでに紅葉せり
枯色の蟷螂うごかず土手の道
体操の汗拭う眼に雪の比良
初硯姉の傘寿に贈る文字
門松や料亭の庭清められ

幸運

七期生陶芸学科　上村　正道

来年は喜寿、家内は古稀、おまけに金婚が重なる。誠に目出度い。結婚式は戦争最末期、形ばかりの式を挙げたが、翌月にはもう赤紙が来た。北満への船出の際も、北支への出征時にも、歓呼の声で盛大に送られたものだったが、最后の時は一人の見送りもなく、夜陰に隠れての寂しい船出だった。その代り敵潜

艦の出迎えは盛大だった。

次の難関は病魔だった。心筋梗塞の治りかけに胃癌が見付かった。それも進行癌だった。老大卒業迄再発もなく無事にこのハードルが超えられるか真剣に考えたものだった。今日あるのは誠に幸運の一語に尽きる。

ぼけ防止

九期生生活学科　寺田ミツ代

一月は往き二月はにげる三月は去ると年が明けてから早さは今も変る事はないでしょうが、七〇歳を越え老年としての私の人生は今からです。私の健康法の一つとして数年前から手編毛糸教室に通い頭を使い両手を動かし、若い人達とも交流を深め年に二、三回の懇親会や作品展への出品を楽しみに精を出しています。

又、余暇をみて老人クラブの会合や奉仕活動には進んで参加し、一人でも沢山のお友達を作り老を防ぐように心掛けております。

平成五年も自ら目標を定めて豊かな人生に向って挑戦したいと考えております。

俳句

九期生文芸学科　大原　康園

春を呼ぶ歌声高く子ら駆ける

犬連れて花見るための回り道

ゲートボール弾(はず)みて丘の若葉風

穴掘って酷暑に耐える利口犬

紅葉狩り室生の山脈(なみ)陽に映えて

年明けて詠む俳諧や又新た

古希過ぎし妻の手習い初硯

老人の歩み

湖南支部（栗東）

五期生文芸学科　高田　末廣

人生の幸福は先ず健康で自分の趣味を持ち楽しみながら日常

り、老後の幸せは健康で終生まで持続出来る事を願いたいものです。
私も人生寿命の坂道も早や登り切る年齢に成り、日々生活を大切に思い健康は自分で管理して行かなければならない。健康の喜びは自分で勝ち取る外ありません。壮年期から一刻一刻今の社会に変望する時代であり、生涯学習を以って体と頭の健康を持続して、老後の余生を楽しめる生活を確保出来るよう、努力致し幸せなる日常が送れるよう、今日一日の健康を感謝致し乍ら筆を置きます。

随想

十一期生文芸学科　豊岡　力

昭和末期（六三年）、生をえて七三年大阪で暮らしてきた私。妻が病弱の為、子供夫婦から再三のすすめにより、已むなく会社を勇退し、知人のない淋しさを覚悟して、六月に現住地に移住。隣人の誘いで老人会に加入、そのおかげで八月に老大の申込を知り、早速栗東町役場に申し込み、幸い入学通知を受け十月十三日滋賀県立文化産業交流会館にての入学式に参上。一度に文芸科三四名の友人をえたことは、私の残り少い人生に大きな燈明を与えられた。それ迄の私の智識は、会社での経理経営のみで、書道俳句は皆無。書では有名な滋賀大名誉教授三原研田先生、俳句は俳誌花藻主宰藤本映湖先生より、初歩より懇切なご指導を二年間に亘り教えを受け、愚鈍な私でも書、俳句の輪郭を悟りえた喜びを終生の糧として、生涯学習の基本「一生勉強」「一生青春」を座右の銘として。年一回の県シルバー展、老大OB作品展、町老人会自治会主催の作品展に、書は掛軸に、俳句は短冊に、拙くても進んで出品してきた今日迄です。
何よりも老大二年間、共に学んだ友との集い、卒業時三四名が、大津、湖西、湖南、甲賀、湖東、の五グループを作り、春秋二回その地区を散策後、懇親会を開き旧交を深め、その都度随筆俳句短歌を、担当幹事の基に送り、入学時より続けている会誌「すがやか」をワープロの打てる三氏のお蔭で、昨年十二月二十号迄発刊できた。移住して四年六ケ月多くの賢友をえた現在を振返ると共に、自分の幸を痛感する反面、四名の友が鬼籍に入りし哀しみを噛しめ、心よりご冥福を祈り明日への励みとす。

ささやかに実践

十二期生園芸学科　丸山　憲吾

老大での二年間が私の人生を変えた、といえばいささかオーバーに過ぎるが、かの岩崎恭子さんの名言を借りれば、今までに生きて来たなかで一番楽しく貴重な二年間であった。その緊張と楽しさとがないまぜの二年間も、卒業して早や一年半。この間学習で得た事を少しでも実践で、との思いから、同好の志を訪ね歩き、盆栽同好会を創ったり、老クでは趣味を活かした手づくり作品展を推進するなど、ささやかながらも前向きを心掛けている。それにしてもお世話になった諸先生はじめ、学友や関係者の方々には、折りにふれ感謝の気持ちで一杯である。

桜に百年の樹少なく
松に千年の緑多し

桜は華かで、松は地味だが、松の方が桜よりも長生きをする。皆々様の御健康を祈ります。

松に千年の緑

十一期生文芸学科　北村太兵衛

私達十一期文芸科卒業生は「すがやか」会と名付けて毎年春秋二回同窓会を開き、夫々の地区で当番制で会合をして近況報告及交友を温めて居り毎回変った土地での交流を楽しみ其の日を待って居ります。

今年我々待望の老大校舎が開校され県下の皆々様方と共に御喜び申し上げると共に今後益々老人大学の御発展を心より御祈り申し上げます。

県老大新校舎建築を祝う

十三期生園芸学科　山村　正雄

県老大を卒業させていただいてより四ケ月余りを経過しました。老大のお蔭で素晴らしい友が大勢出来て心が賑かになり、年賀状などにより遠い友の表情などを想い浮べて種々思いを馳せております。

さて、老大新校舎が今建築中で、夏には完成と聞き、後輩の喜ぶ顔が瞼に浮びます。

尚来年度の同窓会総会も新校舎で開催される予定とのことで誠に喜ばしくお目出度いことで、我が老大の益々の発展を表徴するようで我々の喜びはこれに過ぐるものはありません。

誠にお目出とうございます。

ねんりんピック92 山梨大会に参加して

八期生園芸学科　中村　利夫

武田信玄一色の山梨は、又風光明媚な土地でもあります。

私達の参加したペタンク競技の会場、三珠町は、南アルプスが眼前に迫りその上に富士がうっすらと姿を見せ、晩秋の風が心地良く吹き抜ける山峡の町で、又歌舞伎の里として、ぶどうの産地としての町づくりに懸命で、町を上げての歓待に気持良く競技をさせてもらいました。

又競技の運営でも多くの役員を配置し、ワープロやコピー機なども持ち込み、戦績を都度知らせてくれるなどの配慮があり、この点でも非常に参考になりました。

雑感

十三期生スポレク科　岡井　昭

老大卒業後約半年近くを経たが、在学中二ケ月胃手術のため入院、その後遺症で体調不十分である。学校で要請されていた地域でのボランティア活動は皆無である。最も、事務屋のアルバイトは続けているため両立は困難ではあるが、可能な限り実現した。老齢化社会へ好むと好まざるとにかかわらず突入する。その限りにおいて福祉諸問題の探究はさけて通れない重要事で、我々にも大きな関心事である。同世代人としてなすべきことは、何にかと自問自答の繰返しで、いたずらに日々を過している今日である。

陶芸に親しむ

九期生陶芸学科　藤本　龍三

陶芸に親んで早くも六年が経過した。この間、老大在学中は殆んど休まずに月二日の作陶に励んだ。しかし、卒業後は他の習い事等と重なり、月一日作陶に行くのが精一ぱいである。

平成四年度から町内老人会の事業として誕生会を計画したのであるが、四月より体調を悪くし、計画倒れになってしまった。そこで、記念品として配布するのに陶芸作品を思い、小さな花器を作り、本年一月に各会員に贈る事ができた。会員の喜こばれた顔を見、老大で習った成果を有難くしみじみ味わった。

これからも作陶に精を出したいと念願する次第である。

甲賀支部

私の老後

十三期生陶芸学科　井上　重治

人生七十・古来稀なり

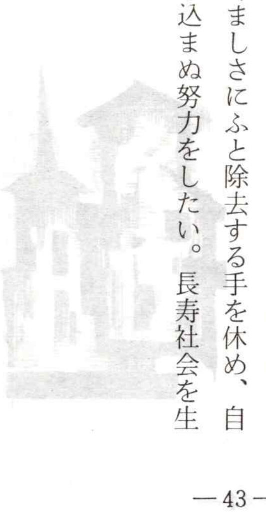
私も本年古稀を迎えましたが「人生僅か五十年」と言われていたのは昔のことで今や人生八十年。私が無事古稀に達するまでには多くの友人が戦場で散ったもの、病いに倒れたもの、又交通事故で去ったもの、これらの友人は還暦も古稀も迎えることなくこの世を去って行ったが、私は今幸いにして、子供や孫達と気楽に過している今日の生活・スポーツやレジャーによって結構快適な時を過すことがありますが、その楽しみは終れば空しくなり、また次の楽しみを考えますが。楽しさで「生」を満されるだろか。本当に生きることはこんなことではないと。その目覚めた心が突き上げてくる。それをまことの「生」を生きたいという要求だろう。その要求にかなった生活でないかぎり人生の真の満足はないように思う。老後に命あるかぎり〝わが人生〟を送ろう。

「天命に安んじて人事を尽くす」

健康管理

九期生園芸学科　山本　有行

もう年だからと自分で老け込んでいないだろうか。「一笑一若一怒一老」と云われる、にっこり笑って一つ若くなり、怒って一つ老ける、笑顔で叱り話もし、疑問を持ち勉強することは話上手聞き上手。徳は積むが老ける事はない。自分に適したゲートボールで、仲間とのふれあいを楽しみ乍らの運動や、遊ぶ暇はあるが書読まぬと云う歌が有る。ボケ防止に脳細胞に刺激を加える読書に心掛け。神のみが知る自己の人生行脚の向上に終点なし。庭の雑草のたくましさにふと除去する手を休め、自分の力で健康管理をし老け込まぬ努力をしたい。長寿社会を生き抜くために！



心境の変化

八期生陶芸学科　千代倉太郎

私が七十歳に成った頃はまだまだ元気で。若い者に敗けるものかと云う思いが有った。だから体も思うがままに動いた。其のせいか命も毎日生きて居て当り前だと思って居た。今思うと

罰当りな心境だった。私今年八十一歳に成った。八十歳頃より少しずつ心境に変化を見る様に成りました。近頃では一日が終り御風呂に入り湯にひたって居ると。嗚呼今日も一日無事に生きさせて戴いたと。自然に手を合せ有難う御座居ましたと口をついて出ます。是も七十歳の時と八十歳を越えた時の心境の変化でしょうか。老人の弱気でしょうか。
皆様笑はないで下さい　合掌

近況

七期生陶芸学科　真鍋　光徳

私は昨年五月に胆石の手術をし、約二ケ月間入院しました。入院中は医者や看護婦さんの云うことを守り、早くよくなるよう努めました。お蔭様で順調に回復し、現在は殆んど元の元気を取り戻し、毎日陶芸等に励んでおります。入院中はつくづく健康の有難さを痛感致しました。

今年一月二十日七期会の新年会を、本郷会長のお世話で、大津の「いこいの村びわ湖」で開催しました。

参加者陶芸六名、文芸四名、生活八名計十八名（内男七名、女一一名）昼食の後「大津歴史博物館」をゆっくり見学し、一五時過ぎからホテルでくつろぎ一八時から宴会にうつり、酒がまわるにつれて、詩吟、和歌朗詠、謡い、カラオケ等が出て、楽しい一時を過しました。

翌日は外は雪景色、朝食後大津駅で解散し、一部の人は京都の初弘法に参る人もありました。

三月には七陶会の奥飛弾温泉旅行が計画されております。

燃える日々を

十二期生文芸学科　北村　里

床の中で目覚め、朝の光が眼にはいる時、生きている喜びをかみしめます。それは、これから起き出し自分の手足で何かが出来るという事が前提にあってこその喜びです。

「老いの克服」という或る文の中に「人は何か目標を持って常に燃えつゞける。であるべきです」と…。目標も生き甲斐もなく徒に空しく過ごせば若人であろうとも老いのスピードは速

度を増します。「縁のなきものと思いいしゲートボールの光るトロフィー我ら掌にせり」輝く日もあれば友の訃報に涙する日悲喜交交(こもごも)繰り返し乍ら充実した燃える日々を送りたいと思います。

鉢の紅梅

四期生陶芸学科　島田寅治郎

床から出された鉢物の紅梅が、縁先の日溜りに見事な花を四、五輪開き、淡い楽しさを見せてくれる。水と太陽の恵みに応えるかの様に、物言はぬ自然の覚り(迷いを去って真理を知る)である。新聞を見ると、悲しい報道が目に付く。国連安保理が出した、平和的な施策に、イラクのフセイン大統領が強硬姿勢らしい。何時も犠牲になるのは、物言えぬ階級の人々らしい。時に今日は全国弐百四万余の成人式の日、大人の仲間入りする若人も、受入れする成人も、物言わぬ紅梅の様に、自然に素直に、真理を覚る人間になれる様に努力して生きてゆきたい。

交流

十期生陶芸学科　林　四郎

一九八三年に日本、中華民国、台湾、韓国、香港、シンガポール、マレーシア、フイリッピンの七ケ国の代表者が集って、アジア老人学友協会を設立、第二回以降、韓国、台湾、日本と各国で大会を開催され本年五月には第九回目の日本大会が開かれることとなり、台湾、韓国、日本（約四〇〇名）が参加されます。国際社会時代に適応する高齢者としての各国と親善交流を図り、教養を身につけることがこの協会の目的である。老大OBの会員他全国で約三〇〇名近くおられます。皆さんも外国の方と交流に参加してみませんか。

副寿暦を見て

五期生陶芸学科　金山　良吉

平成五年度の副寿歴を見ていて気に成る事を思出した。昨年末に小学校時代の仲の良い友達が私しの知って居る三重県の病院の照会を依頼されて入院する事に成り、一ケ月後通院に切替えた時主治医も承諾され退院は大安の日退院する事に成ったのに、吉凶は迷信だと言い仏滅の日に退院して来た。私は不吉な

予感がしたが年末の寒い日風邪をこじらせて肺炎で急死した。私は建設会社を停年で退職した関係で、方位とか六輝の吉凶は習慣的に信じて居る。偶然かも知れないが古い時代より伝はって居る事は忌み慎む事が大切で有ると思う。

健康で社会の為に務めたい。

みどりの集い

七期生園芸学科　橋本清一郎

老人らしく「ふれあい」の中で高齢化社会に対応しつゝ互に余生を如何に楽しく過すべきか、今一つ何等かの趣味を通じ一層の親睦と仲間造りをと老大卒業を契機に旧村を区域とし「佐山みどり会」を（六十余名の朗人）組織した。永く本村の教員として馴染の深い有名人、県講師の嶋岡先生を迎え年数回の勉強会（実技）を施し実生栽培ー接木と、集う毎に楽しく和かな声を聴き毎年観光を兼ね先進地の視察を実施し、他のグループからも羨しがられ、益々意を強くして生ある限りつづいて指導を受けたいと希っている昨今である。

「人には愛を　花には水を」

人生をいきいきと

七期生園芸学科　中沼　宗寿

まだ生きているうちから死を考えることなどはまったく無意味である。生かされている間は精いっぱい、生きることだけを考えればよい。人生をつくる主因は自分自身の心の中にある。このことを自覚して人頼みの姿勢から脱却することが大切である。悪い条件があっても、それを生かしてしまおうと決意すれば、悪条件はかえって自分を成長させる好条件となる。人生には嘆きの人生と楽しみの人生の二つしかない、どちらを歩くかは各人の選択の問題である。どちらを歩くにせよ使うエネルギーは同じである。ならば楽しみの人生を選びロマンをもっていきいきと生きよう。

天職

五期生文芸学科　山脇　義一

父祖の田継ぐ子なけれど今夜また基盤整備の話を聞きに行く

右の短歌は、かねて私の県の老大で伊藤雪雄先生に御指導をう

けて勉強し、思い掛けなくも、県の文学祭に推せんを受けた一首であります。山深い農村に生れて農を天職と考へ精農を志して居りました。私も兵役従軍。父母との夭折。等の試練に遇乍ら辛うじて先祖よりの農業を守って参りましたが、今や其の愚は農業経済の変遷と言うか悪化に依って稲作農業後継者難や、別居生活と言う現象で報われ毎日毎晩農地圃場整備事業推進の為め身心を痛めて居ります。

歌でなく苦しい日記の一節です。

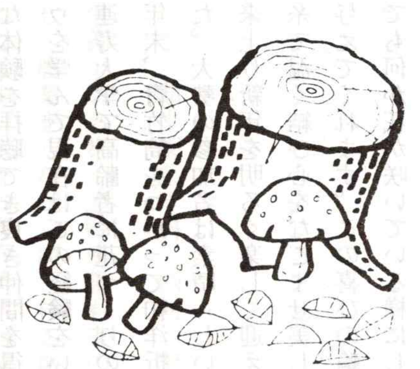
高齢者洋上セミナーに参加して

十一期生園芸学科　今井　博

平成四年十一月二十五日から二十七日の二泊三日実施された事業に参加し、各市町村の高齢者四百数十名が船上での各種セミナーや共同生活を通じて自己研鑽し、多くの仲間と交流を深め、生きがいの高揚と社会参加活動、地域活性化を図るを目的とする主催者側の主旨で、県老ク三十周年記念行事に参加させて頂き私本当に良かった。今後益々元気で老いる事なく、地域活動のリーダーに成りたいと思って居ます。

宮崎の人達との交流や、各部活動教室等色々勉強を致しました。

洋上セミナー「レイカディア」の船に参加して、貴い体験をさせて戴きました。



人生とは

湖東支部

三期生園芸学科　森野重太郎

私は本年八十七歳を迎える。過去を偲ぶ時世の有為転変に斎された近江商人の一人です。我国経済の中枢をなす大阪船場に繊維問屋を父創業の跡を継承し、商売一途に五〇年余此の間有余曲折戦前戦後と比類なき体験を悉く痛感する。業界には著名の先達豪商の方々が沢山居られ組合年頭の名刺交換会には蘊蓄ある講義を聞き尊さを感銘しました。其の一例今も脳裏にある近江商人の心髄とは「身を持する事謹厳にして人を遇するを以つて尊しとす」

今や世界の風潮も激しくバブル経済の崩壊、政界の暗雲等前途多難な人生を如何に若人は対応して行くでしょうか。

生がいに思う

八期生園芸学科　溝井　常夫

生がいを見いだす「生涯学習」それは生涯の各時期に応じ機会を利用し自習的・自発的に学んでいく活動の場。老大に学んで同じ趣味をもつ学友が出来た喜び、特に永年公務員や会社の役職につかれた方々の貴重な体験を拝聴でき良き仲間を得た事です。老大で園芸のノウハウを学んで現在はこの経験をいかし町公民館の園芸教室、老ク連寿大学で高齢者に花づくりの手ほどきを教える昨今です。昨年末、青竹筒をつかって和洋折衷の寄せ植え造りを学習しました。大勢の参加者は素晴らしい優美な自然を表現した作品が出来上り新年を明るく楽しく迎えられた。花は人と人を見えない糸で温く結び心をなごませ美しく素直な心を教え生きる喜びを与えてくれます。この喜びの輪を広げ玄関に一年を通して何時でも何か花が咲いている様にしたいものです。しかも四季咲きで年中花の咲くものより季節がくると咲くものがうれしいではありませんか。月順に表を作り花木・草花・鉢植え・野草などと言う様にバラエティに富んだ組合せ、種類を拾い出し種子や苗を入手する手立てを考えて育てた事の無い珍しいものも手掛けたいものです。異性を感じ色気を忘れず人生経験で身につけたものを少しでも役にたつ様、健康で幸に生き社会に対するご恩返しのため微力を尽したいと希しています。

生きる喜び

八期生園芸学科　竹村　善二

宵えびす
　皇妃内定　春の風　（竹善）
酉（とり）年・とり、どりの、とりえもなくて、
　またも年とり。

大正八十二年二月三日、節分に、支部の理事より原稿依頼の電話があり、筆をとることにしました。「滋老大」同窓生のみなさん、お元気ですか。お伺いします。

平成五年、ご縁のある年、おめでたい、皇妃内定の春、生きる喜び、生かされる喜び、喜びを求め、喜びに生きることが、最大の幸です。天空は私の心、私の心は大空、ケッコー々コケッコウー、ながく聞えません、雄の声、無心の音声、老大卒業後、早や六年になりますが、忘れることの出来ないのは、八期生の顔、顔と顔。卒業後、①に絵（水彩）、②に花づくり、③に冠句つくり、④に写真と趣味に生き趣味に生かされて、倖せと感謝の毎日です。

　外国遊行もよろしいが、身近に幸せの花が咲き乱れていることを忘れないで、お互いに、近江の歴史、文化を大切に、常に「老大」で学んだことを糧に、滋賀の文化の創造に生涯を生きぬこうではありませんか。

　「信は力」自らを信じ、神仏を敬し、人を愛し、この人生を前進又前進、円満、長寿を柱に幸せを求め、強く生きましょう。

　花に生き　花に生かされ　華（花）と散る　（竹善）

みどり会親睦の集い

十一期生園芸学科　塚本　次郎

十一月十七、八両日にわたり、みどり会親睦旅行が北陸路で実施された。

米原文産会館に集合した一行は迎えのバスで一路福井えと迎う。久し振りの出会いにてお互いに元気で参加出来た事を喜び合う。かまぶろにて昼食、芦原温泉みゆき旅館で一泊する。翌日越前大仏、東尋坊を散策、越前にて昼食二日間の親睦旅行日程を終る。

二年間学んだ同級生が恩師辻先生を囲んでの旅行、昔の幼き頃の修学旅行を思い浮べながら年は老いても懐しいものだと、友と語らいながら、次回を楽しみにお互いに健康でありたいと願う。

感謝しましょう

十一期生園芸学科　西村　繁男

五十年前真珠湾に戦火の火蓋が切られ、連戦連勝も束の間、敗戦、終戦後は食糧が不足し、農業をしながら腹一杯ご飯を食べられなかったことを思い出します。我々の青春時代は悲惨で

した。その時代に比較すると、今の世の中は結構な世の中です。グランドゴルフ・ゲートボールと運動三昧の毎日（健康つくり）です。こうした生活の出来るのも国家の為に命を捧げた英霊のおかげと感謝したいと思います。

今後は心身ともに健康で長生きし、地域社会に貢献したいと思います。

最後に皇太子殿下のご結婚決定に国民としてお祝い申し上げます。

この頃の私

十二期生園芸学科　川原崎幸二

終戦の年「艱難克服」を色紙に書初めしてから昭和六十三年末、永年ご支援頂いた職を辞し「悠々自適」と認めたもののそれからを案じていた処へ老大入学を勧められ、卒業時「老大を心の糧」として過そうと心がけ、ボランティアとして折々訪ね皆さんが体験されているように、広く新しい年頃の友達を得て交信し励ましを受けて暮しています。

叙勲受章の際これからは余生でなく天命を全うするよう教えられましたが、それらを思い合せ一日一日実り多い年であるよう念願している毎日です。

皆さんのご交誼をよろしくお願い致します。

梅香に酔う

十二期生園芸学科　小杉　佳正

暖冬のこともあって、梅の開花が例年になく早かった様であるが、我家では外気にかかわりなく元旦には二、三分咲で順次咲く盆梅を花台・飾棚・床などにおいて節分を過ぎる頃まで楽しんでいる。

然しこれには家族の協力があっての事である「おぢいさん、お梅さんお風呂に入れましょうか」最後に入浴する愚妻や、娘が声をかけ浴室に入れてくれる。

今年で三年になるが、十二月中旬から大晦日にかけての行事となった。これも老大で習った収獲である。そして寒日一人端坐し、ふくよかな梅香に酔う一刻、また格別の趣がある。

我が家の果樹園

十三期生園芸学科　矢嶋　昇治

平成の世に変った機会に田を果樹園に転作することにした。

園芸書から選んで苗木を購入したが接木苗が多いので成育が早い。ポナンザビーチはすぐ次の年から実をつけたし、昨年はほとんどの木に実がなり摘果にも忙しかった。まだ花のなかったナシも短果枝をつけているので今年は楽しめそうである。

剪定、病虫害防除、摘花摘粒等々と忙しいが世話をすればそれに応えてくれる。初めてジベレリンを使ってできた種なしブドウを口にした時は思わずバンザイといいたくなる。

畑、果樹、盆栽などなかなか暇はないが「日々是好日」である。

「喜びの心」

八期生陶芸学科　徳田　敏郎

老大卒業後五年余が過ぎた。幾多の公・私用の合間を、地元の成人・シルバー大学・長寿学級等の生涯学習と、真宗門徒の聞法の会へ出席しています。そこで、お蔭様でという事が少しわかってきました。先日のシルバー大学で、八耳先生が「今、失われているのは喜びの心」であると話されました。定期的に年金がもらえ、健康でゲートボールにも出かけられ、家族的にも恵まれている私は世上の幸せ者です。これも皆、神仏のご加護は元より、高齢者福祉対策、家族や人様の支えのお蔭と感謝して、「喜びの心」で、人生の定年を迎えたいと願っています。

合掌

健康であることのすばらしさ

九期生生活科学科　神山　やを

昨年の暮、一寸した油断から第一腰椎の圧迫骨折という怪我をしました。その直後は傷くてただじっと安静にしているより方法はなく、自分の不調法で一瞬にしてこの様な現状になった事を静かに反省し、毎日世話をしてくれる家族に感謝し、廻りの人々の温かい励ましに心うたれるばかりで日々を過ごさせていただきました。

その療養中に思いました事は人間はどこが悪くても不自由でこれ位のけがでとどめていただいた事を感謝すると共に、健康で過ごさせていただける倖を改めて有難く思わせていただきました。

洋上セミナーに参加して

十一期生生活科学科　中村　春美

滋賀県高齢者洋上セミナー「レイカディアの船」の三日間の研修旅行に参加させていただきました。参加者四百六十名の皆さん老人とは思えぬ若々しい方ばかりで、一日一日を本当に楽しく、宮崎県の老人クラブの方々百名との交流会を行い、出合い、語らい、学びあい、本当に楽しく三日間を通して、生きる喜びを身をもって学ぶことができ貴重な体験の機会を与えて下さった、主催者の皆さんに深く感謝しております。老いて年は重ねても気は若くして、月日、日日に、つよりたまへの気持ちを持続すべく、孫と共に明るく楽しく毎日をすごしております。

「和」

十二期生生活科学科　野玉　一子

去年の十一月洋上セミナーに参加させていただいた。職場の皆様のご理解あってのこと。洋上に魅力を感じ決意した。

老大卒業生として参加したが、年齢の範囲も広く、所属も老人クラブ、老大卒業生等種々で、歩んで来た道も様々な、四百人以上が同一船で寝食を共にしたが、三日間びっしりとつまったスケジュール、せまい船室と短時間に移動しての行事等を、和やかな雰囲気の中で楽しく研修できて、本当によかったの一語につきる。主催者に感謝！

三日間、瞬く間に過ぎたが、多くの友との和を大きな財産として大切にしていきたい。

このごろの私

十三期生生活科学科　谷口　いよ

「今日一日が健康でありますよう」七十歳を越えた私のこのごろの願いです。特に健康と食べ物に関心の深い私にとって老大で学んだ川村先生が嫁の恩師でもあり、日常の我が家の食事について、共通の話題が得られ、専ら自家産の野菜を豊富に使った料理で健康な食生活をと心掛ております。私が栽培した野菜と嫁の手作りの料理、お蔭で家族みんなも喜んで食べてくれ、楽しい毎日です。こうしていっぽうでは健康にも充分気をつけ、心も豊かに老後を美しくおくりたい……と、これが私のささやかな願いで、日送りする今日このごろです。

楽しき再会

十三期生生活科学科　福地美代子

老大を卒業させていただいて五ケ月になり、在学中のプリン

トを見て居りますと同級の方に無性に出合いたくなりました。住井様と打合せて予てよりお話の出て居りました新年には多賀神社へ参拝をしようと、早速に皆様に通知を出し一月十三日彦根駅よりバスにて神社に参拝し、不二屋さんに集りました。皆元気でまああなた若く美しくなられたのじゃないのとか楽しくわいわいと早や四時間経ってしまいました。又の再会を約束して帰路につきました。気を許して話合える友とは本当によいものだと、これからも大切にしてゆかねばと、つくづく思いました。

所感

八期生文芸学科　田口　敏之

京都より蒲生郡の日野の町に住みて十有余年となる。

思わざる「びわこ空港」問題にて住民の心も揺れている。

子供人口や生産年齢人口が減少しつつある今日、老人人口は二十一世紀に向い急速に増加している。

世代交代の時代といわれているが、今こそ我々老人の体験と知識を生かして心豊かで楽しく健やかな地域社会の建設に当るべきときと思う。

私は、短歌の集い「波知起会」の月一回の開講に参加しているが、日野町にても短歌同好のグループの結成と拡充に努めて文化活動に精進をしている。

老人クラブと社会活動

八期生文芸学科　中川宗多郎

光陰矢の如しといいますが、老大卒業五年を経過しました。

平成二年七月、五個荘町老人クラブ連合会活動推進員（現在はコーディネーターと改称）を委嘱され、老人クラブ活動の調整運営に従事しています。会員は約一九〇〇名、単位クラブは二十七単位の構成です。生涯学習といはれますが、老ク連事務所におりますと、役員さんはじめ多数の会員さんと話をします。人生経験豊かな方々との交流により広く仲間づくりと社会参加の成果を得ております。

趣味活動として、古文書研究、俳画、書道、歌ごえクラブに参加しています。呆け防止になるかならないかは別として、楽しめたらよいと自己満足で割り切っております。

『学ぶひまあらずという者は、ひまありといえども、また学ぶことなし』という格言があるが、このようなことで社会の落ちこぼれのないよう、互いに頑張ろうじゃありませんか。

七年振りに参加者名簿で健在の学友を尋ねることが出来ました。湖東町から参加されている学友大阪逓講時代同じ寮生の先輩である。別れて以来軍隊生活等々で文通もせず又、生死さえ解らないまま、でも洋上のご縁で逢えた喜び、これからも与えられた命を大切に語らい、学び合いを深めたいものです。

ドライブの楽しみ

十期生文芸学科　松吉　良清

年に一度はマイカーでの小旅行を楽しんでいる。その時期は冬期が多い。人の動きが少なくなるときだからである。この季節では行先によって雪や寒気に見舞われることがあるから、対策に万全を期さねばならない。昨年暮に日光から鬼怒川温泉に出かけたが、中禅寺湖では雪降りで、いろは坂の上り下りにはチェーン装着でなければ走行できなかった。上り坂の途中で車を止め、通行車に気を配りながらのチェーン装着など体力は勿論、機敏性も要求され若者に負けない気力も養われ、老化防止に役立っており、今後もドライブを楽しみたいと願っている。

三つの宝

九期生文芸学科　小泉藤次郎

老大を卒業して三つの大きな宝を得た。先づ其の一つは三原研田先生の御教に依り書の素晴しさを知り勉強致して居ります。また、俳句の楽しみ町内で同好者が月一回集い、句会を楽しむ喜びこれ花藻の主宰藤本先生の賜と謝しまた花藻の会員としても投句させて頂いています。最後の一つは県下一円に友を得た喜びは何物にも代へ難き宝である。今なお年三・四回の会合はうれしさの余り刻の経つのを忘れさせてくれる。

皆様お互いに健康管理に充分気を付けてそれぞれの地域で楽しくまた少しでも生かされた喜びに感謝しつ社会にお役に立つよう致しましょう。

合掌

洋上セミナーに参加して

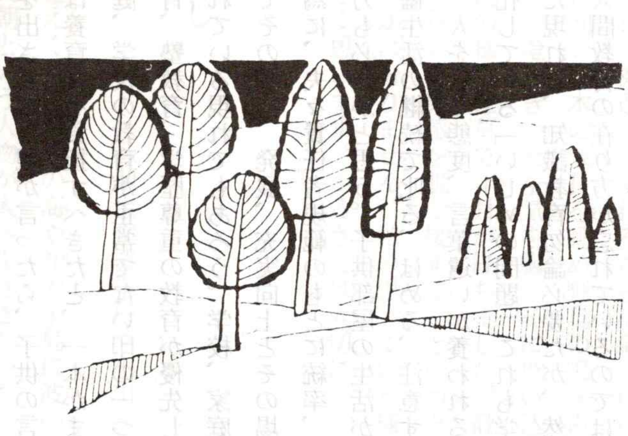
九期生文芸学科　田井中元一

老大研修旅行に参加して知りました「レイカディアの船」老ク連結成三十周年記念事業が計画されていることを知り、十一月二十五日から二泊三日の洋上セミナーに参加させて戴き、出合い、語らい、学び合いが出来ました。出合いといえば五十

流転輪廻

十一期生文芸学科　冨江　彦三

替りの利かぬ人生、今七十余歳。皆様のお蔭で種々社会のよい事悪いこと見たり聞いたりさせてもらい楽しく生きさせてもらいました。今恥かしさを乗り越え五十年近くお世話になった吾が妻へのお返えしの時来り夜昼付添ふだけの日暮らしです。平成四年の夏より不治の病となった妻憐れとも想いそれに付添うを生き涯と想い代りも出来ず毎日を過ごして居ります。社会に儀礼のあり勝です。そのうち時は解決してくれるだろうが悔いなき今を吾が在り方と気力の挙げ得ない毎日です。皆様も健康に留意され与えられた人生を楽しく生きられ私もまた共に語り楽しい日を夢見ております。



責任を果して

近江八幡支部

七期生文芸学科　北川伊太郎

老人大学を卒業して早や八年の歳月が流れて私くしも齢い八十二となりました。思えば老人大学同窓会に仲入して日を得ず八幡学区東部の連絡員として自分なりに一生懸命務めて参りました。今年の総会に当り後任者を御願いして立派な方の承諾を得てバトンタッチ出来て幸い良き置土産出来て喜んで居ります。此の間役員方々の御力添えに感謝致します。

尚昨年の県総会に於て県会長殿より表彰状を賜り吃驚致し感激深く深く御礼を申し上げ報ゆる事く申訳け無く思って居ります。今後は一会員として老人大学の精神に徹して参ります。

今望みたいもの

六期生園芸学科　村井　繁一

「今の若い者には……がない」「今の家庭教育はなっていない」「センコー」と呼ぶ生徒と聞いたのも昔のようだ。諺に「地震・雷・火事・親爺」と、子供時分の社会の怖いもの順位、四位の親爺は今はどう？逆になった。先日もテレビで、子供の不行儀を叱り学資を出さんぞと親が言ったら、子供の言、成人式を迎えるまで親は養育費を負担すべきだと、一本かまされしゆん。これは、家庭、学校の教育が正常でない印の一つであろう。知識一本の教育、塾教育、学歴尊重の教育が優先し、人間教育が疎そかにされている現れでもあろう。学校、家庭、社会と人間の生活環境でその維持、発展、充実向上とその場その場の目標を達成する為に、夫々責任者規範のもとに統率、運営されるもので権威権力も必要かと思う。子供部屋の生活が主体で塾通いと、勝手気儘生活の継続で叱る、ほめる、注意する場がない。豊かな心情、人を敬う態度、言葉遣いが養われる筈がない。最近社会問題化している「いじめの問題」これも学校教育本来の使命を忘れた現れで、知識教育勿論必要だが、然し一面集団の場に於ける人間教育の在り方が忘れているのでは。「人を尊重し合う」「相互扶助」「共存共栄」等、言葉の意味だけでなくその実践指導が強く望まれるでしよう。

御伽噺と現実

十期生文芸学科　安田　可ね

御伽噺の天女の羽衣に心を奪われた翁、宇宙学者が隕石の天恵に興奮して居る現実、美保の松原へ天女が落した羽衣、御伽

嘶として片付て居た大昔に何か在たのではなかろうか。因縁と言う文字の虜となり不思議な世界へ我魂も奪われて行く。七十年前に母と歌った幻声が雪の何処からか聞えて来、何時しか我も歌い出す。天女は美保の松原を舞台に美くしい羽衣を靡せて昇天しました。隕石の研究に没頭するだけでなく手厚く御魂の昇天祭を年に一度行ってはとの想いを届かぬままに活字に変えて。

吹雪なか雪の妖精は亡き母と
「あれ天人が」と歌いつつ舞う

ぼけたらあかん長生しなはれ

十期生陶芸学科　深尾　龍平

これという病気はしたことはないが胃潰瘍で二ケ月入院その後医師のすすめで潰瘍予防薬をつづけて飲んでいるが思うことは母の寿命五十一歳を過ぎ、また父の寿命の六十五歳を過ぎ、今年一月で数え年七十九歳となった。両親の寿命を越えてまだ長生をさせてもらっている。(弟三名のうち末弟が戦死・昭二十年七月十五日・次弟は終戦後病死。弟一名及び妹三名健在)

昨年母の五十年、来年は戦死した弟の五十年法要を勤める予定である。ぼけては何も出来ない。ぼけたらあかん長生しなはれと自分に命令しながら歩くにも精を出し終着点を延したい。

私のふるさと

十二期生生活科学科　伏西千代子

ふるさと　と云えば自然に囲まれた田園に小川、丘と風景を想像致します。私は都会生れの都会育ちで、それ故に四季折々の風情に直接肌に触れる機運に恵まれることが余り有りません。日時を繰合せ郊外に向い草木の成長を眺め野鳥の鳴き声を聞き乍ら季節感を味合う。澄みきった空気を胸一杯に吸い込み季節料理を口にする、此の様な仕草で年月が経ちました。最近は土地を借り家庭栽園を行い季節感を肌で接することにつとめて居ます。何時まで続くかは分りません。私の思っている様なふるさとのある方は羨しく思います。ふるさとは大切に

晩学もよし

八期生文芸学科　小川　常三

「箱根路をわれ越えくれば伊豆の海や沖の小島に波の寄る見ゆ」という歌で源実朝という人物が大へん好きだった。かて丶

加えて彼が鶴岡八幡宮で公暁に殺されるにおいて、一層悲劇の主人公そして傷ましく懐しんだものである。

しかしこの間、堀田善衛の書いた「定家明月記和抄」と言うのを読んで、実朝が実は極端な妄想家で白中夢を見たり、夢告を受けるなどの精神異常の状態にあった事を知り、何事も勉強が足りないと真実を知ることの難しさを痛感した。勿論「増鏡」などしっかり読んでいれば解る事なのであるが、古典にうといのも恥しい事である。

更に同じ本で、定家が「紅旗征戒吾が事にあらず」と戦乱の世を歌一筋に生きていたのかと思うと、やはり彼も人間で、ワイロも使いりょう官運動もしっかりやって遂に正二位権中納言に至り、「乱世に逢わざれば、いかでかえに除せんや、身上の得分と言うべし」と喜んでいる。

京都の街中が群盗百鬼往行の乱世に、定家の家だけが押し込みに遇っていないというのも不思議で、北條幕府の大物の後だて(婚姻関係)があったとしても、かなりの世渡り上手で今でいう暴力団の親方ぐらい懐柔する手腕があったのではないかと思う。人はいくつもの顔を持っていると感心した。

今必要なのは質素や節約の心

四期生園芸学科　安田　泰三

「質素な生活を共にしてくれる方」と皇太子殿下は望まれ、小和田雅子さんを選ばれた。豊かさが生んだわがままな若者にはない謙虚なお言葉だった。悲惨な戦争や荒廃した戦後を経験した親達は、食糧難に苦しみ節約を身につけた。そして子供に厳しく教え耐え忍ぶことを植付けた。だが高度成長期以後は食べるものに困らず子供達は質素や節約とは無縁に育った。そしてバブル経済崩壊で不況の暗い世となった。不況克服に賃金を上げよと言う論がある。利益の労働者への配分が、外国に比べて低いのは問題ではあるが、国民の課題として「質素節約の回帰」の運動が必要かと思う。

仕合わせな一日

四期生陶芸学科　岡田英多郎

一月十九日、日牟礼八幡宮十二郷総代の一人として今年も初詣でが出来た。二十年に一度のご遷宮の年。「唯一神明造」カヤ葺屋根の千木のカツオ木が神々しく輝いていた。七十年ほど前になろうか、外宮のごく近くに暮していたので毎朝お詣りし

てから登校が習慣であった。そのお蔭で、お木引きやお白石持ちなど奉仕したのであるが、少年時代の記憶が次々に想い出されて踏む玉砂利がサクと身に泌む思いがした。帰途のバスの中で国民待望の皇太子ご婚約のビックニュース。平和の有難さと、明るい日本の将来を象徴されるような誠に仕合わせな一日。

日々是好日

六期生園芸学科　辻　清一郎

光陰矢の如く歳月人を待たづ。との言葉通り、知らず知らずに月日は過ぎ去り老大卒業後七年余。園芸科の嶋岡先生より貰った藤の種が開花する様に成り野草採集で持ち帰ったもみじ其の他の草花等も盆栽も成長しこれを育てるにも大変苦労もしたが朝起きたら真先に庭木や盆栽を見て廻るのが一番楽しい日課です。もし老大に行っていなかったら今頃はどうして居たでしょう、朝から晩までテレビにかじり付いて頭は使わず半ボケで居たかも知れん。園芸を初めてからは忙がしくてボケて居る暇が無い。本年度の菊の準備も殆どすまし、今後は生涯学習に努力したいと思う。

北方領土視察団

七期生文芸学科　北尾　正一

平成四年十月北方領土視察団の一員として根室に派遣さしていただきました。北方領土とは、魚貝、海草、地下資源に恵まれた島でわが国民が父祖伝来の地として受け継いできたものでわが国、国有の領土で昭和二十年の終戦以来ロシヤによる不法占拠がつづいて今でもロシヤが勝手にこしらえた領海線に軍艦が日夜警備している。なんと無念残念な事だろう。一部島民の人の問題でありません。国民的課題であり一日も早く外交々渉を再会し、日本とロシヤの真の友好関係を確立し、北方領土を一日も早く返還を望む。国民一人一人が力強く返還要求運動に参加しよう。

弥次馬根性

八期生文芸学科　岡田富治郎

いろんな事に関心を持ち、何事にも心を動かすこと。出たがり、見たがり、知りたがりの三がりや、所謂弥次馬根性です。これが呆けない為の大事なことだそうです。

そして幾つになっても、明日はこうしよう、こうしたいと念

じ、将来のことを考えるのが、長生きの秘訣だそうです。もう何歳といわず、未だ何歳ということ。その上人様の世話が出来ればいうことなし。これは社会への恩返しです。人の世話が嫌なら、花や動物の世話をする。

こうすれば呆けずに長生き間違いなしと頑張っていますが、さて結末は如何でしょうか。

お久し振り

十期生生活科学科　吉川カズヱ

大寒に入って一層寒さが増した午後お買物に出掛けた道でずい分長いことお逢いしなかったお年寄に出逢い、お元気そうで嬉しくなりお久し振りですねと挨拶しました。おばあちゃんも懐しそうに喜んで下さって一言二言おしゃべりしました。家では息子は朝七時前に会社へ、孫は学校へ行き、帰ったらすぐ塾へ嫁はパートに、私は何もする事もなく友達も居ないし、しゃべる相手もなく口の中にカビが生えそうですわと。寒いのにどちらへと私。パーマ屋さんへ不満もあるけど年とってもきれいで居たいし寒いのに出てきましたんやと大きな声で。健康が何より幸せですねと別れました。

私の近況

十期生園芸学科　三崎　重蔵

平成五年癸酉年の新春を迎へ毎年参拝して居ります。比叡山元三大師様へお参りして御神くじを頂きました処本年は一番底の年で今後上昇する年だと判断して頂きました処早速日本全国民待望の皇太妃御決定と言う明るいニュースで全国民のお慶びの事慶賀に堪えませんが昨年来暗いニュース多く様々な犯罪は未解決のままで我々国民にはどうする事も出来ません。一日も速く明るい社会に成ります様切に希望するものであります。遅くなりましたが卒業生御諸兄姉様には御壮健にてお暮し下されます様御祈念致します。どうか今後共宜敷くお願い申します。

薮入り

十期生生活科学科　岡田　茂子

正月以来何をするともなく日が立ち小豆粥のお祝した十五日も終った翌十六日は親からよくきいていた薮入の日のようだ。「昔奉公人が自分の家へ帰って休む日」のことを言うようである。聞き伝えで今こんなこと言っている者もいないだろうが、ある日姉から相談がきて十六日に薮入りしようかと言うてきた。

す。

両親もよつぎの姉もいない甥の代になっていて、しかも商家でいつも忙がしくしているので躊躇していたがやかましく言われて行くことにした。

姉と二人だけである。思いのままおしゃべりしてゆっくりとご馳走になってきた。だれが言うたのか「姉妹ばなしは楽しかろ親が聞いたら嬉しかろ」といろんな話に花がさき、よくこの年迄無事に生かせてもらえたものだと目に見えないご加護のお蔭をよろこんでいる毎日です。

感動の人

十期生生活科学科　冨田　政尾

私が親しくしている方の中に八十歳を過ぎた女性がおられます。私がこの方に感動している点は、お年は高齢でも心はそうでないことです。市の或会議に何時も一緒に出席しますが、若い人達の多いこの会議の中で、堂々と意見を述べ、活動に対する真剣な態度に頭が下がります。高齢者はともすると言動が消極的で蔭で人を批判し、愚痴が多い傾向ですが、この方は畑作りから地域の団体役員まで、あらゆる分野に活動し、健康で何時出会っても気持の良い方です。前向きに考え行動されるこの方に、私は尊敬し、今後もずっと親しくしていきたいと思います。

理想郷を求めて

十期生文芸学科　国田乃夫男

「淡海文化の理想郷」これぞ県民の誰もが希う滋賀である。この理想郷づくりの県政が力強く推進されているところであるが、これには相対的要素と絶対的要素があり、その絶対的要素は私達県民の意識構造にあると言えましょう。求むる者自身の努力なくして創造はあり得ない幸い私達はこの構想の中で自ら求めて老大二年間を共に自己開発に努めた貴重な体験を各々の能力に応じて地域の中で活かしてこそ老大存在の意義があり卒業生として地域での活動の積み重ねは業績として己の心の中で光を放つだろう、そこにこそ湖の理想郷があると信じます。

日々を大切に

十期生生活科学科　東　久子

光陰矢の如く、若い頃には結構充実感もあって、過ごしがいのある一年であったのに、年を重ねるごとに、まるで坂道を転

げ落ちるかのように、いつの間にか日日が過ぎ去っていく。終戦当時の物の無かった時代、食事にも事欠く様な生活は、今では夢の中、当時の青少年は高齢になり、なお今も生きながらえている。

貝原益軒の養生訓に、「老後は若き時より月日の早き事十倍なれば、一日を十日とし、十日を百日とし、一月を一年とし、あだに日を暮らすべからず」とある。我が国もいよいよ高齢化に突入していくわけだが、年など忘れて、ひたすら前向きに生きるよう心掛け、一日一日を大切に送りたいものである。

仲間

十一期生生活科学科　高原ふみ子

人は人との間で支えられる。家族の仲間、社会の仲間、世界の仲間です。私には老大の仲間OBの仲間がある。また趣味の朋も大切で、昨年はOBの先輩と人形造りをした実践学習はとても有意義でした。A姉のおふくろの味である煮豆や漬物に餅で作られた揚げあられ。嫁が手作りしてくれた三種のにぎりに麺類をいただき時の経つのも忘れ、完成した人形の表情はすばらしく、思わず歓声を湧き上らせた仲間。月に二回カラオケを楽しむ老男女、悲しみも悦びも共にして六月にはお座敷列車で旅をする。私はこうした同志の仲間で幸せに生かされています。

歴史を今に

十一期生文芸学科　辻　尚子

安土の風土記の丘に瀟洒な建物が出来ました。安土城考古博物館です。早速おとづれてみました。縄文時代の土偶は謎めいた表情をしていてじっと見て居ると何かを語りかけてくれる様です。農具を造る、糸を紡いで織る、田造り、田起し、石の斧で木を切って細工する。人形達が白い手織りの布をまとった姿で働いているのを見ると古代だとは思えない風景です。最も印象に残ったのは安土城の模型で五層七階の大天主は金箔の瓦で燦然と輝いています。この見事なお城も僅か三年でした。「是非に及ばず」本能寺猛火の中自害した信長は戦国時代とは云え傷ましい最後だったと思います。お城の再建が出来ますようにと思います。

彦根愛犬支部

三期生園芸学科　西山弥一郎

友人に誘われて多賀の文化祭に出かけた。沢山の手芸品が陳列されて居る中に、瓢箪の手芸品が一段とユニークだった。私が瓢箪作りを始めたのはその翌年からだった。あれからもう六、七年にもなろうか。一昨年、長瓢箪を作ってみた。高い棚を造ってそれに添わせたところ大きな立派なものが実った。一・五M位もある長瓢箪が三本も棚の上から土につかんばかりに成長した。朝に晩に棚の下にたれ下っている長瓢箪を見上げては楽しんで居た。大体、瓢箪は曲線の変化の美しさと、上と下のバランスの奇妙さを楽しむものである。型にも大型中型変型等々。

亦加工の仕方にも種々のやり方がある様だ。昨年、長浜の日本瓢箪会に入会したのでそうした研修にも参加することになっている。さて、よく成長した長瓢箪も九月の台風で棚が倒れて折角の瓢箪も折れてしまって失敗に終った。昨年は中型を作ってみたところ四十個位実って、九月中には収穫出来た。それから加工に二、三ケ月かかって、正月前に漸く出来上った。

それから机の上に並べて見たり、吊して眺めたりして無聊を慰めている今日此の頃である。

生活の知恵

三期生園芸学科　辻　幸夫

すみきった青い空に向って田甫の藁が焼かれ白い煙が舞い上っている。なんとなくむなしさを感じる。農作業の中で藁の用途の広いことに昔の人達の生活の知恵には驚く、藁は注連縄に始まり畳、莚、俵、縄等々自然と共生して心豊かに暮されたのだろう。

日頃物を大切にして工夫のある生活を楽しむ。

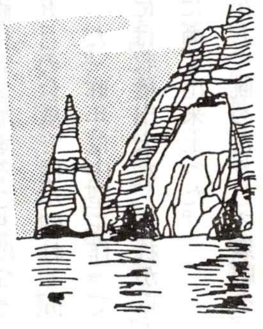
今日も縄をない夕方となった。

健康と長寿

三期生文芸学科　北川弥一郎

人生九十歳卒寿尚健康で毎日が楽しく日課予定行事が気持よく進んでなんと有難いことです。昨年十一月滋賀県高齢者洋上セミナーに参加させて頂き交歓会の席で最高齢の故をもって乾杯の音頭を船上ユートピア大ホール舞台から声高く乾杯の一声はテレビに放映され、ビデオにも残る最高の感激でした。健康長寿の要諦は第一に食物で世上のあれこれ自分で選び腹八分。第二血液循環で自分に合う運動入浴何れも日夜怠らず継続する。

第三に深呼吸で新らしい空気を全身に送る日夜どの状態にあっても励行する。三要諦はキット励行する。具体的には次回に。



此の頃思う事

五期生文芸学科　中島藤五郎

健康である事は何より大切であるが、但自分自身の力ではどうにもならぬ事が多い。楽しく生きる為には人間関係であると思う。其の事について本を読んで其の通りである感じた事を一つでも実行しようと努力している。

㈠人に話しかける様晴れやかな挨拶の言葉程うれしい物はない。

㈡人にほほえみを掛けよう。しかめつらをしていると沢山の筋肉を動かす事になるが微笑する時は其の何分の一かの筋肉で足りると言われている。

㈢人を名前で呼ぼう。一番美しい音楽は自分の名前で呼ばれる事であると言われている。

㈣心をこめよう、すべての言動。真心から出ている様に。

㈤友達になり人に役立つ様にしよう友達がほしい思ったら友達に先づ自分がなる事である。

㈥純粋に心から人に対して興味をもとう。好きになろうと思えば誰でも好きになれる。

㈦遠慮しないでほめより批判はつつしもう。

㈧他人の感情を尊重しよう。

㈨他人の意見を尊重しよう。総ての論争には三ツの面がある。自分の意見と相手の意見と正しい意見とある。

㈩常に注意して奉仕の機会をのがさない様にしよう。人間の生がいの於て一番値打のある事は自分が他人の為につくした事である。

以上の内容が書かれていた。私達も少しでも実行をして楽しく生きがいのある年を取りましょう。

正月に思う

五期生　西沢　正三

ある老人会の新年会に招かれて、挨拶に立った私は、皆さん新年お芽出度うと言いますと、ある老人の声として芽出度いこ

とないわ、もうじき死ぬのやでとはねかえってきた。成程その通りです。元旦や冥土の旅の一里塚めでたくもあり、めでたくもなし、人間の社会は会者定離、盛者必衰、生老病死、よいことと悪いことの背中合わせです。逃がれ難きもので宿命です。然し正月には日頃の憂さを払いのけ、新しい希望をもってふみ出すことが大切です。昔の想い出で恐縮ですが、私の小学校時代は新年拝賀式が行われました。皆羽織、袴、新しい下駄、足袋は母親が枕元において下った。今想うと母親の子を思う愛の深さにしみじみと感激致します。新年拝賀式は厳そかなもので教育勅語の拝読訓示と緊張のうちに終り、紅白の饅頭をもらい家路につき、カルタ取り、たこ揚げ、羽子板などに興じたものです。ほんとうに日本古来の風俗、習慣、伝統としてひきつがれてきました。然しその伝統はなくなりました。今考えると懐古の念と云うか何かなつかしく感じられます。

テレビドキュメントを見て思う

九期生園芸学科　小川福太郎

戦後われわれ日本人は戦時中の極端な飢餓状態から抜け出るため勤勉に働き今日を築き世界の中でも富有国に位置するに至った。苦あれば楽ありという語の通り実が結ばれた感じがする。然し逆に今日はあまりにも物に恵まれ過ぎ、安易な生活にあまえてしまい将来の苦の種をまいているのが現状であろう。

思えば今日の日本の繁栄の影には戦後の日本人の努力もさる事ながら二百万を超える第二次大戦に悲運の死を遂げた犠牲者の礎のあったことを忘れてはならない。然し乍ら十年一昔というように思われ苦しさも「喉元過ぎれば」の感が一入である。それほど今日の日本人は栄耀栄華の生活に慣れきってしまいさらに現状に満足せずあくなき物質の追求に勤こんでいる。

こうした表面上の平和日本に住み慣れたわれわれはこれがあたりまえの世の中と思ってはならない。同じ地球上に現在飢餓で苦しんでいる国々も数多くあることを認識すべきであるという真摯な反省も生まれてはいるが欲望のおもむくままに行動しようとする大きな流れを簡単にかえることはできない。

そんななかにあって南方で散った英霊の五十回忌の法要案内を頂き感慨も又新たなるものがある。

南方のドキュメントを見ながら生きている我々は何を悟ったらよいか戦友の御霊にこたえる道はなんであるか、今一度反省せねばと考える夜のひとときであった。

支部活動助成の方策を望む

十一期生園芸学科　磯貝　澄雄

昨年の支部総会に於いて「会員が相互の連携を密にして、より親睦を深めるにはどうすればよいか」ということに白熱した議論が展開されました。それは当支部が彦根・愛知・犬上と大変広域にわたっていることとや、年々会員の増加に伴い、その活動や運営が困難になって来ていることから、これを三ブロックに分けて行ったらどうだろうかとの支部長からの提案があって、大変活発な意見が続出したのでありますが、そこで述べられた意見は後刻執行部で集約して早速年末の役員会に於いて具体化の検討が行われました。その結果一つには活動単位をブロック別に細分化し、運営はブロック毎に行うようにすること。もう一つは各ブロックとも中学校区を目安として、地域毎に世話係を置いて、会費徴収をはじめ各種案内、情報伝達などキメ細かい活動をすることで合意が得られ、すぐさま、その場で地区割と人選の作業が行われて一挙に問題解決へと大きく前進したように思われます。この具体案は本年の支部総会に諮って、規約改正の手続をするだけとなりました。

ところで、同窓会活動の本来の目的が会員相互の親睦にあるとするならば、活動の場は出来るだけ小さい方がし易くなるのは当然であろう。本部の活動よりも支部活動が、更に支部の中でもブロック別の活動が容易であることは論をまたない。本会の組織では多くの会員が参加出来る場は、何といっても支部の総会ではなかろうか。同じ学び舎で学んだというだけで、全く面識のない人同士でも何のこだわりもなく話が通じ、そこに仲間意識が生じて次第にその輪が大きくなって出来たものが同窓会であるとするならば、最低、年一回開催されるであろう支部の総会には、少くとも会員の半数以上の出席があって、和気愛々の中に、より同窓意識を高めてこそ同窓会の存在意義があり、これがとりも直さず同窓会発展につながるというものではないだろうか。そのための条件整備をすることこそ、今一番求められていることのように思われます。

多くの会員が参加される総会であれば、ただ単なる親睦のための飲食だけでなく、講演会でも研修会でも、その開催が容易になることとは間違いないと思われます。有意義な催しであれば出席者も多くなる。ということで好ましいサークルが生じることにもなる。

そのためにどうすればよいか、一つの方策として、もっと支部活動を助長するような方向に重点をおいた本会の運営をされては如何でしょうか。会員の増加によって益々本部活動が困難になるし、会員の帰属意識はそれだけ希薄にもなるので、例えば、本部事業を整理、縮少して、経費節減を図り、その分、支部活動の助成に充てることを検討して欲しいと、切に願うもの

であります。

報道は放縦ではない

十一期生園芸学科　西堀　嘉一

大正九年生れも何時しか老境と言われ私は最近特に時代継承と言う事に一入関心をもつ者ですが、広く皆さんに訴えたいのは今日の報道は今後に可と出るか不可と出るか私は移り行く現状を見るに付け聞くに付け公器と言われる今日の報道は憂慮に耐えない者の一人であります。巷間言われている権利を主張し義務を忘れていると、忘れては居ないだろうが正に疎(おろそ)かにしている事は確かである。抑そもの発端は自由の過信であり過大評価である。自由は決して放縦では無くむしろ自由には制限とけじめが必要であり一心同体であると言えるのではなかろうか今日の世上を思うに正に因果応報の答えである親は子へ子は孫へと時代の継承と自然の流れは変るもので無く古人の教しえに眼前の事象に心を奪われ其の大本を逸してはならぬと論しておられる。今日の我が国の発展は自由が基本であるが唯の物質的発展であって得か損か楽か苦かと正に眼前の事象のみで処理され其の実行者は大人であり企業である。特に今日公器である報道関係に申し上げ度いのは利潤は当然であるけれど其の手段が結果的に国民に益か不益か必要か不必要か公器なるが故に大いに慎重且熟慮して欲しいと声を大にして申し上げたい。次代を継承する子や孫の現状は見るに耐えないものがあるからである。

すこやかに生く

十二期生生活科学科　松宮　梅子

早やくも老大卒業して一年と数ケ月が経ちました。立派な諸先生の御講義がお聞き出来いろいろ勉強を教えて頂きました。一番印象に残っているのは京都堀川病院元院長早川先生の「長生きも芸のうち」夫を戦地へ送り出し歯をくいしばり寂しさ苦しさをこらえ、いく山坂を越えて生きてきました。長い歴史です。老大で学ばせて頂いた数々を心の糧としてこれからも皆なに支えられながら、楽しく余生を健やかに生きて行き度いと思います。今なお私達は湖北のお友達に手芸を教えて頂いています。元気なお顔に逢えるのが最高の楽しみです。

同志と共に

十二期生園芸学科　枝村　和次

卒業後地域において四十名の会員さんを中心に年間予定に基き、四月には山野草の採集に出かけ、第二回目は七月に役場周辺の草刈作業を行い、第三回目は十二月に入り正月用の松竹梅の寄せ植を実施し地域の皆様と親善を計り乍ら今年で三年目を迎へ大変楽しく喜こばれています。今後更に実のある実践活動を続け一人でも多くの方に参加して戴き現在社会に生る老人として大いに楽しんでもらえるよう努力し、花のような美くしい老人として、日々を送りたいと心掛けております。現今の近況を御報告致します。

県老大を卒業して

十三期生園芸学科　川口甚一郎

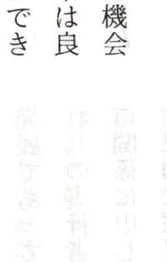
世界の長寿記録を日本人が更新している今老後の学習の機会を県老人大学に求め園芸学科に入学しました。幸に在学中は良き先生良き学友に恵まれ数多くの同じ趣味をもった仲間ができた。

先生の言葉にいま健康であることに喜びを感じ、常に報恩感謝の念を忘れず社会に奉仕する心を持ち続けてほしいといわれた。其の心を胸に園芸技術を習得して無事卒業ができた。現在では町老人会趣味の園芸部で習ったことを皆と研究を重ね少しでも活動に貢献しながら前進したいと思います。

老大卒業のこのごろ

十三期生園芸学科　鈴木

月日の立つのは早いものです早や卒業して半年も立ちます。幸い良い先生にめぐまれて大変良い勉強が出来ました。今後も又園芸に励もうと思いまして農業大学の公開講座に通っています。大体月一回程度です又グリンピアひこねの園芸教室へも申し込んで月二回程度ですが又頑張って通っています。切角園芸を少しかじった所で止めてしまうのも残念です。老大で習った事をもう少し奥深く勉強したいと思っています。



まいた種は生える

湖北支部
六期生文芸学科　広部庄太郎

いろはかるたに、「まかぬ種は生えぬ」というのがある。これは善根をつむことをすすめている。ある日、私は「まいた種は生える」という言葉を聞いてはっとした事である。

この世には因果の法則があって、人を悪く云ったり、他をねたんだり、しなければならぬ事をさぼると……それには必ず、むくいがあると云う。「まいた種は生える」私はこの言葉を心につぶやき、悪に進むことをいましめ、善に進むことの勇気を得ている。老人大学にご縁を得たことは、よい種をまくことにつながっているのだなあと喜んでいるこのごろである。

ともに生きる

八期生陶芸学科　松下　保清

昨年は何と言ってもバブルに不景気。バブルならいつかは弾けるのが当然なのに、いつまでも膨らみ続けるような錯覚に陥っていた欲ふかい人間の浅ましさ。

本格政権と言われた宮沢内閣も、ドン金丸の思わぬ失脚から、少しは独自カラーが出て来た感じ。右顧左　する事なく、やるべき事はどんどんやって頂きたいですね。目を世界に転じれば、あちこちで火の粉が飛び交っています。そして迷惑を蒙るのはいつも庶民です。リーダーの皆さん、なぜ話し合えないのですか？私達同窓生は自覚しつつ一生懸命努力を続けている。

有意義な人生を

十一期生園芸学科　松本　芳雄

何を為すべきか。本当のしあわせとは。シビアに越し方を顧みる。ゲームに興じ、仲間づくりからまちづくりへと発展すれば望外のしあわせ。又ボランティア活動に生きがいを求めるもよし。滄海の一粟の如き自分。でもみんなが自分を当てにしてくれる、役立っているという自覚。社会参加しているという実感が一段と生きがいに通じる。ボランタリーに自分をコントロールし、受動的より能動的に働きかける大切さ。このあたりをわきまえ少しでも長く健康で人のお世話をさせていただける人となり安心立命の人生をとこいねがう今日此の頃であります。

百歳人生への挑戦

十一期生文芸学科　馬淵　尚之

何か新しいことに挑戦するその気持ちをなくした時から老いが始まる。

ここで老いを感じさせない三人の方を紹介します。

米寿であり乍らゲートボール一級に挑戦された方。八十六歳で俳諧の宗匠、脚が稍々不自由であり乍らカラオケ、ダンスに挑戦。同じく八十六歳で俳諧はもとより絵画、書、写真何れも師匠クラスの腕前の方。

何れも湖北の方で昨年の出逢いに感謝せずにはいられません。

挑まなければ、人生は素通りするが、挑んで失敗しても、ひとは必ず何かを学ぶ。（サインズオブザタイムズより引用）

生と死

十一期生文芸学科　横田　定雄

Nさんが死んで、もう二月で一周忌が来る。去年の三月の末同年の者八名が集まって、酒を汲み交し乍ら、恒例の旅行について話しあった。概ね話が決着し、あとしまつをして別れた。翌早朝Nさん死亡の報、一瞬私はわが耳を疑がった。絶句した。何ということだ。あれ程愉快にしゃべり、飲み、元気で別れたのに一夜明ければこの始末、私は生きている。なのにNさんはもういない。「生きている」ということと「死ぬ」ということをこんなに身近かに考えたことはかってなかった。一周忌には参ってくれと未亡人は言って下さっている。

出合い、語らい、学びあい

十一期生文芸学科　田中　茂

昨年十一月二十五日より三日間〝レイカディアの船〟に参加しました。三十余年ぶりに会う旧友や老大での同期生やOBの方々、久方ぶりの出合いで共に健康で参加出来た事、積る話で喜こび語り合う事が何によりでした。又各講師先生によるお話は、高齢化社会の中で、これからの生きがいの方向を教えて頂だき、健康で人間関係を大切に、又地域社会において積極的な仲間づくりに努めなければならない事を痛感致しました。今後もこの様な研修の場をもって頂だき多くの人々が参加でき、共に学び合う事の出来ます事をお願いする次第です。

健康でなければ

十二期生園芸学科　飯田　隆

人生八十年の長寿社会になり本当に有難いと感謝すると同時に、地域社会に役立つことを考えても健康でなければ意欲も沸いてこない。医師も高齢者になれば二つや三つの病気は当然と云われ、個人差はあるが自分で護ってゆかねばと痛感する。

健康の三要素は栄養・運動・休養といわれるがバランスのとれた栄養摂取、カルシウムの補給に注意して運動は適当に、健康体操や歩こう会等をやり心はリラックスに努め、出来る限り良好なコンディション作りをして、充分に地域社会の交流を深めて悔のない人生を送りたいものと念願するものです。

老いを生きる

十二期生園芸学科　藤島　光則

先日高血圧症で病院に行った病院は老人の集団である。老いを元気で生きることの大変さが切実なものになってきた。

私の母は、八十六歳である。軽いボケ症も始っている。先日縁より落ちて大腿骨を骨折した老いの骨折は大変だ更に看護する家族が大変だ。誰れもが、心身共に健康でありたいと願っているし、ポックリと一生が終えたら最高だと思うだろう。そのためにも仲間を多く楽し語らいを、健康は自分で作るものと、ウォーキング、ゲートボールに積極的に参加、くよくよ物事にこだわらず、なるようになる人生、と心掛けたいと思っている。

金婚を迎う

十二期生文芸学科　川元　正二

昭和十七年政府の人口増産に協力する為軍は現役将校下士官に対し妻帯する様勧められました私達には青春は無かったのです候補を選択する余裕がなかった戦地より実家に相手方の必要な事項を書いて送り父より返信を待ちました十数日余り立って資料が届きました合計十名です。其の内より私なりに選考して現在の妻を選び部隊長に申請し吉報を待ちました地元の憲兵隊の身上調査が本人より数回あり便り受け合格と確信していましたそして部隊長より適当と認むと証明されたので満洲より十四泊十五日の休暇を頂き帰る事にした破乱破乱の人生を過し今すこやかに金婚を迎える。

洋上セミナーに参加して

十二期生スポレク科　西嶌　昭三

滋賀県老人クラブ連合会が創立三十周年を記念して実施されたレイカディアの船に参加し船上での各種セミナーや共同生活を通じて自己研鑽や多くの仲間との交流を深める事が出来ました。十一月二十五日から二十七日の二泊三日の研修でしたが四百六十名が各地区十一班に分かれて講演、クラブ活動、ふれあい交歓会、又宮崎県老人クラブとの交流会、市内観光、又班別のグループ討議とより多くの活動が出来、仲でもクラブ活動にては老大で二年間御指導を受けた草川、吉川両先生がみんなで楽しく歌おう、遊ぼう、踊ろう、をテーマにしたレクリェーションが思いでにのこりました。

年はとっても心は若く

十二期生スポレク科　藤居　信之

昨秋の高齢者洋上セミナーに参加、四百人を越す大集団の一員として〃老〃を楽しみながら浮んだことは、老人パワーの素晴しかったことと、未知への挑戦……「我は老人なり、されど心若からん」と痛感した次第。

老大の草川先生は「下手でもよい。間違えても仕方ない。無理をしないで額に汗して身体を動かしなさい」との御教訓。

実行する意欲が若さを保つ原動力であると確信して、これからも精一ぱい努力したいと考える。人は信念と共に、希望ある限り若い。出会いを喜び、友垣を拡げ語らい学びつつ明日への挑戦を期したいと思っている。

行いに就いて

十二期生スポレク科　小山　巌

私の村は余呉町旧片岡地区で滋賀県最北端の位置にありまして七、八年前までは積雪二米余もありましたが近年では十五糎にとどまり暖冬の今日此頃です。その中に一月十七日に防火鎮火護国豊穣開運の祭りとして秋葉神社の行いがあります。一年間精進潔斎して神に奉仕をなし供物を奉り宵宮には親類町内の人がお参りして過します。本祭には村の人達が禱家より神社まで供物を捧げ神社の祭典に参加してその後で御講があり和気々の間に終るのです。

秋葉神社おこないの餅ささげんと、笛と太鼓の随えいく

心の健康

十三期生文芸学科　藤橋　稔

老大に学び生涯を通じて信頼感に結ばれし学友との心の交流の大切さを学びました。

人との出合とは不思議な縁に結ばれているようです。何日かは誰でも孤独性を味合う時期があると思います。自我を捨て人びとの温たかな輪に解け込む事が大切だと思います。自ら進んで趣味を活して講座、スポーツ等を通じて視野を広く持て多くの人に接するよう心掛て楽しく朗らかな老後を送るように、心の健康づくりに心掛て行たいと願っております。

老人大学を卒業して

十三期生文芸学科　河路　寛

湖北路は薄化粧して山眠る。最近では積雪も大変少なくなりました。観音の里として大きく「キャチフレーズ」していますこの高月町国宝十一面観世音菩薩を中心に各所に観音さんが祀られています。国宝維持保存会の一員として観音様のお世話させて戴いています。毎日全国各地より大勢参拝に来られる方々に接して老いの生がいを感じています。昨年二年間学んだ立派な老人大学を卒業し十一月にはレイカディア主催の「洋上セミナー」にも参加出来ました。又町社会福祉協議会でも「老大を卒業」してと体験発表もさせていただきました。之からの人生の大きな心の支えとなっています。

老大を終えて

十三期生スポレク科　富田あい子

一生の一駒として忘れられない老大を卒業、良き友とお別れしたのはつい昨日の様です。

皆様と出合い、共にスポーツレクに励み爽やかに汗を流し、立派な諸先生の講義、実習、教訓を頂きほんとうに幸せでした。せめてその一つでも地域の皆様に分かち、交流の輪を広げ明るい老後の幸せを計りたいと思います。グランドゴルフ又、ゲートボール等楽しみながら心身保持につとめ、心豊かに残る人生を過したいと願っています。

これから何時までも同窓会を通して友愛の灯が消えることなく、生涯の心の支えになることと信じています。

致良知のこころを学ぶ

高島支部
二期生文芸学科　岸田　七次

湖西の高島郡安曇川町は中江藤樹誕生の地。JR安曇川駅に降り立つと東側藤樹の銅像が迎えてくれます。駅から東へ十二分程広い平野の中を歩いた木立の中に中江藤樹記念館が建てられています。

中江藤樹（一六〇七〜四八）は江戸時代初期の儒学者で「わが国陽明学の祖」といわれる人格者。藤樹が主唱した陽明学の「致良知」は「人は身分の上下に関わらず誰でも良知の指図に従うように」ということでこれを良知に致る「良知の学」ともいわれます。代表的な門人は熊沢蕃山、淵岡山ら。本名は与右衛門ですが居宅に藤の老樹があったことから、地元の人々に「藤樹さん」と呼ばれ、没後は近江聖人としてたたえられるようになりました。

この記念館は、生誕三百八十年にあたる昭和六十三年に開館なりました。ロビー正面の大きな美術陶板「藤樹先生御絵伝」が印象的です。第一展示室、第二展示室、会議室、図書室、収納庫からなっていて、藤樹学や陽明学を中心とした数多くの資料の収集保存展示がなされ講演会やセミナーも開催されています。主な展示品は第一展示室「安曇川町の文化と歴史」では、町内で発掘された遺跡や、絵図古文書伝統工芸品など、第二展示室「近江聖人中江藤樹」では「大学」、「翁問答」、「鑑草」をはじめ書籍類や書跡、書簡、衣類、ぜい竹易封など遺品類、藤樹書院のミニチュア再現など。

また近江国高嶋郡上小川村で農家の長男に生まれ、七歳で祖父と共に米子藩で勉学に励み十五歳で伊予大洲藩加藤候に仕え、二十七歳で帰郷後は武士や近郷の人々に心の学問を教えた藤樹の生涯が紙芝居風に絵で語られ、楽しいオリジナルビデオや逸話のしおりなども用意されています。その人となりや教えが誰でもやさしく学べるので湖西散策のおりに家族で訪ねてみて下さい。藤樹の私塾である藤樹書院や昨年秋完成したばかりの純中国式庭園「陽明園」もすぐ近くに。

毎年九月二十五日には儒式による祭典が行われています。

悲しいことが有難い

七期生陶芸学科　駒井徳左ヱ門

頭は禿げるし、歯は抜けるし、ヨボけるのは、あたり前乍ら悲しいことです。

悲しみの中に、喜びを見つける途は、親鸞聖人の『歎異抄』にありました。

その教えは、生きていくのは地獄であるが、それが即、極楽になるというのです。

この百八十度の転換は、念仏によってできるのです。

気付いたことは、今迄スポーツや仕事で苦しんだが、明日を夢見ることによって楽しいものでした。

念仏は、すべての現象に、明日の喜びを感応させる、有難い力があるのです。

渓谷美をたずねて

十二期生陶芸学科　横田三千太郎

昨年の晩秋の一日、私たち陶芸科十二期生「同窯会」の集いを湖西で開催しました。

びわ湖大橋西詰めに集合し、西に進んで国道三六七号線に入り、安曇川ぞいに下るコースをたどりました。紅葉に映える渓谷美を満喫するとともに、久しぶりに旧交を暖めるために選んだルートでした。

途中、明王院に参拝して院の歴史の説明を聞きました。

昼食は、川ぞいの旅館に席をとり、対岸の紅葉を眺めながら、川魚と山菜の料理に舌鼓を打ちました。また、女性会員からは手作りのお菓子を出して戴き、よも山話に花を咲かせました。悦に入った陶作の話もさることながら、話題はどうしてもお互いの健康状態のことになりました。その日の欠席者七名のうち、所用のための欠席者一名のほかは、本人あるいは配偶者の体調が思わしくないという理由によるものでした。

卒業以来一年余りで、これだけ自分や家族の健康状態に変化が起こるものか、この事実がまたわれわれの今後の生活に大きく関係するのだ、お互いに気をつけよう、と注意し合いました。

帰路、名刹興聖寺の足利庭園を参観して、五〇〇年ばかり昔に想いを馳せました。

山あいに夕もやがせまるころ、次の会の出席を約束しあって朽木の里をあとにしました。

私のこのごろ

十三期生園芸学科　岡田　順治

自由な時間がたっぷりとれ、やりたいことが自由に選択出来る恵れた時代である。固定観念や既成的概念の垢を流し積極的に行動するように心がけている。

一、心の支として歎異抄を味読し親鸞を仰いで南無している。

二、健康保持の為歩こう会ゲートボール等に参加し気持よい汗を流しているこのことはストレスの解消にもつながりさわや

かである。

三、趣味といったらやはり園芸であろう。いつの間にか盆栽に向っている。寄せ植や石付等よくなってきた。同志と批評し合い楽しんでいる春になったら山野草を採集しようと思っている。

洋上セミナーに参加して

十期生生活科学科　藪内　富子

此の度出あい語らい学びあいをモットーにした高齢者洋上セミナーに参加致しました。その時洋上で酒井先生は我々老人のこれからのあり方を話されました。戦後は戦前の教育と異り男女平等になりすべての事に老人の手がいらなくなりました。老人の役わりがなくなると、孤独になりがちです。それ故に各自が仲間作りを考えて時代におくれないように勉強しなければならないとの事でした。ややもすれば昔の来た道を思い出しその意志を通そうとする私達大いに反省して社会の浪にのりおくれないように次の世代の人達にすかれる様につとめなければならないと思いました。

近　況

十期生園芸学科　青谷栄次郎

老大を卒業して早や四年の歳月が過ぎ光陰矢の如しとは昔の人はよく言ったものだ。

盆栽には何の知識も持たない私が在学二年間、嶋岡先生から分り易く詳細に教えを頂き、種の蒔き方、木の剪定、接木方法四季折々の手入れの仕方等指導頂き、曲りなりにも漸く分る様になりました。初めて実施した石楠花の実生栽培の五鉢の内二鉢が昨年待望の紅花が咲き、その時の嬉しさは何とも言えません。後の三鉢も今年はどんな色をした花が咲くかと首を長くして、待つばかり何も知らなかった私でも出来た喜びを感じ、今後の成育を楽しんでいます。

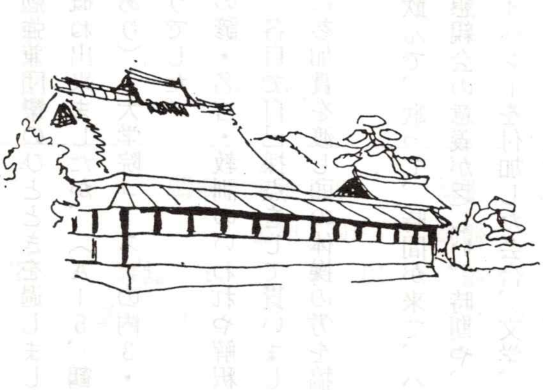
私の宝

十三期生文芸学科　中西　重三

老大を無事卒業して、二つの宝を得る事が出来ました。

一つは釈迦により、生みだされた仏教で、小乗教と大乗教の教えです。前者は自分さえ悟ればに対し、後者は、慈悲の心を持ち、すべての衆生を救済して仏陀の境地に導く教えです。己

を棄て他に利益を施す。即ち「忘己利他」という教えです。
　二つめは沢山の友との出会いです。同期は申すに及ばず、昨年秋の高齢者洋上セミナー旅行に参加し尚巾広い友人の出来た事です。これからは、二つの宝と伴に、一人の老成年の生活が続くようです。



会員のグループ活動

自分一人で何かに積極的にたち向うことは尊いことであるが、いまここで紹介するのは、グループで活躍している方々の日頃の様子を伝えるものです。

冠省　その後お変わりございませんか。

いつもお世話になり有難う存じます。

二月二日皇子山の「いこいの村びわ湖」で、文芸学科クラス会「ささなみ会」の新春懇親会を開きました。当日は前夜からの突然の大雪で、湖東湖西方面の交通機関が不通や混乱で、駅まで深雪で出られないとの連絡もあり、四名が急な欠席でしたが二十名が集まり、楽しく和やかな一日を過しました。

当日の予定は午前中は、久し振りの会合で、みんな仲よくゲームやトランプ遊びをしようと計画していましたが、さすが文芸学科出身ということもあって遊びよりも、小生が起案した、「鳥当てクイズ」に人気が集中、隣同志カンニングする者もあり、ワイワイ、ガヤガヤと勉強兼団欒のひとときを過しました。

「大学コース」の方は、概ね出来ましたが、(A－5、鶴の恩返しにひっかかった人もあり)「大学院コース」の内3・2・6・9・10等が難問のようでした。

三十分後、小生より各問の諺・名言・教訓のいわれや解釈を加えながら、正解を発表し、各自で自己採点をして貰いましたが全問正解者はなく、全員に参加賞を渡し頭の体操の労を犒いました。

単に集まって、食べて、飲んで、歌って、時間が来て、ハイさようなら……の会合では懇親会の意義が乏しい。時期や、場所に応じて何か一工夫したイベントを付加した会合、文学、文芸的意味合いをもったイベントがよいと痛感しました。当日の「クイズ」ご参考までに同封しました。

「ささなみ会」の運営についても先生のご指導、ご鞭撻を賜わり度、今後共よろしくお願い申し上げます。

ささなみ会　事務局

田中　正雄　　拝

諺に登場する　鳥当てクイズ

酉年にちなみ、諺、金言、名句などに登場するお馴染みの鳥たちを当てて下さい。回答欄に記載の鳥名から、正しいと思う鳥を選んで空欄〔　　〕にご記入下さい。〔A〕〔B〕２コースありますが、回答欄の鳥名は共通ですから同じ鳥をA・Bそれぞれのコースに選んでも差し支えありません。正解者（但し先着　名様まで）には賞品が出ますが、賞品の有無に拘わらず、文芸学科ご卒業の皆様なら当たる筈、？ゼヒご挑戦を……

回答欄鳥名										
雁	鶉	白鳥	鴿	鶯	鵝	雲雀	鶏	鷲	鳩	鵠
鴎	鴛鴦	鳰	鴨	鴻	雉子	鷺		鶸	時鳥	鴫
鳳	烏	鸚鵡	鵬	鷹	雀	鳶	燕	白鷺	鵜	鶴

A〔大学コース〕

1.梅に〔　　　〕　　2.〔　　　〕は千年、亀は万年

3.〔　　　〕の涙　　4.鳴くまで待とう〔　　　〕

5.〔　　　〕返し　　6.後の〔　　　〕が先になる

7.〔　　　〕の濡羽色　　8.〔　　　〕も鳴かずば撃たれまい

9.〔　　　〕に豆鉄砲　　10.〔　　　〕に油揚げさらわれる

B〔大学院コース〕

11.〔　　　〕の契り　　12.〔　　　〕の豆使い

13.〔　　　〕勘定　　14.〔　　　〕が葱を背負ってくる

15.〔　　　〕の目、〔　　　〕の目　　16.客と〔　　　〕は立ったが見事（立ちっぷり）ともいう

17.闇夜に〔　　　〕、雪に〔　　　〕

18.〔　　　〕口となるも、牛後となるなかれ

19.焼け野の〔　　　〕、夜の〔　　　〕

20.〔　〕〔　〕いずくんぞ〔　　〕〔　　〕の志を知らんや

お名前〔　　　　　　　　　　〕　提出順位〔　　　〕

回答欄

1. 鶯　2. 鶴　3. 雀　4. 時鳥　6. 鸚鵡
7. 烏　8. 雉子　9. 鳩　10. 鳶　11. 鴛鴦　12. 鳩
13.　14. 鴨　15. 鵜鷹　16. 白鷺
17. 烏鷺　18. 鶏　19. 雉鶴　20. 燕雀　鴻鵠

老人大学校第13期文芸学科の集い

ささなみ会新春懇親会スケジュール

日時……2月2日（火）10時30分～15時30分

場所……いこいの村びわ湖　大津市山上775－1

〔第一部〕　親睦の集い　10時30分より　（和室）

1. 受　　付　　会費・ご寄贈品頂きますのでよろしくお願いします。
2. 開　　会　　　　（司　　会）田　中正
　　　　　　　（Ａブロック）田　中時
3. 歓迎あいさつ

　　カルタ（百人一首・花札）、トランプ、囲碁、将棋
　　クイズ、ゲーム（双六、福笑い、ケン玉、おはじき他）……等
　　お仲間を誘い、楽しく、ワイワイ、ガヤガヤとお遊び下さい。

4. 会報『ささなみ』の配布
5. <親睦の集い>参加賞の配布

　　① 参加賞（番号券）とプレゼントの交換は12時頃より行います。
　　② その後、コート・荷物などお持ちの上宴会場へお移り下さい。
　　③『席札』と『福引くじ』は、宴会場にてお渡し致します。

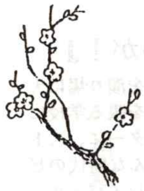
〔第二部〕　懇親の宴（うたげ）　12時30分より　（宴会場）

1. 会長あいさつ　　増　尾
2. 会務報告
3. 乾　　杯　　竹　村
4. 懇親会スタート

　　この時間帯に皆さんの一口スピーチ歓迎します。
　　その後の近況報告、今後の抱負などもご自由にどうぞ……
　　カラオケ・隠し芸などご自慢の技もゼヒご披露下さい。

5. おもしろ福引（なぞなぞ式の福引）
6. 閉会のことば並びに　　田　中時

　　次期ブロックへのイベント引継ぎあいさつ　　奥　田



平成5年1月

会報ささなみ

創刊第1号

発行 ささなみ会
【文芸学部13期クラス会】
発行責任者 増尾 一雄
編集責任者 田中 正雄

創刊にあたって

会長 増尾 一雄

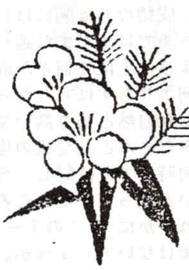
新春の喜びと共に会報『ささなみ』の創刊、何かほのぼのとした暖かいものを感じます。
想い出深い老大を卒業して早や四ヶ月余り、皆様には日々を大切に、若さと生きがいを目標に各々チャレンジされていることと思います。

会報は今後、会員の心の窓として情報、交流の場となり、気安い良き友として育っていってほしいと思います。どうか気楽に筆をとって下さい。

健やかな毎日を祈りつつ、簡単ですが発刊の言葉と致します。

"創刊号発刊について"

たくさんのご寄稿頂き有難う存じます本号は同好会だよりと昨秋の親睦会の記事を主に編集し又紙面スペースの都合上一部原稿は次号の掲載になりましたことをお詫び致します。



会報『ささなみ』は会員みんなでつくる会報です。俳句・短歌・川柳・紀行文・レポート同好会だより・趣味活動・近況報告等なんでも結構、ドンドンお寄せ下さい。今後共レイアウトや編集内容の充実に努めたいと存じておりますので、よろしくお願い致します。

【会報編集 田中正雄】

同好会だより

十三謡会

老大二年在学の夏に始めた観世流謡曲は、大平哲夫氏を先生にお迎えして月二回の稽古日を決め、練習しています。先生の熱心なご指導によって、今まで一人の落伍者も無く、興味もまして腕前も除々に上達していますが身贔屓でしょうか。現在小謡本十一番目を進行中。
謡曲を始めたい方は、入会歓迎。会員のどなたかに内容を聞いて申し込んでください。 [南條 記]

メンバー

男性 堀池 田中時
板岡 南條
女性 白井 今川
森 原田
守 安田美

大平先生の寸評
始めは心配していましたが、声もよくでるようになり楽しみになってきました。これからは強吟と弱吟を十分マスターしてもらうよう練習してもらいます。

親墨会

卒業の翌月10月13日、大津ブロックの有志が集まって書道教室を始めました。【親墨会】という、文字通りの墨に人との睦み会いから出来ました私達の書道同好会です。

奥田さんに、漢詩や格言などのお手本を、その都度頂き自分の好きな文字、書体を選んで、自由に教わりながら添削を受けております。その合間のお喋りなど、とても楽しい雰囲気で、老大とは又違った勉強法です。

稽古は月二回(水曜日)、鍛冶屋自治会館(滋賀会館近く)で、1時～4時まで。今のところグループは、偶然にも大津市と志賀町に居住の人達ばかりですが、他の地区の皆様にもお仲間入りをお誘い致します。 [原田 記]

メンバー

今川 白井 原田 吉田 栗木
安田虎 増尾 田中時 田中正 奥田 土手下

表装学習会

在学中にお願いしていた表装の講習が実現して、いよいよ12月より始めています。最初は基本の学習から入り、裏打ちの実技の2回が終わりました。なかなか難しいものですが、先生に手とり足とりして教えてもらっています。

コースは、色紙のようなものから入り最後は條幅や額装まで約2年はかかります。現在は教室が狭いので人員を増やすことが出来ませんが、平成5年の春から教室が変わりますので、そのとき先生に新加入の相談をしますから、ご希望の方は会員に相談してください。 [南條 記]

メンバー

大平 奥田 南條
栗木 安田美

C.D会の懇親会

ささなみ会のC.D班が、12月16日草津市の「草月」において懇親会を行いました。出席者は9名(男性5名、女性4名)で増尾氏も参加いただき、久々に顔を合わせた方もあって懐かしさに会話もはずみ、3時間もあっという間に過ぎ、後日の再会を約し解散しました。次回の会合地は近江八幡市で、来年3月頃と決定しました。 [南條 記]

親墨会の忘年会

12月15日、書道教室の本年最終学習のあと、浜大津の割烹"木戸"で『お疲れさま懇親会』をひらきました。女性の設営で9名が参加、過ぎし1年を回顧して歓談、併せてAグループ担当の新春懇親会についての協議をおこない、尽きせぬ想いを残しつつ和気藹々に散会しました。 [田中正 記]

『ねんりんピック』
やまなし大会に参加して

本格的な高齢社会を迎えて、健康で明るい活力ある長寿社会づくりは今日最も重要な課題でありますが、『ねんりんピック』は日頃から健康づくりと生きがいづくりに励げんでいる高齢者と、若い世代との交流を目ざすスポーツのみならず芸術・文化や生活の知恵などを披瀝する全国的な祭典でもあります。

今回奇しくも滋賀県代表としてグランドゴルフ競技に参加する機会を得、去る10月30日から５日間山梨県へ行って参りました。成績の方は腕には自信があったのですが、やはり全国的なレベルではまだまだ遠いものがあると実感しました。しかし平均よりは上位で何とか面目は保持出来たと思っています。

何よりもすばらしかったのは南アルプスと霊峰富士の傘下で美しい自然と香り高い文化を心ゆくまで満喫し、同世代の全国のみなさんとも交流の場を持つことが出来たことで、この余韻を何時までも持続し、今後の社会活動に将又自己研鑚に努力したいと願っているところであります。『健やかに伸びやかに晴れやかに』このテーマこそ、我々の世代をクリエートする指針ではないでしょうか。　板岡　久右衛門

『青春の想い出の
映画ビデオはいかが！』

不良少年時代に、ミルクホール喫茶店を溜り場に大人の真似で流行歌を覚える、時にはゴロを張る学校にかくれて好きな映画をみるあこがれのスターに、ストオリイに酔うたよき時代。今知人からそんな時代のビデオが贈られ手元に４巻ある。青春のプレイバック、観たい方はご連絡下さい。　田中　時雄

①母の曲〈原節子〉　新妻鏡〈山田五十鈴〉
人妻椿〈川崎弘子〉　隣の八重ちゃん〈逢初夢子〉
②愛国の花〈木暮実千代〉　結婚の生態〈原節子〉
今ひとたびの〈高峰三枝子〉
③嫁ぐ日まで〈原節子〉　爆音〈小杉勇〉
少年時代〈平成４年〉
④婚約三羽烏〈上原.佐分利.佐野〉
愛染かつら〈田中絹代〉
純情二重奏〈高峰三枝子〉
支那の夜〈長谷川.李香蘭〉

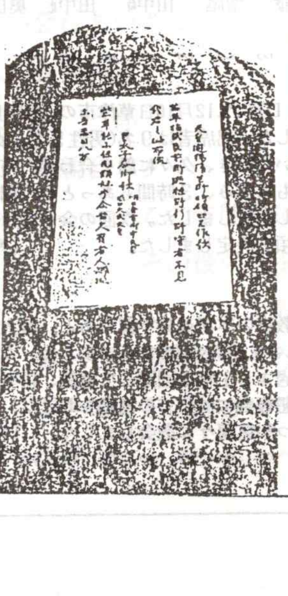
万葉の歌碑散策吟行会

仲秋の晴天にめぐまれた十月二十三日、Dブロックのお世話で松茸狩りを兼ねて、蒲生野の万葉歌碑をたずねての吟行会を開きました。紅葉にはまだ少し早い感じでしたが、蒲生野の秋色と秋の味覚を満喫し懇親会も盛会でした。当日投稿いただいた吟行句をご披露いたします。

萬葉碑かこみて集う秋の岡　静子
萬葉の歌碑とおりすぐ秋の風　佳子
袖振れるさまに船岡山芒　頼子
万葉歌去りし女偲ぶ秋の岡　貞雄
友どちの集へる丘や草紅葉　節子
秋日さす万葉の丘に相聞歌　〃
松茸鍋談笑ときを忘れさす　〃
秋の風万葉歌碑を浄めけり　哲夫
袖振りし紫野行き秋思たる　〃
万葉の碑にたたずみて秋思う　鈴枝
蒲生野に盤座めぐりて秋深し　進
山芒万葉蒲生野岩多し　利行
蒲生野の故事聞く岩山秋うらら　〃
栗一つ拾う船山の陶絵に佇つ　〃
皇の歌碑を粧う山の風　淳子
松茸の香に酔う昼餉のささなみ会　〃
蒲生野の歌碑訪えば尾花散る　正雄
目あくれば標野はうつつ秋の風　英子
口ずさむ歌碑を浄める秋時雨　久右衛門
相聞歌雀奏でて秋深し　〃
蒲生野の恋のロマンや紫草　栄一
散策の万葉の森に秋の風　美子
万葉の古道たどりて栗ひろう　理信

万葉の歌碑

〔左は訳文〕



天智天皇蒲生野に猟したまふ時、額田王の作る歌
茜さす紫野行き標野行き
野守は見ずや君が袖ふる

皇太子の答えましし御歌〈大海人皇子〉
紫草のにほへる妹を憎くあらば
人妻故にわれ恋ひめやも

つつしみて新春をお祝い申し上げます

守　淳子

二年を学び終え今思いますに、六十、七十また八十年の人生を歩んで来られ、尊いお徳を身につけられた皆々様と、心をひらき話し合えるお友達とならせて頂けた事は何にも変え難い私の幸でございました。我が儘な私を、又ふつつかな私を穏やかに温かくユーモアに包んでご指導下さりお付合い下さいました皆々様に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。おかげ様で良い思い出の一ページになりました。本年もよろしくお願い致します。

卒業後は何か張り合いがなく心の中にポッカリと空間が出来たようでした。月二回の十三謡会が何よりの楽しみでお元気なお友達のお顔を見ると安らぎます。おなかの底から声を出そうと思いながら不安でこわごわ！でも思い切って口を開き唸っています。下手も上手もなくケラケラ笑いながら声を張り出す練習の半日は、健康と老化防止に最高だと思います。皆々様のご入会を心から歓迎いたしますので……どうぞ！どうぞ！

初謡　明日を豊かに　生きむとす
老いの明日を豊かに生きむと
謡曲を学ぶ絆の十三謡会成る
つね追われし平成四年の早や逝くか
趣味に生き来しあけくれ思ふ

会員活動事例

掛軸づくり

十一期生文芸学科　伊藤　実三
大津支部

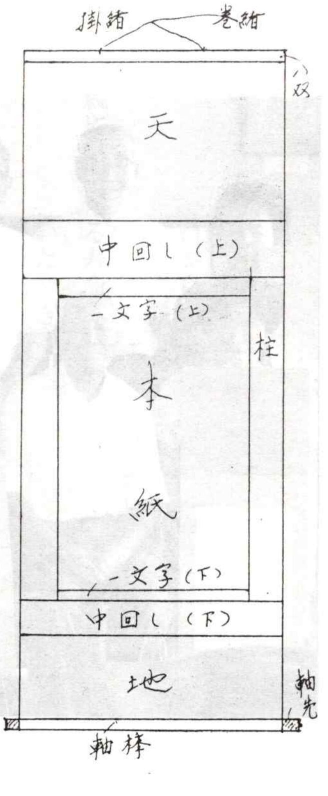
遣唐使時代、仏画として、中国より伝わり、江戸時代掛軸として、床の間に掛けて観賞し、一巻に巻いて保管するという、西洋画にない東洋独特の形式で、広く普及発達しました。

書や絵画をより引き立てる表装は大切な本体を補強保護し、永く保存することに大きな役割りを持っているものです。

そこで当支部活動の一環として掛軸づくりに挑戦することとなりました。

「掛軸入門」初級（紙表装）

期間　七月七日より八月十一日まで毎火曜日で計六日間
場所　老人センター　午前九時半より十一時半まで
講師　近江表装研究会会長　山本　昇氏
受講者　会員十名
材料　裏うち紙、中まわし、柱、天地の紙、軸棒、八双棒、軸先、ひも、等
道具　各種刷毛、透明定木、星突、骨ヘラ、竹尺、標針、作業台、しなベニヤ板、小型アイロン等々
掛軸の名称



講座
第一回　掛軸の歴史、軸の種類、必要用具のあれこれ、掛軸の製図、作品、一文字の裏打
第二回　中まわし柱天地各裏打
第三回　裁断、継立て
第四回　継立て、整形
第五回　袋つけ、総裏
第六回　八双、軸棒つけ、仕上げ

初回よりそれぞれ紙を貼っては乾かし、裁断、整形を繰り替へし最後に軸棒、掛緒を取り付け、一幅の軸の仕上りです。

「掛軸入門」中級（裂表装）

十月二十五日より十一月二十三日まで計四日間、老人福祉センターで実施。受講者会員八名。

材料が裂（きれ）地である以外は初級紙表装と同じ手順で紙を貼って行くが指導どおりにはうまく行かず随所にシワが出来て、これをのばすのに四苦八苦し、どうにか出来上りました。ノリの濃淡、刷毛の使い方の上手、下手等々種々勉強して、よりよい作品を造りたいものです。

長澤寿雄氏の場合

表装といえば最近の長澤氏のご活躍を忘れることができない。氏は、南郷や碧水荘で献身的に掛軸や額の表装技術を指導しておられ、受講生には老大卒業生が多い。

希望者は十三期陶芸卒（大津）の長澤氏へ問い合せられるとよい。

いきいき手習い

八期生生活科学科卒　手芸部

人として、幸は心の豊かさを堅持しつゞけて、いくことこそ生涯学習ともなり、いきいき老後にもなるのではないでしょうか。

卒業後の交流を引き続き一ケ月一度の学習（手芸）の、同志が集りました。

場所は、瀬田にきまりました。在学中より数えて、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、と八枚の干支の色紙が出来上り、四季の色紙も出来、今は、刺しゅうに、梅本先生の御親切な御指導を受け、一同厚く感謝して、喜こんで居ります。

バブル崩壊も関係なく、スポーツ、ファッション、政治、経済、時には、励まし、慰め、雑学に花が咲き、皆さんより見習うことの余りにも多いことに、毎月の出会いが、心身の活力と成り、良き友達との不思議な御縁に感謝の気持で一パイです。

皆さんの出来上り作品に感動し又展示会の出品とお聞き致しまして、手芸部一同意欲も湧き頭と手先を大いに、使って、年齢も忘れて取組み、結果を夢みて、楽しんで居ります。

昼食は、手作り田舎料理で満足し、お互いに過ぎし日をなつかしく思い出して、又おしゃべりに花が咲きます。

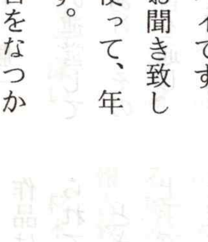
出来得る限り何時までも元気で温い交流が続く事を念じ、お互いに今日の健康に感謝して、一日一日を大切に暮して行く様に心がけています。

年ふりて時代の移り　目を見張る

親につぎたる寿命　いたゞきて

打ちとけし心うきうき　針もつ手

友の一言笑いに交り　針おどる



「陶悠会」のこと

湖南支部
九期生陶芸学科　中村　勝一

近江富士の麓野洲町辻に、社会福祉法人・悠紀会の運営している身体障害者通所授産施設「にっこり作業所」があり、その一隅の窯を借用し老大や厚生年金受給者協会等の学習を通じ、極く自然な形で同世代の仲間が語り合う機会が生まれ「陶悠会」へと発展しました。しかし作陶を楽しむ場所に苦労したわけです。そんな時、協力してくださったのがこちらの所長さんです。施設の人達も私たちを暖かく迎え入れてくれて、作陶の喜びと彼らとの交流の楽しさは言葉に尽くせません。これも、戦後の混乱期を生きぬいてきた私たちへの〝天からの贈物〟なのでしょう。

「おっちゃん、これでええやろうか…」「早う、見てほしい」たまたま同じ時間帯に彼等と机を並べて作陶している時！甘えん坊のような声が手狭な部屋の空気を裂く。額に汗をにじませ、片頬に粘土の小粒を黒子のようにつけ、上気した眼を輝やかせて彼女は叫んでいた。経験者でもむつかしい土瓶の注ぎ口づくりに挑戦しているところであった。同じ障害者仲間でも、その生活向上手段として技能体験を早く取得しょうと励んでいる熱心なE子さんだ。

B君は痩身の色白な青年である。普通の坊ちゃんタイプの美男子。何時も「僕んちのもの、どうしようかなあー」とひとりごとを繰り返しながら、せっせと粘土を積み上げている。彼の作品は新幹線列車か、何故かベッドと、そのアクセサリーに限られているようだ。

ときたましか顔を見せないT子さんは、粘土づくりより按摩上手である。全盲に近い彼女は「おばさん！肩をもみましょう」と実に優しい。「私やっぱりこの方が性分に合うているみたいや！」と笑顔でつぶやいている。

彼等はハンディの身を乗り越へ生活の安定を目指して必死になっています。印刷・織物・編み物・作陶・簡単な食物の詰合せ作業・箱作り・草刈り・掃除と何にでもチャレンジしている。所長をはじめ職員の方々の情熱にも心打たれるものがあります。

しかし一方施設の自立運営への道はまだまだ厳しい。多くの人が理解をもって後援会加入に参加してほしいと願っています。

発足当時の「陶悠会」メンバーは67・5歳の平均年齢。個人負担も実費で少なく、マイペースで気楽に楽しめ、六年余の作品展の評判も広まり若い女性会員も半数に近く、プレハブ作業所も華やいだ雰囲気に包まれてまいりました。作陶経験者はご承知の如く焼成後の新らしい生命を宿した作品。そのものに価値感が位置づけられます。施薬方法・火力と焼成時間の因果関係等幾度経験しても困難な研究課題が山積いたしています。本年の目標は「釉薬」について原点より挑戦し成果を目指してい

ます。

ゲートボールについて　大津支部

七期生文芸学科　小寺　海蔵

〃健康と　生きがい求め　快音の　ゲートボールに　夢を託して〃

ゲートボールは、軽い運動であり、友達と一緒に、チームプレーを楽しみ乍らやれる高齢者にとって、最適のスポーツと云える。

いつもゲートボールが発行している月刊の機関誌には、健康長寿、幸福といった三大目標を掲げているが、実際に長くやって見て、全くその通りの実感が味わえる。

私も当時から、一筋にゲートボールに信念を燃やし続けて来たが、この永い間、お蔭で病気もせず、怪我もなく、元気で毎日楽しくプレーをさせて戴けることは、大変有難いことと感謝している。

またゲートボールは一見易しいように見えるが、仲々奥深いスポーツである。

それは、どのスポーツにも云えると思うが、心、技、体の一体化と云うことであろう。

一寸した力のバランスで、球の流れが変ってしまうからである。矢張り流れに逆らず時計の振り子のように、自然体で打つことが大切である。

今後は、老ク や老大の皆様、それに若い層の方々や、女性の方達等のご理解やご関心を戴いて、より多くの同好の友を得て、一層の活性化、盛り上がりを切望しているものである。

五期文芸科短歌会の報告

報告者　林　秀一

卒業以来、十年になる。この間伊藤雪雄先生には大変に御辛抱をおかけし、御指導を頂いて来た短歌会も五十回になります。途中やめていった人もありました。突然亡くなった友もありました。卒業後二ケ月に一回短歌会を開いて来ました。主として第二木曜日の午後をこれに当ててきました。他人に感動を与える短歌は、今だ詠めませんが、最近の学習成果の短歌を挙げて報告致します。

杉本文次郎の短歌

夕茜うつろう空を惜しむかに帰る日近き燕らの飛ぶ

去年より遅れて庭に鳴き初めしニィニィ蝉の声は稚し

真水　はまの短歌

連発の花火に静まれば満天の星輝きはじむ

新聞を配る少年さわやかに朝の挨拶交わしいくなり

林　秀一の短歌

文鮮明統一協会の結婚式霊感商法にサタン吐きだす

フロリダにハリケーンの襲いたり例えば大統領選に似て

高野　たみの短歌

噛み合わぬ夫との会話に逃げて来し階下の窓に
　　　　淡き夕焼け

葉洩れ日の揺るるを映すせせらぎの
　　　　今も変わらぬ故郷の景

山本　良雄の短歌

雲淡くつくつく法師鳴かぬ日の窓の灯温くし
　　　　もう秋ならん

しばらくをあわざる人の老けこむに
　　　　帰りて鏡こわごわ覗く

川部　長蔵の短歌

すくすくと伸びゆく杉の山道の緑の風に浸りつつゆく

洛北の去りゆく夏を惜しみつつ孫と語れる外国の空

山脇　義一の短歌

友等皆有刺鉄線前にして夜毎仰ぎしかの天の川

幾許かの補助を目当てに老人ら公園のグランドを刈る

太田　いとの短歌

春けき日君と歩みし瀬田川畔岸打つ波の吾に優しき

終戦の記念日近かずけばボリューム挙げ軍歌を
　　　　ならし車行ききする

松本　とみの短歌

水打てば焼けいる庭の涼しげに風をさそいて木々の匂す

土見えぬ迄に稲穂の整いて雲一つなき立秋の空

滋老大十二期生同窓会発会のつどい

十二期生文芸学科　北川徳太郎

我々第十二期生は、各学科別にクラス会を作って親睦を計り老大での学習成果を発展させていますが、昨年六月十二日十二期生が、大津老人福祉センターに相集い、第一回総会を開催いたしました。

出席者四十四名。堀野先生に御来臨の栄を賜り、お祝として「本同窓会は全員の協力によって、大事に大きく育てて下さい」という激励のお言葉を戴き、一同、今後の親睦と、我々に課せられた使命に、想いを新たにしました。

十二期生は、他の会員と同様に卒業後も各地域で活動しています。その一例を記載しますと、

横田氏は「ふるさと大発見」で、大溝城跡について発表。歴史民族資料館長。
高野氏は、楽焼の窯を老大の学習の発展として築き、作陶に精進。学友三木氏と老大陶芸学科助手。
中田氏は、昨年日本短歌文庫「晨の湖」を出版。短歌に精進。
奥氏は、土筆会で書道家として会員を指導。
ご夫婦で同窓生の三田村氏は、スポーツを通して「しなやかに」を常に念頭に地域で交流。
小野氏は「最後の一週間に生き甲斐」を感じ活躍。
濱野氏は積極的に健康法として走ること、新聞を精読して老化防止。
堀、中井、大場の各氏は常に感謝し、友との交流を大切に。
池長氏は、老いを考えて、神仏に念じ感謝の日々。
生田氏は「満天の星」おじさん、俺あの磨いた靴に、ほら、星が映ってらあ。少年の心の美くしさ、少年に負けない心。
伏西氏は、社会の公平について。横江、弘部、武田氏は同窓生との出合いを大切に、他者の立場を尊重し、心の豊かな生き方。これこそ「しなやかに」である。また財団の「じゅげむ」の発送業務をボランティアとして参加。等々が我十二期卒業後の一端である。
同窓会は織物です。老大同窓会は縦糸各年度同窓会は横糸です。縦横共に重要で初めて綾錦絵が織り上がるのです。同窓会の皆様、非常に優秀な横糸です。其の衿持を誇として同窓会を育てて、立派な織物を我々の手で織り上げようではありませんかこれが、今十二期生の使命です。
会の目的は親睦と老大の発展に寄与することにあり、会員皆様健康に留意され、心身共に「しなやか」に、人の出合を大切に、友愛の輪を広げ、共に手を携え、心身共に「しなやか」に、人生の最後の一週間、有終の美を飾る事に致しましょう。
格言に「徒らに馬齢を加える勿れ」
「しなやか」に心を豊かに健康に、感謝する、日如に。

甲賀支部（甲西町）の地域活動について

七期生陶芸学科　真鍋　光徳

県老人大学で教わったことを、地域に還元することは、我々OBの努めであると考えております。
甲西町においては、昭和六十二年頃老人福祉センターの増改築の計画がありましたので、老大陶芸科OBの千代倉太郎氏を中心に、OB達が町当局に「老人の生きがい対策」として、陶芸教室の設置を要望し、教室のスペース、必要な備品等を設計して提出しました。

その結果町当局のお計らいで、平成四年四月増改築工事が完了、陶芸教室の設備が完成しました。

直ちに教室開設の準備を始め、七月から開講しました。教室の運営は甲西町老人クラブ連合会に委任され、指導する講師は、予算の関係で老大陶芸科ＯＢが指導することとなりました。

現在陶芸科ＯＢは、町内に十二名おります。

教室の運営方法については、水口県老人福祉センター碧水荘の陶芸教室にならって行い、会員からは会費をとらず、土代、釉薬代等の実費だけ頂くことにしました。

最初陶芸教室参加者を募集したところ、五十名の応募があり、これを三班に分けて、一班月二日間参加することとしました。その外窯詰め、素焼、本焼、窯出し等は、当番を決めて交替で行うこととしましたが、実際には特定の人が行っている現状です。

途中で脱落する人が出るのでないかと心配しましたが、殆んど脱落者はなく、出席者は終日熱心に、なごやかに作業を楽しんでおります。

平成四年度からは、さつき共同作業所にも陶芸教室の設備が完成し、身障者とのふれあい教室として、陶芸教室を開設し、現在四班約六十名となりました。当教室では、毎年秋の文化祭には多数の作品を出品し、大変好評を博しております。

又毎年一回日帰りで「信楽陶芸博覧会」四日市の「万古焼」等の見学旅行をして、親睦と研修を図っております。

昨年秋には、石川県寺井町の九谷陶芸村で行われた「第七回国民文化祭」「土と炎の芸術祭」を見学し、山中温泉一泊の研修旅行も行いました。

平成五年度からは、京都から甲西町にこられて窯を築かれて、十年になられる陶芸家「粟津先生」の御協力を得て、更に高度な技術の修得が出来るようにしたいと、組分け等について検討中です。

本年三月には、生涯学習フェスティバルの一環として、「陶芸一日体験コーナー」も開設して、皆さんに楽しんで頂く計画をしております。

愉快な陶芸仲間

三期生陶芸学科　佐生　正二

昭和五十七年老大三期生として陶芸科を卒業そのお別れ会の席で縁ありて集まった仲間達、せめて年一回会合して友情を温めようと申し合せて十七名の仲間が年一回各地で懇親会を開いたが他界する者県外に転住する者などだんだん少くなり、最近では有志だけの会合となったが、お別れの時三ケ月に一度消息

まとめ会報とは名のみガリ判ずりで郵送すると発案、以後十年続けている（昨年十二月号三十九号）現在十二名の内五人が窯をもち、それぞれ自分の作品を持ち寄り、施釉や成形等研究をしている時には大津彦根のデパートで手作り作品展に出品して他の手作り仲間との交流ともなっている昨年度五個荘町の外村屋敷に於て五人展を開催した沢山な見学者に来場して頂き、その場所で我々の作品の即売会をして全額町の福祉へ寄附する等大いに全力投球をなしとげた、又我等の恩師信楽の大御所大西忠左先生御夫妻をお招きし一段と花を添えて頂いた。我々は井戸の蛙にならんために陶芸の産地見学に出掛け帰途北陸の湯につかり大いに杯を重ねて我が作品の自慢話に花を咲かせた事もあった。我が仲間が立派な作品を作っているのに我輩は一寸と変ったコースをたどり、地方の人形作りや毎年のエト作り（今年で九年目）こんな素人にも素晴しいチャンスが与えられようとしている。私の知人で有力者がスポンサーとなり町の特別養護老人ホームの建設にあたり、その建物の玄関正面に設置するレリーフ（縦三メーター横六メーター）の制作依頼を受け、幸いに友人にレリーフ制作者があり、その人に指導してもらいつつ大作に挑戦したいと意欲を燃やしている今日この頃である。大いに頑張って一代の傑作に取組みたいと念願しています。

クローバ・87の会

近江八幡支部　七期生

昭和六十一年九月に卒業した四つのグループ（園陶生文）が一つに結び合い、幸運のシンボルをかかげ、八幡の⑧七期の⑦を合せて、標記の様に命名し、同窓会憲章に基づいて相互の親睦と研修をはかるを目的とした私たちの会です。

その第一回を卒業直後の十月四日北川氏の肝入りで坪清で開き、二年間の通学の思い出、旅行、ゲートボール大会等のエピソード、次から次へと話しが弾み尽きる事なく沸き上がり以来年二回の集りと当番を決め実施昨年で十一回を重ね、皆々上機嫌で明日への活力を養っております。しかしこの間二名の会員を亡くし淋しい思いをしていますが、幸運のシンボルクローバにあとの健在を祈っている毎日です。会合毎に当番が記録と写真を一冊のノートに張りつけていますが、卒業時と現在を見位べ若々しくなっている事に驚いています。それぞれ社会奉仕や趣味を持って暮しているこの事が若さを保つ秘訣かと、又おしゃれする事、若い格好は活力の表れとも言われています。ともあれ元気そのものです。しかし一言、老人のスポーツする心構えを伝講します　ご壮健で。

① 楽しんでやる
② 定期的に決めてする

③　同じ年齢同志でする
④　前晩調子の悪い時、状態によりやめる。
⑤　勝ち敗けにこだわらない

湖岸緑地の管理

近江八幡支部
七期生園芸学科　中谷　清司

湖岸緑地西の湖園地の管理業務を数年前から北之庄老人クラブが受託している。

よし笛自転車道に面した島で風光明媚な場所である。親子づれ、友人、魚釣り、和舟からの上陸者、野鳥の会など実に多くの方々で利用されている。

作業は樹木の管理、休憩所、便所の掃除、草刈など重労働である。時には「ご苦労様です」と労いの言葉をかけられると日頃の苦労が嬉びとなる。

休憩所、案内板などの施設を破損させる人がありその悪戯が絶えないので困っている。皆んなの公共施設、大切に利用願いたいものである。

北里学区ボランテイァ

近江八幡支部
十期生生活科学科　芝　きくゑ

私達北里学区はボランテイァの会名をあゆみ会と名づけ町づくりに活躍しております。なかなか皆さんが入会して下さらなく少ない人員で張切ってます。私も其の一人です。夏には缶拾い又毎年一回十一月三日文化の日に公民館で文化祭がもようされ其の時に皆さんが牛乳パック又半布を工夫していろいろな物を作り安く販売致し売上金を年の暮に寝たきりのお方にお見舞するのです。少しのお金ですが私達の心こもった贈り物です。大へん喜んで戴け本当に良かったと思います。今後もますます力を合せて多くの人達に喜んで戴けるよう頑張って行きます。

十三謡会

十三期生文芸学科　守　淳子

県下各地から入学された同じ趣味を持つ、友らと共に机を並べ学んだ二年間の地域の交流、心の触れ合う温い人間関係、見学、旅行、運動会など事ごとに楽しみ団結した二十六名の交友を得たことは、何にも替え難い人生の一頁となりました。

学友の中に趣味として習字、謡曲、冠句などの先生がおられ誰が言うとなく、在学中に謡曲を習い卒業後も続け、老大の友情の絆にしようと言う声が出ました。さいわい事務局の賛同を得て月二回、必修講座の後一時間習うことになりました。

十三期生文芸科十二名（男六名女六名）のグループの十三謡会が平成四年五月に誕生しました。謡曲を習った人は一人で初めての人ばかりです。先ず発声法から習いました。お腹の底か

ら声を出す事は難かしく謡うと言うより唸っていると言う方で笑いが止まず、室外で大笑いをして戻って来る人もあり、仲間の気安さから遠慮なく、お互いに笑い合いながら楽しく明るい雰囲気の中で、生徒の希望の小謡から習っています。卒業後は皆様にお出合い出来ることが何よりの楽しみとしています。

初謡には、徳江元正謹作、二十六世観世清和謹曲の、御題小謡〃空〃を習いました。

編物、手芸の座り仕事の私には、お腹の底から声を出すことがなく、健康のためにも老化の防止にも最高と家族の留守の間に練習しています。

謡曲の他に漢字、仮名の習字グループも出来ました。共に末長く続け豊かに明るく健康な人生でありたいと念じています。

一、老いの明日を豊かに生きむと謡曲を学ぶ仲間の十三謡会成る

二、つね追はれし平成四年の早や逝くか眠れぬままに来しかた思ふ

(アララギ派吉田正俊先生)

三、召人に選ばれまし吉田先生に心弾みてその日を待ちぬ

四、初謡明日を豊かに生きむとす

仲間

湖北支部

十一期生陶芸学科　大濱寛一郎

私達びわ町陶芸部の仲間は結成してかれこれ十年、遅々ながらもそれぞれに目標を定め生き甲斐として育ててまいりました。その概要を報告いたします。

1. 会員数　十八名(男十、女八)
2. 教　室　月一回　びわ町老人福祉センター
3. 指導者　長浜市　川崎佐玄先生
4. 設　備　電気窯・電動ロクロ各一台
5. 会　費　年会費　五千円
6. 研修会　年一回　町福祉バスにて先進地見学
7. 作品展　町文化祭に展示
8. 反省会　年二回程度　作品を持寄り懇親会
9. 助成金　町より年四万円程度

10その他　会員中三名個人にて灯油窯を購入

毎年新年度に部長を定め、年間の予定表の作成、粘土釉薬の注文等雑務のお世話をします。

本年度は初めて文化祭に作品の即売会を実施しました。百円から千円程度の小品ばかりで売上金約六万円、半額の約三万円を歳末たすけあい募金に寄付、今まではただ作る楽しさと、人にあげて喜んでもらえるのが楽しみで励んできましたが、売る

となると又別の意欲も湧いてきます。いずれにしてもまだまだ未熟で一層の精進努力の必要を痛感しています。
　何分にも七十歳を超える老人が大半で努力も進歩もぼちぼちですが、お互いが助けあいながら夢中になれるものをみつけた張りのある毎日が私どもを支えてくれています。健康で好きなことがしていられるしあわせに感謝の気持を忘れずこれからも頑張ります。拙文にておはずかしく参考にもなりませんが以上にて終ります。

手をつなぐ老大同窓生

湖北支部

十一期生文芸学科　林　春三

　手をつなぐ老大の同窓生とは心をつなぐ親睦でなければならない。それにはどうするのか、文通による交流もよいと思うが、進んで会合の場を持つことが一番肝要であると考える。そのため我等第十一期生の文芸学科の同窓生は年一回を郡、市部持ちまわりをして、時を得て会合し一献傾け乍ら美食を共にして歓談するのである。そしてその開催地の名所、旧蹟を訪ねて見聞を深め、県下に視野を広めるよう温故知新、以て旧交を温めている。第一回は坂田郡山東町にある日本一といわれる大燈籠が建てられた鴨の棲息する三島池を散策し、老人センターの三島荘を見学その後その地先の料理店で親睦の宴を行い、文芸学科の講師であった先生を迎え楽しい一日を過したのである。
　又第二回目は近江町の近江の里を見学し、盆梅で有名な長浜市の慶雲館に樹齢百年を越える老幹に馥郁として館に満つ好文木に佇ち尽し、その　しさに胸を打たれたのである。次回は南部で只今計画中で期待楽しく待ちわびている昨今で、こうした輪に和を拡げ親睦を深めそして文林、詞林の道を訪ね風交を重ねて詩歌に健吟したいと思う。
　斯くして滋賀県老人大学米原校の良き伝統を継承し、生涯学習としての国際化、情報化、更には文化と文芸の向上を図り切瑳琢磨し、老人の生甲斐を高めることこそ我等老大同窓生の責務ではないだろうか。
　地域では老人クラブの育成と先駆者としての指導的立場を考えながら協力、助力をもって自分も自立と共生を旨として、残照を輝やかせ乍ら社会に貢献することが大切であると思う。
　わが町の老人クラブ連合会としては一昨年町会議員と語る会のセミナーを開催して好評を得た。老人福祉と、老人の生甲斐等語り合い、初めての企画で期待がもたれたが成功裡に終ったのである。尚本年は町行政と福祉の町づくりを聴く会を二月十八日に開催し、福祉の概要説明を聴くことにしている。
　次は文化活動であるが特に詩情豊かな我が町伊吹は秀峰伊吹の聳える自然美を持つ桃源境そして壷中の天の境地でもある。

それ故文芸に趣味を持つ同好者が多く、尚初心者のための勉強会を町老ク連が中心となり青壮老年、男女を問わず開催している今日この頃である。当町では古くから伊吹吟社（文芸）があり会員も多く最近では女性の斯の道への参加者も増え喜ばしい限りである。

斯くして我等老人大学卒業生は誇りを持つと共に、地域のリーダーとしてその力を充分に発揮し良習を伝え、後に続く者に老人大学入校を勧奨し、同窓会の益々弥々の発展と、同窓生各位の愈々のご健勝ご多幸を祈念し、目前に迫る二十一世紀の明るい世界を夢見て終りとする。

平成5年度　定期総会次第

1. 開会のことば
2. 国歌斉唱
3. 黙　　禱
4. 同窓会憲章朗読
5. 会長挨拶
6. 感謝状贈呈
7. 来賓祝辞
8. 議長選出
9. 議　　事

　　第1号議案　　平成4年度事業報告及び会計報告

　　第2号議案　　平成5年度事業計画及び予算案

10. 決　　議
11. 校歌斉唱
12. 講演「伝えていきたい民族風習」綿向ホール　　　瀬川欣一氏
13. 閉会の言葉
14. 昼食（解散）

担当支部　（近江八幡支部）

平成四年度　経過報告の概要

（本部）

4月18日　支部長会　総会について・会計監査・役員人事等について

5月8日　役員総会　平成4年度事業について
　　　　総務・研修・広報各部会

6月12日　同窓会　県総会　彦根市

7月31日　公開講座「高齢者福祉と痴呆性老人ケア」
　　　　ミケルセン氏　他

10月1日　国内研修旅行　奈良・法隆寺・高松塚等

12月2日　役員総会　海外研修旅行について
　　　　平成5年度の総会について

2月12日　広報部会

3月6日　公開講座「相撲と人生」　二子山勝治氏

平成五年度　事業計画

4月26日　会計監査
　　　　役員総会（総務・広報・研修部会）

5月12日　広報部会　第11号発刊作業

6月22日～26日
　　　　中国旅行　上海・北京　その他

7月30日　滋賀県老人大学校・同窓会成果展出品申込〆切

9月1日　滋賀県老人大学校成果展作品搬入

9月3日　老人大学校創設15周年記念行事（予定）

9月3日～7日
　　　　成果展（同窓会・大学校合同）

9月6日　同窓会総会　長寿社会福祉センター

9月22日　運動会（大学校独自行事）

9月30日　卒業式（大学校独自行事）

11月　京都大原　研修旅行

11月26日　入学式

平成4年度
終身会費収支決算報告書

（単位：円）

収入の部		支出の部	
終身会費（13期生含む）	210,000	定期預金通帳へ	500,000
前期繰越金	83,370	次期繰越金	104,016
通帳利子	646		
中川長三会長より	300,000		
奥村由三郎氏より	10,000		
合計	604,016	合計	604,016

上記のとおり報告致します。

平成5年4月12日

野田　まり子　㊞

監査の結果、収入支出ならびに帳簿等が正確であると認めます。

平成5年4月26日

中田　芳雄　㊞

田井中　元一　㊞

平成４年度
同窓会会計収支決算報告書

（単位：円）

収入の部		支出の部	
会費	980,000	報奨費	16,000
前年度繰越金	286,265	旅費	87,800
通帳利子	17,799	会議費	116,260
雑収入	14,700	総合活動費	72,250
		慶弔費	35,986
		役務費	38,210
		需要費	14,400
		次年度繰越金	917,858
合計	1,298,764	合計	1,298,764

上記のとおり、ご報告致します。

平成５年４月12日

野田　まり子　㊞

監査の結果、収入支出ならびに帳簿等が正確であると認めます。

平成５年４月26日

中田　芳雄　㊞
田井中　元一　㊞

平成４年度　同窓会会計収支決算報告書

（収入の部）

会　　　費	980,000	13期入会金含む
前期繰越金	286,265	前期繰り越し金
通 帳 利 子	17,799	重複分（14, 569）＋利子（2, 159 ＋ 1, 071）
雑　収　入	14,700	バッチ代
合　　　計	1,298,764	

（支出の部）

報　償　費		16,000	奈良研修旅行説明謝礼
旅　　　費		87,800	役員会旅費
会　議　費		116,260	
	食糧費	57,360	役員会食事賄い代
	賃借料	58,900	〃　借上料
総合活動費		72,250	
	助成費	22,250	奈良研修旅行負担金
	印刷費	0	
	賃借費	50,000	総会会場借上料
慶　弔　費		35,986	
役　務　費		38,210	切手、各種送料代
需　用　費		14,400	
	印刷費	0	
	消耗品	14,400	賞状額、用紙たて
合　　　計		380,906	
次期繰越金		917,858	

上記のとおり、会計収支決算をご報告致します。

平成５年４月12日　　　　野　田　まり子　㊞

平成４年度
同窓会会計収支決算報告書

収入の部		支出の部	
会費	980,000	報奨費	16,000
前年度繰越金	286,265	旅費	87,800
通帳利子	17,799	会議費	116,260
雑収入	14,700	総合活動費	72,250
		慶弔費	35,986
		役務費	38,210
		需要費	14,400
		次年度繰越金	917,858
合計	1,298,764	合計	1,298,764

上記のとおり、ご報告致します。

平成５年４月12日

野田まり子 ㊞

平成５年度　会計予算（案）

（収入の部）

区　分	本年度予算額	前年度決算額	摘　要
会　費	978,000	980,000	
繰り越し金	917,858	286,265	
雑収入	31,000	32,499	バッチ代　利子
合　計	1,926,858	1.298,764	

（支出の部）

区　分		本年度予算額	前年度決算額	摘　要
報償費		50,000	16,000	
旅　費		90,000	87,800	
会議費		120,000	116,260	
	食料費	60,000	57,360	
	賃借料	60,000	58,900	
総会研修活動費		1,000,000	72,250	
	助成費	250,000	22,250	
	印刷費	700,000	0	
	賃借料	50,000	50,000	
慶弔費		30,000	35,986	
役務費		40,000	38,210	
	通信費	40,000	38,210	
需要費		20,100	14,400	
	印刷費	100	0	
	消耗品費	20,000	14,400	
予備費		576,758	－	
合　計		1,926,858	380,906	

平成５年度　滋賀県老人大学校同窓会役員名簿

役職名		氏　名	住　所	〒	☎	備考
会　長		中川　長三	東浅井郡	526−01	0749−72−2382	
副会長		中村　標雄	大津市馬	520	0775−23−1906	
支部長理事	高島	遠藤　滋	高島郡新	520−15	0740−25−2816	総務
		鎌田　成治	高島郡安	520−12	0740−32−3009	研修
	大津	下司　清	大津市際	520	0775−25−0713	研修
		磯田　善通	大津市神	520−21	0775−45−0482	広報
	湖南	藤本　龍三	草津市野	525	0775−62−4732	総務
		中村　勝一	守山市吉	524	0775−82−3471	広報
	甲賀	島田寅次郎	甲賀郡水	528	0748−62−2435	研修
		千代倉太郎	甲賀郡甲	520−32	0747−72−2964	広報
	湖東	野沢　政次	蒲生郡日	529−16	0748−52−2551	広報
		木俣　信一	八日市市	529−16	0748−46−5010	総務
	近八	安倍　勉	近江八幡	523	0748−37−7011	総務
		村井　繁	近江八幡	523	0748−37−0869	研修
	彦根愛犬	野中　正	彦根市平	522	0749−23−3387	研修
		西堀　嘉一	愛知郡湖	527−01	0749−45−2216	広報
	湖北	森　量海	長浜市常	526	0749−62−3910	総務
		松下　保清	坂田郡米	521	0749−54−2395	研修
監　事		中田　芳雄	神崎郡能	521−12	0748−42−2234	
		田井中元一	神崎郡能	521−12	0748−45−0076	
幹　事		中村　標雄	上記に同			
		堀野　徳雄	大津市竜	520	0775−67−3901	電話は事務局
会　計		森安　孝子	近江八幡	523	0775−67−3901	

平成５年度　滋賀県老人大学校同窓会役員名簿

役職名		氏名	住所	〒	☎	備考
会長		中川　長三	東浅井郡	526−01	0749−72−2382	
副会長		中村　標雄	大津市馬	520	0775−23−1906	
支部長理事	高島	遠藤　滋	高島郡新	520−15	0740−25−2816	総務
	高島	鎌田　成治	高島郡安	520−12	0740−32−3009	研修
	大津	下司　清	大津市際	520	0775−25−0713	研修
	大津	磯田　善通	大津市神	520−21	0775−45−0482	広報
	湖南	藤本　龍三	草津市野	525	0775−62−4732	総務
	湖南	中村　勝一	守山市吉	524	0775−82−3471	広報
	甲賀	島田寅次郎	甲賀郡水	528	0748−62−2435	研修
	甲賀	千代倉太郎	甲賀郡甲	520−32	0747−72−2964	広報
	湖東	野沢　政次	蒲生郡日	529−16	0748−52−2551	広報
	湖東	木俣　信一	八日市市	529−16	0748−46−5010	総務
	近八	安倍　勉	近江八幡	523	0748−37−7011	総務
	近八	村井　繁	近江八幡	523	0748−37−0869	研修
	彦根愛犬	野中　正	彦根市平	522	0749−23−3387	研修
	彦根愛犬	西堀　嘉一	愛知郡湖	527−01	0749−45−2216	広報
	湖北	森　量海	長浜市常	526	0749−62−3910	総務
	湖北	松下　保清	坂田郡米	521	0749−54−2395	研修
監事		中田　芳雄	神崎郡能	521−12	0748−42−2234	
		田井中元一	神崎郡能	521−12	0748−45−0076	
幹事		中村　標雄	上記に同			
		堀野　徳雄	大津市竜	520	0775−67−3901	電話は事務局
会計		森安　孝子	近江八幡	523	0775−67−3901	

滋賀県老人大学校同窓会会則

第一条（名称）
本会は、滋賀県老人大学校同窓会と称する。

第二条（会員）
本会は、滋賀県老人大学校卒業生をもって組織する。

第三条（事務所）
本会の事務所は、滋賀県老人大学校本部内におく。

第四条（目的）
本会は、会員の親睦および老大の発展に寄与することを目的とする。

第五条（支部）
本会に支部を設け、前条の目的達成をはかる。

第六条（事業）
本会は、前条の目的を達成するために、左の事業を行なう。
1. 総会　2. 研修会　3. 老大後援活動
4. 会報と新聞の発行　5. その他の事業

第七条（事業部）
本会に事業部をおき、支部長、理事をもって構成し各部員は会長が委嘱し、部長は部員の互選による。
1. 研修部　2. 総務部　3. 広報部

第八条（役員および役員の選出、任期）
本会に次の役員を置く。
1. 会長一名　2. 副会長一名　3. 理事、各支部二名（支部長および支部選出者一名）　4. 幹事二名（会員、事務局から一名）　5. 監事二名。

役員の選出方法
会長及び副会長は、役員会によって選出する。
理事は、各支部から選出する。
監事は、各支部が交替で二名選出する。

役員の任務
会　長　本会を代表する。
副会長　会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代行する。
理　事　本会の運営に当たる。
幹　事　本会の事務を処理する。
監　事　会務、会計を監査する。

役員の任期
役員の任期は二年とする。但し再任は妨げない。

第九条（会議）
総会は、会長が招集し、議長は会員の中から選出する。
総会の議事は、出席者の半数以上の同意をもって決する。

第十条（顧問）
本会に顧問を置くことができる。

第十一条（経費および会計年度）

本会の経費は、会費をもってこれに当てる。

会費は、終身額一〇、〇〇〇円とする。（A会員）

但し、年額一、〇〇〇円ずつの納入を認めるものとする。（B会員）

会計年度

本会の会計年度は、毎年度四月一日から始まって、翌年の三月三十一日をもって終わる。

付則

本会則は、昭和五十五年十月一日から施行する。

（改正）昭和五十七年十月一日から施行する。

（改正）昭和六十年四月一日から施行する。

（改正）昭和六十一年四月一日から施行する。

（改正）昭和六十二年五月二十三日から施行する。

（改正）昭和六十三年六月二十二日から施行する。

（改正）平成元年八月二十五日から施行する。

滋賀県老人大学校同窓会憲章

1. 互いに助け合い、高齢者社会を生きる資質と実践力を高めあう。

2. 心身の健康を保って、社会活動に積極的に参加し、高齢社会の支柱となって働こう。

3. 古き良きものを伝承し、新しきを生み出して、郷土社会の健全な発展に尽くそう。

4. 会員の研修及び老大の発展に寄与する活動を積極的、持続的に推進しよう。

5. 社会の発展に即応する高齢者像の具現のために励みあい、提携し合う輪を内外に広めよう。

昭和五十七年三月八日制定

滋賀県老人大学校同窓会

滋賀県老人大学校同窓会表彰内規

第１条　老大卒業生で、地域指導者として老人福祉の増進に寄与した者を顕彰するため会長表彰を行なう。

第２条　表彰の区分

1. 地域社会において、指導者として永年活躍し、老人福祉の増進に貢献した者
2. 老人大学校において、学習した成果を生かした創作活動を長年続け、老人福祉に貢献した者
3. 滋賀県老人大学校同窓会の運営に多年従事し、同会の発展につくした者
4. 特別表彰　上の各号の他で功労顕著な者

第３条　表彰の方法

1. 内申は同窓会各支部から内申のあった者について、会長が本会の委員会に諮って決定する。
2. 表彰は原則として、本会の県定期大会か、記念大会において表彰する。
3. 表彰は表彰状と記念品を贈って顕彰する。

第４条　この内規は平成３年４月１日より施行する。

編集後記

広報部長　林　秀一

世界的な不況に、見舞われ日本も、バブルの崩壊とドン底経済に引き込まれた。こんな時、一月に入って浩宮徳仁皇太子の御結婚が、噂にのぼり、世界中に此の話が、駆け巡った。御相手は、外交官の、小和田雅子さん。噂は本当だった。皇太子の誠実で真摯な態度に、小和田雅子さんも、御結婚を承諾された様子、一月十九日皇室会議が開かれ、満場一致で承認された。皇室へ嫁ぐことには、相当な決断がいった事であろう。「全力を上げてあなたを御守りする」と妃を要請された。美智子皇后様も、昔を偲ばれて、御喜び一夕だったと、推察される。世界中の人々が御成婚を御祝しない者はあるまい。

又、此の年、アメリカの大統領の交代があった事も特筆すべき事柄であろう。四十六歳という日本では考えられない若さである。国民が変革を求めている、表われである。日本でも、元竹下総理の退陣を要求する声が起きたり、与・野党共に政策が不明瞭になって来ている。

先日、草津市では、市長選挙が行はれた。高田氏と藤井氏の一騎打ちとなった。高田氏は現職の強みもあり、当然、勝をえたが、得票率では一／三が高田氏の批判票であった。高田氏はうっかり、してはいられん。と思われた事であろう。生きて世の中が動いている証拠である。

発行所

草津市南笠町新池一一〇ー一

滋賀県老人大学校

同窓会事務局

平成五年九月六日　発行